は稀です、結核患者の結婚生活、殊に妊娠によつて惡影響を來すことは明かな事で、妊娠を回避するか中絶を行ふかしなければ、母體の危險を來すことがあります、然るに結核患者は病勢の進行せぬ初期の間は却て性慾の亢進を來し、妊娠力も旺盛である結果、一度妊娠すると全身の機能に變調を來し、身體の抵抗力弱り、病勢惡化するやうな事もありますし、もし無事分娩産褥を經過したとしても、其生れた子供は母の體質を受け、虚弱な子供となる事が往々あります、故に結婚生活に入るに際しては愼重に考へ、醫師の診察の結果、結婚生活に堪へ得るや否やを、相談せねばなりませぬ。

カリエスとの診斷を受けたが

二十一歳の男、本年始めから歩行徐々に困難となり、四月頃からは下肢不隨となり、脊椎カリエスとの診斷を受け、ギプスベットを使用して居りましたが、他の醫師の診斷では病氣は腰部にありといふのです、血液檢査の結果陰性で、他に病氣はありません、如何なる病名でせうか。(藤枝、横山)

一度診察の上でなければはつきりしませんか、一應レントゲンの寫眞を撮つて見られては如何かと思ひます、勿論脊椎カリエスの時などにも歩行障碍を來すことがありますから、最初の醫師の診

察が當つてゐるかも知れません。

二三、リウマチス

リウマチスの原因と其手當

リウマチスで惱んで居る者、病の原因を醫師に尋ねても確な返答をしてくれません、それから其手當を。(芝、丸山)

此病の原因は未だ明かではありません、昔から感冒をリウマチスの原因として來たが、現今では傳染病の中に入れて居ます、病毒の侵入門戸は、恐らく扁桃腺ではないかといはれて居り、温帶地方及び寒冷で變り易い春秋に多く、夏は極めて稀です、感冒、過勞、外傷等は此病氣の誘因となります、そして一度罹れば感受性を増して、度々繰返します、慢性の場合と、急性症から移行する事もあるし、最初から慢性症として起る事もあります、慢性症のは老人に多いやうです、種類は關節のと、筋肉のとあります、治療法としては急性症の場合は絶對安靜に、室内の温度は攝氏二十一二

度位、食物は流動物、サルチル酸劑を內服して、榮養品を豐富に攝る事に心がけ、慢性症の場合は服藥は急性症に於ける程效はありません、電氣療法、太陽燈照射等はよく、關節の强直にはマッサージ、温浴（硫黃浴）氣候不順の季節には轉地療養もよいでせう、近時諸種の注射藥が廣く用ひられて居ますが、一時的のものが多いやうです。

リウマチスの適當なる藥劑

全身關節リウマチスで惱んで居る者、殊に手足に强く感じます、常に解熱劑を用ひて居ますが、他に然るべき藥劑あらば。又尿が黃色です、どうした譯でせう。（安蘇郡、栗原）

關節リウマチスの藥劑療法としては、サルチール酸ナトリウム、ザロールアスピリンなどが主に用ひられ、これに次いで甲狀腺エキス、クレオソート、炭酸グアヤコール、沃度カリウム、亞砒酸等も用ひられます、其他種々の注射藥もありますが、大同小異です、又電氣療法、光線療法、局部温罨法、マッサージ、温泉療法もよい、事情が許すなら温和な土地に轉地するなどはよい事です、尿は熱のある時などは黃色になりますが、檢尿の上でなければ確な事は申されませぬ。

二四、神經痛

神經痛に惱む

三十二歲の男、神經痛で惱んで居ります、殊に寒くなるとひどいやうです、心臟も弱く酒は好きですが、節酒に努めて居ます、適當の養生法を御敎へ下さい。（神田、西生）

先づ神經痛を起すべき原因を除く事が第一です、卽ち、もし貧血に原因して居るなら、食餌養生をして鐵劑や砒素劑等の强壯劑を、もし黴毒に原因して居るなら驅梅療法を行ふやうになさるべきです、然し眞の原因は不明ですから治療もなかなか困難ですが、電氣療法、マッサージ、温浴、注射等は一般に有效です、又內服藥はレウマチス性神經痛にはサルチール酸ナトリウム、アスピリンなどを用ひますが、其他場合によつて種々の藥を用ひます、あなたの神經痛は、何が適應かは診察の上でなければわかりません、節酒に努めて居らるゝのは結構ですが、もう一歩進んで禁酒なさる事をおすゝめします、其他煙草も刺戟性食物もよくありません。

數年來の神經痛

——昨今歩行困難——

二十六歳の男、數年前から輕い神經痛でしたが、昨秋頃からは漸次重態になり、最近は朝夕歩行も困難で、日夜惱んでゐます、心靈治療者は坐骨神經痛といふのですが、適當の治療法を。（淺草得丸）

果して坐骨神經痛であるか、股關節部の疾患に因るものか、お手紙だけではつきりしませんが治療法は坐骨神經痛として申ます、それにはやはり一般神經痛に於ける如く、安靜にする事と冷やさぬ事が大切で、其他局所誘導法として、發疱膏を坐骨神經の經路に貼付するも平流電氣を神經の經路に沿つて通ずる事も、其他マッサージ、運動練習、牽引法を行ふも温泉浴もよい、內服藥としては撒曹、アスピリンなどのサルチール酸劑及び沃度劑を用ひ、疼痛激しい場合は石炭酸コカインを坐骨神經孔部に注射することもあります、序に服藥の處方を示せば、アスピリン三・〇、鹽酸モルヒネ〇・〇二、重質煆製マグネシア二・〇、右分六包二日量每食後三十分服用、尙一應血液檢査をも受ける必要があります。

坐骨神經痛

——冬になると惱さる——

三年前から、冬になると坐骨神經痛で困つて居ます、夏でもよいといふ事はあらゆる方法をして見ましたが、やはり冬になると出て來ます。（兩國、山田）

坐骨神經痛を起し易い人は、日頃から感冒やリウマチス性の影響を受け易い故、是等に對する豫防法及び治療法を怠らぬやうにする事が必要です、それには温泉或は轉地療法を行ふもよいでせうが原因となるべき疾病のある人は、それに對する治療をしなければなりません、一體に脚を冷やす事はよくないから安靜にして脚部を温包する事もよく、又局所誘導法として發疱膏を坐骨神經の經路に貼るのも多少有效です、極めて慢性の場合では、マッサージ及び運動練習、電氣療法もよく、又石炭酸コカイン水を注射する事もあります、內服藥としてはアスピリン、撒曹、フエナセチン等を用ひます。

坐骨神經痛

——モルヒネ注射後——

昨年十二月から坐骨神經痛に罹り、痛みがひどかつたので、モルヒネ注射をした處、腰から足へかけて痲痺を來し、一時大小便不通となり、器械で通じるやうになりましたが、今日に至る迄まだ痲痺去らず、難儀して居ます。（板橋、吉本）

電氣マッサージなど精出して御覽なさい、尙一應外科醫に診て貰はねばなりません。

肋間神經痛

肋間神經痛にはどんな藥が最もよいでせう、次の處方のは如何でせうか、サルチール酸ナトリウム四・〇、臭素カリウム三・〇、鹽酸モルヒネ〇・〇一、重炭酸ナトリウム三・〇、苦味丁幾二・〇、水一〇〇・〇、一日三回分。（新潟縣、大谷）

肋間神經痛に限らず、神經痛には主としてサルチール酸劑が用ひられます、サルチール酸ナトリウムでもアスピリンでもよい、お擧げになつた處方は結構です、然し先づ原因が何からかを調べねばなりません、そしてもしも梅毒性であつたら驅梅療法、貧血性のものなら砒素劑、鐵劑といふやうに、それ〳〵適當の處置が必要です。

指先が顫へる

五六年前頸筋から左腕にかけての神經痛を患つた者、近頃目立つて指先がふるへるのです、中風になるのだと申す者もありますが、日常の食物には關係ありませんか、年は二十三歳です。（淺草、相澤）

年齢からいふても、中風とは考へられません、神經痛が再發したのでせう、然し一應內科醫の診察をお受けなさい、別段今食物につき選定する必要はないと思ひますが、肉食に片よらず、野菜食を攝り、便通を整へなさい。

二五、黃　疸

溶血性黃疸と脾臟除去

溶血性黄疸に罹つて居る者、脾臓肥大ゆゑ除去せねば全快せぬと申されましたが、脾臓とは、何處にあるどんな臓器で、除いても身體に障らないでせうか、生命はどのくらゐ保ちませう、年は二十七です。（芝新堀、坂本）

溶血性黄疸では、脾臓の摘出が唯一の療法ですし、脾臓は萬一除いても骨髄で代償しますから差當り差支へないのです、脾臓とは左の期肋部邊（左の上腹部）にある造血臓器です、豫後は合併症のない限り生命に對する危險はあまりありません。

肝臓疾患から黄疸併發

四十歳の男子、一ヶ月前肝臓疾患から黄疸を併發し、醫療（腹中洗滌）の結果治りましたが、昨今再發の兆候あり、食後二三時間で腹部壓迫を感じ、不快でなりません、目下消化藥と下劑を併用して居ますが、適當の治療法をお教へ下さい。（浅草、大島）

黄疸を起す肝臓疾患は種々あるので、一概には申されませんが、お手紙の様子では單純なカタル性黄疸であらうと思ひます、それには其原因に對する治療をすると同時に、胃腸炎の治療をしなければなりません、それに最も必要なるは食餌養生です、即ち固形物を禁じ、脂肪類を避け、重湯、

葛湯、スープ、脱脂乳（或は茶やコーヒーに牛乳を混じて用ひるもよい）等、主として澱粉食を摂り、アルコール類は勿論禁じ、過激な運動を避け、感冒にかゝらぬやうに注意し、藥劑は便秘を防ぐべく硫酸マグネシア、及びアルカリ劑、牛膽、人工カルルス泉鹽、大黄等を用ひます、尚常に尿の檢査をお受けなさい。

二六、癌

もしや癌では

三四日間少量の子宮出血あり、醫師の診察を受けましたが、原因不明でたゞ喇叭管炎と子宮内膜炎との事ですが、もしや癌などの前兆ではないかと思ひます、レントゲンで見て貰へばわかりませうか又もし普通の姙娠だつたらレントゲンは流產の恐れがありませうか、年は三十八歳です。（巣鴨、大川）

醫師の診察を受けての事ですから、癌の心配はないと思ひますから、レントゲン寫眞を撮る必要

はないかと思はれます、然しレントゲン寫眞で流産の心配はありません。

若しや胃癌の下地でないか

昨年の十二月中頃から、食後すぐ腹痛激しくなりましたが、年末の事でもあり胃腸藥で我慢して居ましたが、だん〳〵と腸よりも胃の方がひどくなり、診察の結果盲腸が惡いとの事故、粥食、パン等で、食養生をした爲か腸はよくなりましたが、胃の邊が重苦しく、少しでも固形物を喰べると肩が痛くなり、目まひがするやうになり、はかばかしくないのです、若や胃癌の下地ではないかと案ぜられ今の中手術してはと思ひますが、胃癌の容體はどんなものでせうか、年は四十歳です。（大森、本橋）

以上の容體だけで胃癌であるとは診斷出來ませんが、胃癌は年齢からいへば、高年の人に多く、食慾缺乏し、殊に肉類などはいやになり、胃部重苦しく膨滿し、けつぷが出たり、漸次羸瘦を來し次いでは痛みを覺えたり、嘔吐を催したりして來ます、そして其吐いた物の中には珈琲樣のものゝある事もあり、これ卽ち血液で、其頃には既に上から觸れて見て腫瘍を感ずる樣になる事もあります、次いで他の臟器に傳はつて惡液質に陷り、貧血等の症狀を呈して來ます、又胃液の檢査を行へば游離鹽酸は減少して乳酸の反應を呈したりして來ます、萬一胃癌の診斷がついたら一日も早く手

術を行ふ事が唯一の治療法です。

咽喉癌かと心配

本年二年頃、風邪の爲め咽喉を痛め、一旦治りましたが、夏からは咽喉の奥の方が狹くなつたやうな感じがして、發熱したりしましたから、醫療を受けました處、單なる咽喉カタルとの事、治療を受けて居ますが、一向に效果なく、咽喉癌ではなからうかと心配して居ます。（瀧野川、手島）

癌などの心配はありません、咽喉のカタルでせう、先づ其原因を除く事が必要です、卽ち若飲酒喫煙の習慣があつたら中止し、高聲、長話、或は塵埃を吸入するやうな機會に遭はぬやうに注意し慢性の呼吸器系疾患、其附近の炎症などある時はそれに對する治療を行ひ、局所療法としては一日二回位ルゴール氏液の塗布及び常に二%の硼酸水の含嗽、濕布、吸入等も同時に施し、室內を乾燥させぬやう蒸氣を立て、冷たい外氣を避け、飲食物もなるべく刺戟性のものは控るやうにして御覽なさい。

食道癌

二十一歳の男子、食事毎に胸につかへて困ります、就いては別段悪い處はありませんが、冷性で冬になると手足が冷えて下腹が張つて來ます、食道癌の心配はないでせうか。（桐生、松村）

年齢からいつても食道の癌腫などの心配はありますまい、食餌の攝生を重んじ、胃腸を整へ、適度の運動をして血液の循環をよくするやうに心掛け、同時に冷水摩擦等を行ひ、皮膚の抵抗力をつけて御覧なさい、又貧血でもして居るやうなら鐵劑かビタミンAなどを服用し、食事はあわてず靜かにお攝りなさい。

乳癌の手當

五十八歳の母、五六年前から左の乳首の下に腫物か出來、診察の結果癌腫で手當がない、若し他で診察を受け、手當があつてもほんの氣休めとの事ですが、子として母の病氣を二三の醫師の言を信じ、不治としてこれ以上手當せず居る事は出來ません、病氣は全治せずとも進行を止める位の方法はないでせうか。（桐生、須藤）

乳癌と決定した以上、手術的除切によるが最もよい方法ですが手術の時期を失した場合不可能のこともあるでせう、然し猶手術によらねば治療は困難です、手術絶對に不可能のものにはエキス光線、ラヂウムを行ふ事もあります、一應外科專門醫の診察をお受けなさい。

十八で肝臟癌

——治療法と豫防を——

十八歳の妹、鄉里の醫師ではわからず、京都帝大まで行き、二週間入院の後肝臟癌と判明しましん、手術は出來ぬものでせうか、豫防は如何でせう。（下谷、丸山）

病名さへ判れば鄉里の醫師でもと退院を許され、療養中ですが一月半にもなるのに良い方に向ひません

肝臟の痛腫は年齢からいへば四十歳から六十歳位までの人に多い病氣で、お妹さんのやうな年頃には珍しい事です、治療法は手術も出來ぬ事はありませんが、效が少ないやうですから對症療法によるより仕方ありません、兎角豫後は不良です、尙今一應專門醫の診察を受けられるやう望みます。

二七、中　風

絶えず半身が痛む

四十七歳の女、四年以前發病し、半身が絶えず痛み、且しびれます、簡單な自宅での用事はして居りましたが、先頃再發し一時不自由になりしも、昨今やつと自分用は足りて居ます、普通の中風でもないやうですが、他の病氣が併發して居るのでせうか。（馬道、栄）

合併症があるかどうかは、診察の上でなければわかりませんが、兎に角現在に於ける血壓の測定尿の檢査等精細な診察を受ける必要があります、かくて後醫師の處方により服藥なさい、半身不隨に對しては、あせらずに、マッサージや電氣療法でもして再發を豫防する樣心掛くべきで、それには第一に食餌の撰生を守らねばなりません、いつもいふ事ですが、野菜食を主とし、刺戟性のものは避け、其他便通の整調、不適當な生活をせず、心身の安靜を保ち、過劇な運動、努責、勞働、精神感動は禁物です、冷浴や熱浴もよくありません、尙一應血液檢査を受けた方がよい。

廿三歳の娘半身不隨

二十三歳の娘、一昨年八月十五日に發病今以て右半身不隨で、自分の用も思ふにまかせません、醫師はエンボリーとか申しますが、如何したらよいものでせうか。（小田原、宮內）

多分腦動脈の栓塞だらうと思はれますが、果してさうであつたら、通常心臟疾患或は心臟衰弱によつて血栓をつくる時に起るもので、時には大動脈疾患の場合、稀には肺壞疽腐敗性氣管支加答兒等の場合、肺動脈から起る事もあり、又動脈血栓の崩壞の爲に腦栓塞を起す事もあります、恰も腦溢血の樣に中風の發作を起し、娘さんの樣な症狀を呈して來る事もあります、豫後は不良で再發の恐れもあります、手當は腦出血の場合と同樣で、靜かに寢かし置き、原因をたしかめ、其原因に對し治療し、醫師に任すより外ありませぬ。

半身不隨の父

——其注意藥品等——

七十二歳の父、三四年前までは普通以上の健康體でしたが、非常に酒を好む方で、終日酒氣を離せ

ず居た位でしたが、四年前一寸した精神感動から卒倒し、半身不隨となり、少しは歩けて居たのも今年度からは全然叶はず、臥床中です、當人は非常に悲觀して今一度歩けるやうになりたいと申して居ますが、同病に必要な注意事項、藥品等お教へ下さい。（仙臺小山、白金八重子）

先づ再發せぬやうに豫防法を講ぜねばなりません、それには最も必要なるは心身の安靜、即ち身體の過勞、精神感動を避け、食物はアルコール性飲料、刺戟性食物を禁じ、消化しやすいものを選び、主として野菜食とし、便通を整調し、怒責、冷浴、熱浴等動脈破裂の原因となるやうな事は努めて避けるやうにせねばなりません、藥は種々ありますが、ヂウレチンカルシユームなどはよいと思ひます、又半身不隨等の後遺症に對しては、時期を見てマッサージか電氣療法等がよろしい。

輕い中氣を今の中治し度

六十九歳の老人、一年前から足が幾分惡かつたのですが、昨今手も惡くなり、食器を持つ事も出來なくなりました、診斷は輕い中氣との事です、血壓は百六十八あります、今の中に全治させたいと思ひますが、適當な方法あらば。（足利吉田、目黒增田）

血壓百六十八では高い方ですが、お年からいへば、危險狀態といふわけでもありません、再發の

豫防が先づ第一に必要です、それには心身の安靜、即ち身體の過勞、精神感動を避け、アルコール性飲料、刺戟性食物を禁じ、消化し易いものを選び、主として野菜食とし、肉類は成るべく控へ、便通を整調し、怒責、冷浴、熱浴等動脈破裂の誘因となるやうな事は努めて避け、藥も種々ありますが、ヂウレチンカルチユーム錠などの連用が效果あるやうに思ひます、同時に必要に應じ鎭靜劑を用ひるもよいでせう、尙常に血壓の測定、尿の檢査等を受け、場合によつては瀉血の必要な事もあります、又半身不隨等の後遺症に對しては時期を見てマッサージ電氣療法等もよいでせう。

二八、關節炎

結核性關節炎

二十一歳の男、一ヶ年前から關節結核で惱んで居ます、昨今やつと痛みはなくなりましたが、豫後は如何でせうか。（前橋、品田、下谷、山村）

其病は結核菌の傳染によつて起る關節の病氣で、一般結核の如く先天性及び後天性原因のある事

は明かです、原發性の場合は稀で、多くは續發性です、發病の年齢も丁度貴君位に多く、場所は膝や股關節が最も多いやうです、治療法としては一般對結核療法は勿論ですが、其他局所の安靜卽ち固定し、負擔を輕くすると同時に、關節面を遠ざけ、其他接觸摩擦を避け、刺戟症狀を減する爲牽引法、ギプス、コルセット、繃帶を用ひる事もよく、又關節腔內の滲出物を取り、腔內に諸種の藥物を注入して、病原體に作用させて局所の殺菌力を高むると同時に、組織の再生機能を增進せしむる爲、鬱血療法、熱氣浴、日光療法を施すこともあります、太陽燈、X光線は勿論よいが其他手術的療法によらねばならぬ事もあります、豫後は非常に治り難いものですが、自然に或は僅の處置によつて全く治る事も極稀にはあります、年齢は若い程豫後は佳良です、大なる關節殊に骨性又は化膿性の場合は不良です、又往々外傷等によつて再發する事もあります。

結核性關節炎と結婚

幼時結核性關節炎で、手術する事十一二回、八ケ年間膿は出通しでした、然し少しも痛まず、食事は美味しく、人並以上肥つて居ます、一時膿も出なくなりましたが、又二ケ月程前から惡い方に向ひました、此病氣は不治で、又膿は此儘出たり出なかつたりして居るものでせうか、尙ほ近日店を出す

運びになり、妻帶も勸めらるゝが、病氣には如何でせう。(本所、心配生)

治り難い病氣ですが、快方に赴く事も、時々再發する事もあり、大體に於いて豫後は不良です、體質、年齢、局所の症狀、合併症の有無、治療法の如何によつてはよい結果を來すことも不幸な結果を來すこともあります、あなたのは幸ひ食慾もあり、疼痛もないのですから、其儘益々榮養をよくして其狀態を續けて行き、結婚はなさらぬ方がよからうと思ひます。

頸關節の故障

四五日前から右の頸の關節が食事する時や欠伸したりすると痛みを感じますが、中耳炎の心配はないでせうか。(源助町、春子)

中耳炎などの心配はないやうに思はれます、イヒチオール軟膏でも塗布して御覽なさい。

關節リウマチス

慢性關節リウマチスとの診斷で、飲料、服藥、濕布等し榮養にも氣をつけた結果、腫は引き幾分よ

くなりましたが未だ骨が痛みます、なほ悪い方の足は痛むので、今日まで一度も曲げたことがありません。（駒込松田、横濱島生）

痛いからとて曲げないで居ては、これから寒さに向つては猶々曲らなくなりますから、電氣療法太陽燈照射、局部温罨法、マッサージ、温浴で最初は少し痛くとも我慢して伸ばすやうにして、氣候不順の折などは温暖地に轉地療養もよいでせう、經過の長い病氣故焦らず氣永に療養せねばなりません、榮養にも氣をつけて居る事は結構です。

結核性關節炎の服藥

四十四歳の男、一昨年から結核性關節炎で、約一ケ年レントゲン及び注射療法しましたが、更に效なく目下の熱は午前午後共六度五六分、咳に痰は少々あります、胃腸も丈夫ではありません、毎日の服藥は如何なるものがよいでせうか、鎭咳、祛痰劑を。（埼玉、石川）

鎭咳、祛痰劑としては吐根浸、セネガ根煎、甘草羔末、フスタギン、ブロチン、少量の鹽酸モルヒネ、燐酸コデイン等を症狀により加減し、適當の處方により服用して御覽なさい、處方の一例は吐根浸（〇・六）一八〇・〇、杏仁水八・〇、鹽酸モルヒネ〇・〇二、ブロチン三・〇單舍一五・

〇等。

股關節炎

十九になる男、幼時股關節炎に罹り、あらゆる專門科の診察を受けたが思はしからず、昨今は右脚の股筋萎縮して歩行困難になりました、新聞廣告で此病に適する內服藥を見受けますが、効がありませうか。（牛込、須田）

股關節には種類が澤山あるので病名をはつきり御通知下さらねば內服藥の如何は申されませんが內服藥でも效能のない事はありません。

二九、佝僂病

佝僂病の原因

——肝油は有効か——

佝僂病は何が原因で起るものでせうか、肝油が有效との事ですが如何でせう。（蒲田、千代子）

其原因はまだ明かでないのですが、中毒であるといふ說と、一種の傳染病といふ說もありますが近來ではヴヰタミンAの缺乏に因るともいはれて居ます、それ故肝油の有效な事も當はまるわけです、又此病は濕潤した土地に多いものですから、住居を高燥な日光の射入充分な空氣の新鮮な土地を選び、榮養分豐富なヴヰタミンに富む食物を攝るやうにしなければなりません、卽ち肝油や、ヴヰタミンAはよいのです。

三〇、癩病

癩病に關して

癩病の原因と、その症狀とをお敎へ下さい。（本所佐藤、鎌倉磯邊、靜岡村子、阿佐ヶ谷一男）

癩病とは癩菌によつて起る慢性傳染病です、然し此病に罹るのは特異の感受素質のある人で、癩菌の侵入を受けた者は必ず發病するものとは限りません、侵入の門戸は皮膚の創傷及び粘膜殊に鼻

粘膜などです、二十歲から四十歲位に發病することが多く、症狀は種々です、先づ皮膚や神經が侵され、顏面及ひ下肢の皮膚に發疹を生じ、初めは暗紫色の斑點となつて現れ、其形狀は不正形或は地圖狀をなし、其部の皮膚は次第に肥厚して光澤を生じ、硬くなつて皮膚の感じがなくなり、眉毛や睫毛が落ちたり、眼瞼が腫たりします、尙進むと榮養障碍によつて指趾や手足が落たりします。

三一、虛弱と肥滿

入學延期と扁桃腺の手術

七歲の早生男兒、智識の發達程度が遲いので、入學を一年延ばさうかと考へて居ますが、如何でせうか、尙小兒の扁桃腺は六七歲頃除いてしまつた方が丈夫になるとか事實でせうか、手術は簡單なものか猶費用等もお敎へ下さい。（甲府、梅村）

敎育家の經驗上七歲で入學した子より、八歲で入學した子の方が一般に成績がよいとの事です、お子さんは七歲で、しかも早生兒ではお考への通りなすつた方がよいかも知れません、扁桃腺肥大

は五六歳位から十四五歳位の學齡兒で腺病質の小兒に多い病氣で、身體及び智識の發育を妨げられ鼻が詰つたり、頭痛がしたり、氣分惡く、意識散漫し、記憶力減退し、勉强や仕事に倦き易く、從つて學業の成績が惡くなつたりします、お子さんのは如何なる程度か知りませんが、輕度の場合なら漸次生理的の大きさに復歸する事もありますが、一度診察を受け手術によらねばならぬやうでしたら入學前に摘出してしまつた方がよいと思ひます、手術は簡單で、費用もさしてかゝりません、尙此樣な子供は日頃から身體の强壯に心掛け、日光に親しませ、新鮮な空氣中に起居させ、皮膚の抵抗力をつける爲、夏に海水浴などを行ひ、充分なる榮養を攝り、風邪に冒されぬやう注意を要します。

虛弱な體質者

——藥や日常注意を——

過日帝大病院で診察を受けた處、肺尖加答兒まではゆかないが、少々弱い程度との事です、如何なる養生をしたらよいでせうか、カコチリンの注射を一%から四%全部終つたのですが此儘中止しても差支へないでせうか。(市川、貞治)

あなたのやうに虛弱な體質の持主は、かなり多いものです、第一には體質の改善を計り、抵抗力

を增進させ、結核に侵さるゝ心配のない身體を作らねばなりません、それには衞生食餌療法が必要で卽ち、新鮮な空氣を呼吸し、充分に日光を受け、榮養豐富なものを食し、適當の運動をする事等で諸種の疾病は抵抗力を減退させます故、侵されぬやう注意しなければなりません、これからは特に感冒などに侵され易い時ですから用心なさい、共注射も止めてから大した事もなければ、共儘でも差支へありますまい、兎に角前陳の如き一般の攝生が大切です、服藥は診察の上、必要があつたら醫師の處方を受け、强壯肺勞劑として肝油、ビタミンA、鐵劑、砒素劑、クレオソート劑等はよい。

體質虛弱な子の養生法

七歳の男の子、日頃體質强く、年に三回位重態に陷り、食鹽注射の二三本は珍しくありません、小兒病で大抵のものを患ひ、何病をしても吐氣を伴ひます、最近もヂフテリヤや、風邪、中耳炎等を患ひ、昨今やつと食慾も少しつき、食事の外に一日牛乳一合五勺、鷄卵三個、野菜類、一日置に刺身を與へ、每食後グアヤコールボリタミンを與へて居ますが、滋養分は此位でよいでせうか、猶肺尖と肺結核とはどう違ひますか、今の處熱は三十七度二分から五分の間で、午後一時頃から騰り初めます、

咳は出ません、當人は子供の事とて氣分に變りないと見え起きたがります、平熱にならなければ起してはいけないでせうか、早く熱の下るやうにするにはどうしたらよいでせう。（甲府、古澤）

かなり虛弱の體質のやうに思はれます、其樣なお子さんには日頃から總ての點について細心の注意を拂ひ、今の中に抵抗力をつけるやうになさらなければ取返しのつかぬ事があります、住居なども成るべく空氣の流道よく、日光の射入充分の高燥な地を選び、食餌はお擧げになつたものは結構です、即ち滋養强壯性のものを選び、總ての種類を混食させた方がよく、又風邪にかゝらぬやう、胃腸障碍を起さぬやうに注意なさい、お與へのグアヤコールボリタミンもよく、其他クレオソート製劑（炭酸グアヤコール、クレオソート、シロリン）及び鐵劑、沃度劑、肝油及びビタミンAなどもよい、場合によりツベルクリン療法も有效です、肺尖カタルは肺結核の初期です、又熱のある間は成るべく安靜にさせて居なければなかなか下りません、然しお子さんの事故、天氣のよい日などには時間を限つて靜かに起しても差支へありませぬ、返すゞも看護人の注意が大切です。

段々と肥る女

——現在は二十貫近い——

三十歳の女、あまりに太り過ぎて心配です、結婚當時は左程でもありませんでしたが、出產の度

に肥え、現在では二十貫近くになり、血壓は百三十位、別に他に病氣はありませんが、少し身體を動かすと息切れがします。（京橋、喜世子）

其原因は多くは遺傳ですが、其他大食の人、アルコール性飲料、殊にビールなどを多量に飲む人殊に運動不足の座食者などにも肥滿して來る事がありますし、又貧血、萎黃病にも脂肪の沈着を來すことがあります、あなたは今の處別に御病氣がないのは幸ひですが、よく其樣な身體には糖尿病を發見する事がありますから、一應尿の檢査を受けて御覽なさい、食物はなるべく脂肪分を避けるやうにし、脂肪の分解を增進させる爲に運動を適度にして、液體をむやみに攝取する事もよくありません、又度々入浴する事もよいが、心臟に注意しなければなりませぬ。

益々肥る一方

十九歳の處女、此頃益々太り、下劑など服用しましたが、一向效がありません、如何したらよいですか、常に便秘勝です。（長野縣、德永）

脂肪の蓄積を防ぐやうにする、即ち脂肪を多量に含むものや、其形成物質をひかへ、適度の運動をして、脂肪の分解を助けるやうにし、飲料を制限し、食物は過食を避け、度々入浴するもよく、

便秘勝なら成べく服藥でなく、食餌療法でつけるやうにし、惰眠を貪るなどはよくありません、暑くても一心に働き、發汗を多くする事も結構です。

肥滿の女が酢を

二十歳の女、肥滿してゐるので、毎日酢を盃に一杯づつ飲みますが、身體に障るやうなことはないでせうか。（馬道、高木）

酢は胃潰瘍でも起すといけませんから用ひぬ方がよいでせう、寧ろ甲狀腺劑、例へばチレオイジン錠などの方がよからうと思ひます、尙御飯をひかへ、適當の運動をなさい。

三二、雜

頸の右の付根が引吊る樣に痛む

昨年二月頃から頸の右の付根の深部の筋が、引吊るやうに痛みます、最初は苦痛も僅でしたが、二月頃から一層激しくなり、働くにも苦痛を感じて來ました、醫師は神經衰弱症と上搏神經痛といふので、四回程注射をして、發疱膏を貼つたり、內服藥を用ひましたが、一ヶ月以上になつてなほ全快いたしません。（本所、專藏）

先づ神經痛を引き起すべき原因を見出さなくてはなりません、勿論あなたのやうに神經衰弱から來る事も、感冒やレウマチス、黴毒、外傷性、反射性に來る事もあるし、又體質的に來る事もあります、故に治療法も原因によつて違ひます、慢性神經痛殊に個人特異性のものには、全身療法が必要です、それには鐵劑、砒素劑が用ひられる事もあるし、黴毒性のものには沃度加里や水銀劑が用ひられ、神經質のものには一般神經强壯法を行ふ等種々です、疼痛を緩解する目的に電氣療法や外科的療法を行ふ事もあります、內服藥としてはアスピリン、フエナセチン、モルヒネ、ブローム、ピラミドン等注射藥も數種ありますが、いづれも主治醫の診察を受けて、御自分に適應したものを用ひるがよい。

厚着をしても寒氣

是まで醫者の厄介になつた事のない位の壯健な六十歳の老爺ですが、本年は涼しくなり際から腰から下や臀部、脛のあたりがいくら厚着してもいつも風に吹かれて居るやうです、血液は陰性、血壓は百四十、煙草は喫しますが、酒は一口も飲みません。（下谷、山口）

マッサージ、電氣療法、温浴などを行ひ、血行をよくするやうにして御覽なさい、尙一度內科醫の診察を受けられるがよいと思ひます。

白血病

白血病の原因、容體、療法等に付き御說明願ひます、此病氣は全治するものでせうか、又は不治病でせうか。（湯島、ケイ）

此病氣は血液中の白血球の增加及び血液を製造する臟器の變化を起す病氣で、其眞の原因はまだ明かでないのです、これには淋巴性白血病、脾臟性白血病、骨髓性白血病などの種類があります、兎に角血液の變化を起し、淋巴腺が腫たり、脾臟が肥大したり、骨痛を起したり、出血性素質、貧血に陷つたり、皮膚の變化を起し、熱發したりします、慢性の場合も、急性の場合もあつて豫後は何れも不良です、治療は新鮮な空氣中に起居し、榮養療法を行ひ、日光に親しみ、鐵劑、砒素劑、

沃度、水鐵製劑等を內服藥として用ひる事もありますが、醫師の指圖の下にしなくてはなりません近來脾臟製劑も種々應用されて居ます。

鼠蹊部淋巴腺腫れて結節が

鼠蹊部の淋巴腺が腫て、結節が出來ました、別段の痛みもなく起居運動に支障はありませんが、患部を押すと鈍痛を感じます、病名手當法等お敎へ下さい。（千葉市川、小林）

鼠蹊部の淋巴腺炎の樣に思はれます、消炎法其他の處置でなほ病勢が擴がるやうでしたら外科的手術を要します、急性の炎症は多くは同側の鼠蹊部、生殖器下肢等に炎症があつて、それから淋巴腺に細菌が入るので、慢性の場合は主として黴毒、稀に結核によつても起る事があります、兎に角早く專門醫の診察を受け、然るべく處置なさい。

腹部のしこり少しもとれない

肋膜炎から腹膜炎に罹り、腹部にしこりが出來てかたくなり、三ヶ月以上も經ちますが、なか〳〵

全快せぬ故、他の醫師の診察を受けた處、結核性腹膜炎だといふ人と、さうでないといふ人とあり、少しもしこりは取れません、何とかよい療法を。（保土ヶ谷、中村）

肋膜炎から引續き腹膜炎を起して來たのですから、結核性と思はれます、それ故一般結核療法を主眼とし、心身共に安靜を保ち、榮養豐富な且ビタミンに富んだ食物を攝り、新鮮な空氣中に起居することが必要です、腹部には肝油の塗布がよく、もし痛みがあればロート軟膏を用ひ、太陽燈照射もよい、內服藥は今迄服藥中のを續けた方がよく、總ては主治醫と相談し、其指圖によつて處置される事を望みます。

肛門周圍炎

——若し結核性かと——

三十六歳の男、本年五月から肛門周圍炎との診斷を受けた儘、治療を怠つて居た處、肛門の周圍に小さな穴が出來、少しづゝ膿が出て、酒でも飲むと其所が痛みます、元氣は少しも變らず、現に軍人生活をし、體量十七貫餘もありますが、結核性のものでせうか、切開した方がよいでせうか、帝大へ行けとも勸められて居りますが、如何したものでせう。（淺草、三村）

絕對に結核性ばかりとも限りません、肛門病專門醫の處置を引續き受け、一度は內科醫の診察もお受けなさい、元氣にまかせて刺戟性食物や、アルコール類などを用ひてはなりません。

腹部に出來た拳大のしこり

五十歳の女、腹部にしこりが出來、最初はこぶし大でしたが、約十年經過の今日まで大した障りも覺えずに來ました、醫師にも二三度診て貰つたが、あまり效果もあらはれませんでした、此先放つて置いても差支へないでせうか。（栃木、小平）

何であるか、診察の上でなければわかりませんが、長い間經過して、さしたる障りもないやうですから大して惡性のものではないでせう、或ひは子宮筋腫の樣なものではないかと思はれます、尙篤と婦人科醫の診察をお受なさい。

AO注射液や氣胸療法に就て

肺病の初期で、專門の病院へ通つて居ますが、なか〳〵捗々しくゆきません、AO注射液の效力は如何でせう、氣胸療法は根治するものでせうか、此療法は北海道大學まで行かずとも、東京でする病

院がありませうか。（月島、八郎）

AOの注射液は效力はありますが、高價なのが缺點です、氣胸療法は新しい方法で、病氣の程度によつては之を行ふて效のある人があります、北海道迄行かずとも、大學病院其他大きい呼吸器病專門醫なら大抵やります。

豫防注射後發熱

腸チフスの豫防注射をした所、發熱したので、第二回目は止めたいと思ひますが。（日本橋、淺野）

反應熱は其時の身體の具合によつての場合が多いやうですから、第二回目は其醫師によく診察を受け相談の上なさる方がよい。

鉛中毒の場合

私は印刷職工ですが、活字の鉛分を毎日吸込んで工合の惡いやうな氣がします、もし鉛中毒した場合はどうしたらよいでせう、良法を。（靜岡、神谷）

一番よい豫防法としては、鉛類の使用を禁ずる事はいふまでもありません、あなたの樣に職業的に來る場合、職業を換るのが一番ですが、それも不可能な事でせうから、もし既に侵されて居るとしたら醫師の指圖により、硫黃浴、沃度加里或は硫化曹達の內服を行ひ、便秘した時は、下劑の服用か灌腸をし、痲痺などのある場合は、電氣療法なども有效です、又疝痛でもあれば醫師の處置を受けねばなりません、食物としては牛乳などを多く飲む事等もよいでせう。

狹心症の症狀

狹心症の自覺症狀をお敎へ下さい、この病は難治又は不治でせうか。（横濱、中西）

自覺症狀としては發作の起る前に壓迫の感、發汗、苦悶等があつて發作を起す事もあるし、之等の前驅症狀なく、突然烈しい心臟部の疼痛を感じ、これ以上の苦しみはないとまでいはれる位の煩悶苦通を訴へ、心臟搏筋が障碍され、脈は不正となります、然し呼吸は單純な狹心症の時は變化せぬ事があります、豫後は冠狀動脈の硬化の時は不良ですが、神經性の時は稍佳良です。

時々ひきつく

二十一歳の女、十六歳の春頃から度々ひきつけが持病となり、夜中發作が起りますと、大苦しみしても、自分では少しもわからず、朝眼が覺めると頭痛がして、二三日は工合が悪いのです、醫師はただ腦が悪いとのみです、自分では少しの事も氣になり、夜は夢ばかり見ます、食物は何でも美味しく喰べられますが、頭が重く、とかく物ごとを忘れ易いので悲觀してしまひます。（東兩國、作子）

發作の狀態をよく見なければわかりませんが、お手紙の樣子では、ヒステリーの發作ではないかと思はれます、其遺傳素質でもあるやうでしたら、自己の修養によつて意志を鞏固にするやうに努め、精神的過勞を避け、小說演劇などの感動を與へるやうな事はよくありません、適當の運動を行ひ、身體の强壯を計り、もし婦人科的疾患でもあれば其治療を受ねばなりません、催眠術などの效のある事もあります、又宗教に歸依する事もよいでせう、要するに自分で治ると確信を持つ事は最も大切です、服藥は主治醫の處方によりなさい。

食道狹窄症の治療法、食物等

二十五歳の男、食道狹窄症で惱んで居ます、治り難い病とは聞き及んで居ますが、如何したらよいでせう、食物等も御教示を。（八王子、秋元）

單に食道狹窄といつても原因により種々の場合があり、從つて豫後も異なります、例へば最も惡性の場合ば癌腫で、其他動脈病、肥大した甲狀線、淋巴腺腫等によつて壓迫された場合、或は義齒其他の硬固の物質が停滯するとか、食道の慢性の潰瘍、藥品の腐蝕等によつて狹窄を來すこともあります、又稀には神經性患者で、痙攣性狹窄を來す場合もあります、治療法は瘢痕性の狹窄の場合は消息子（ブーヂー）を用ひ、小なるものから漸次大なるものとし、其部の擴張をはかる法で、癌腫性の場合も一時的には此法を行ふ事もあります、食物は嚥下困難には流動食又は粥狀食とし、あまり熱いものや、冷たい刺戟性のものは避け、牛乳、鷄卵、スープ、魚獸肉の挽いたもの等を少しづゝ攝るやうにして、全く通らなければ手術的療法によるより外ありません、もし手術も不可能の場合ば、滋養灌腸法、皮下榮養等を行ひ、痙攣性の者には臭剝劑が用ひられます。

バセドー氏病
——食物及び療法——

バセドー氏病は、徹底的の治療としては手術に限るとの事ですか、手術でなくて、他に適當の療法があつたらお教へ下さい、光線療法もよいさうですが如何でせう、食物及び手當を。（靜岡市、飯塚）

此病の非手術的療法としては精神的、肉體的安靜を保つ事が最も必要です、食物は榮養に富む刺戟性でないものを選び、酒、茶、煙草等は避け、藥劑としては特に推賞すべきものはありませんが諸種の神經症狀に對してはブローム劑を主とし、其他アンチチレオイジン、鐵劑等を用ひる事もあります、ラヂウムや電氣療法、轉地療養等の效を奏する事もあります。

感冒に罹り易い

年中風邪に侵され易く、口中へおできのやうなほつ〳〵が出來、痛んだり、咽喉がたゞれたりして其都度蜂蜜や含嗽で治して居ますがどうした事でせう。（神田、內山）

體質虛弱な人にはよくさうした事があるものです、口中のたゞれや、腫物は口中を淸潔になさいそれには、硼酸水又は過酸化水素の稀釋液で度々洗滌し、咽喉部は一度耳鼻科專門醫の診察を受け然るべき治療をなさい、或は扁桃腺肥大があつて、其爲に風をひき易く、咽喉カタルを起し易いのではないかと思はれます、常に二%位の硼酸水で含嗽を怠らぬやうになさい、殊に外出した時は歸宅後忘れぬやうに。

モルヒネ注射

二十九歳の娘事昨年暮から胃癌で入院し、三月下旬全快しましたが、其後度々强痛を覺えるので、其都度モルヒネ注射でしのいで居りますが、昨今は一日に三四回位自分でして居るのを見受けます、此注射は非常に有害と聞きました、何とか止めさせる方法及び、その害毒の恐るべきこと等をお教へください。（小松川、寺坪）

止めさせるには第一にモルヒネが患者の手に入らぬやうにする事ですが、これは習慣になると、しなければ居られなくなり、中毒して居る者に急に注射を廢する時は禁斷症候卽ち、不快、沈鬱、發揚、苦悶、不眠、發汗、顏面紅潮、呼吸及び心臟障碍等を起して來る事があります、斯かる時にモルヒネを注射すれば是等の症候は悉く消えてしまひます、それ故止めるとしても漸次量を減じて

行くやうにしなければなりません、即ち前に一日量として居たものなら、其半量を三回に分けてするやうにして、體質が弱ければ長くかゝつて止めるやうにするのです、又及ぼす害毒とはこれを持續濫用すれば習慣となり、渇望するやうになつて遂には慢性中毒症狀を起して來ます、之は多く素因があつて、殊に變質性體質の人に起り易いのです、症狀は種々で、身體的には身體が漸次痩て來るとか、皮膚が蒼白くなるとか、眼が鈍るとか、瞳孔が縮少するとか、注射部に濃瘍を生じたり、浸潤を起したり、胃腸障害、神經炎性症狀を來したりして、精神的には氣質の變化、モルヒネに對する不可抗的の慾望、其他種々の精神障碍を起して來ます。

坐業に從事の腺病質なる男

私は元來繪を書くのが好きであつたので、高小卒業後すぐ帶の圖案を書く家に參つて居ましたが、仕事の時間が四月から八月までは一日十時間、其他の月は一日十二時間も坐つて居るので、痩て居る私はもしや肺病にでもなつてはと一時暇を取りましたが、家業（商業）はどうも好みません故、再び元の家へ歸らうと思ひます、如何したらよろしいでせうか、醫者には腺病質といはれ、ベクトールとかいふ注射をしたこともある位です。（桐生、小林）

あなたの身體の樣子では、勿論屋内の仕事より戸外に多く出る職業の方が健康上はよいと思はれますが、假令圖案家になつても、商賣人になつても、あなたの心掛次第で、健康を保持して行く事は出來ます、もし圖案家になつて一室に閉ぢ籠る事が多いとすれば、忙しい仕事の間に餘暇を作り戸外に出て大氣に觸れ、新鮮な空氣を呼吸したり、日光浴をしたり、適度の運動をして、仕事から來る運動の不足を補ふ樣になさい、又商賣人になつて多人數を相手に、精神を使ふ樣な場合には、それ相當の休養の時間を作る樣にすればよいでせう。

手足爪先の痛み

九歲の娘、半月前から咽喉を痛め咳をして居ましたが、其頃から一日一二回位づゝ温める度に、足の爪先や手足に痛みを覺えるやうになり、醫師は風邪から來たやうに申されますが、快よくなつて通學するやうになつても、手足先の通みは前にも增して覺えるとの事です。（池袋、いと）

其お子は虛弱の體質ではありませんか、熱感及び冷感の急激の變動により、往々そんな事がありますから心配はありますまい、出來るだけ榮養品を攝り、適當の運動をさせ、體質がよくなれば自然に治りませう、尙かぜをひかせぬやうに注意なさい。

みぞおち痛む

一日に三回位鳩尾が非常に痛み、胃腸藥を其都度服用しますが、更に效がありません、十分か十五分位痛むと止むのです、年は二十五歳です。（四谷、井上）

診察の上でなければ、たゞ痛むだけでははつきりしませんが、兎に角食餌療法をして食後の安靜を保つ事が必要です、次の如き處方で服用して御覽なさい、柏木ヂアスターセ〇・六、燐酸コデイン〇・一、アンタチヂン二・〇、右分六包二日量毎食後直に服用、重曹六・〇、重質煆製マグネシア二・〇、ロートエキス〇・〇八、右分六包二日量毎食後三十分服用（二種併用）

パラフレニー

——其病狀と療法——

パラフレニーといふのはどんな病氣ですか、なほ其療法をお知らせ下さい。（澁谷、中島）

壯年期に發病する慢性の精神病で、其主な徵候は、多年に亘つて妄想を抱き、此妄想が系統を作つて、極めて頑固に持續し、患者の全性格を支配します、然し意思及び感情の障碍を來すことはありません、治療法も特別のことはなく、たゞ妄想の內容に因り、危險の伴ふ者は入院させなければなりませんが、監置することによつて、一層妄想を助長する事がありますから、成るべく單純な職を與へ、適度の作業の如き、精神的訓練療法を課して、妄想の起らぬやうにする事が必要です。

動脈硬化の治療

去る一月中旬頃から血壓亢進動脈硬化症に罹つて困つて居ます、適當の治療法を。（足利、大澤）

此病は服藥よりも食餌養生の方が必要で、それには野菜食を主とし、肉類や刺戟性の食品を避け血壓のあまり高いやうな場合は、瀉血療法を施すもよいが、一度に多量取るより、少量づゝ度々にした方がよく、內服藥は病症により種々違ひますから、醫師の指圖の下にした方がよいでせう、尙其原因が梅毒から來たやうな場合は、驅梅毒法を講ぜねばなりませぬ。

酒の飲過から癲癇に罹りて

二十四歳の男、酒を過ごし、二三年前から癲癇に罹り、一週一回位の割で發作します、服藥、電氣

療法等試しても效はありません。（長岡、竹内）

癲癇は多くは遺傳とか、親が大酒飲みであるとか、梅毒がある場合其子に發病する事はありますし、其他種々の場合に起り、反射性症候性癲癇と名付けらるゝ病型もあります、然し眞性の癲癇の眞因はまだ不明です、治癒し難い病ですが一般攝生に注意し、酒類、珈琲、茶其他の刺戟性飲料を禁じ、成るべく肉食を避け、植物性食物を主とし、精神的、肉體的安靜を保ち、便通に注意し、時に失神する事もあるのですから、職業もなるべく安全な仕事をなさるやうに、結婚の問題も愼重に考へねばなりません、藥劑は主にブローム劑を用ひますが、同時にルミナールを用ひる事は最もよいやうです、但しブローム劑の連用は蓄積中毒症狀を起すことがありますから、其時は一時中止した方がよい。

若いのに冷性

二十二歳の男ですが、毎年寒くなると足が冷え、足袋や股引を取つては夜中眠れない程です、上半身だけは冷水摩擦を行つて居るのですが、下半身もすれば幾分効果がありませうか、夜間の讀書は禁止すべきでせうか。（宇都宮、中村）

二十二歳といへば血氣盛りの年頃ですのに、そんなに冷えるのでは虛弱な體質でせうから、一度健康診斷をお受けなさい、そしてもし大した異常もないやうでしたら別段醫療を受ける必要はありませんが、體質の改善を計るやう御自身心掛くべきで、それには適當の運動を始め、努めて戶外に出て新鮮な空氣と日光を充分に受け、既に冷水摩擦を行つて居る事は結構な事ですから尙出來れば下半身をも行ひ、成べく厚着をせぬやうにして、寒冷に堪へる樣今から準備なさい、勿論夜間の讀書はよくありません、食餌も滋養豐富なビタミンに富む物をお攝りなさい。

身體疲勞の際アンモニアを

身體の疲勞した時に、アンモニアを塗ると回復すると或新聞にありましたので、腰痛に之を試みた處、少し熱が出ました、果してアンモニアの爲かどうかはわかりませんが、これを用ひて副作用的疾患が出ぬものでせうか、危險性の有無をお敎へ下さい。（横濱、鈴木）

腦貧血などを起した時、アンモニアの臭氣を一寸かゞせたり、蟲類に螫された時に塗布したりする事はありますが、素人が勝手にそんなに廣い範圍に塗布する事はよくないと思ひます、殊に濃度の問題を考へなければなりません、濃厚なものを用ひれば、皮膚に腐蝕、炎症を起しますし、殊に

揮發性ですから呼吸器を刺戟し、聲門水腫、氣管支炎及び加答兒性肺炎を起すこともあります。

パラチブス後

パラチフスを患つた男、其れ以來胃腸惡く、食後胸張り、便は軟便です、尤もよくかむ事をせず、運動も不足のやうです。此人の兄が胃癌で亡くなつたので心配です、年は三十八歳。（矢口町、せつ）

チブスを患つた後は消化障碍を起し易いものです、食餌療法をして御覽なさい、即ち粥、オートミル、野菜スープ等から漸次種々のものに及ぼし喰べる時はよく咀嚼しなければなりません、服藥は專門醫と御相談の上おきめなさい、胃癌の心配はないと思ひます。

皮下に脂肪層

二三年來、全身的に皮下に脂肪層が出來、顏面は漸次白くなり、男性らしくなくなるやうに思はれます、注射か服藥かによつて脂肪を取除く事は出來ぬものでせうか。（愛宕町、村田）

診察の上でなければ、どの程度のものかはつきりしませんが、脂肪過多症としての治療法は、先づ脂肪の蓄積を來すべき原因を除かねばなりません、食餌療法としては、過食を避け、且脂肪の原料となる食物の分量を減ずる事、即ち酒及び肉類、脂肪類は勿論、米飯等もひかへ、蔬菜類を攝り努めて減食するがよく、其他適當の運動をして筋肉を働かせ、脂肪の分解の增加するやうにし、度度入浴する事もよい、然し心臟に注意を要します、仕事をせずぶら〳〵して居たり、惰眠を貪つたりする事は最もよくありません、もし高度の時は醫師の指圖により脫脂肪法を講ぜねばなりません藥劑は甲狀腺劑が用ひられますが、これも醫師の指圖を待たねばなりません。

顏面紅潮す

十八歳の男、人の前へ出たり少し暑いと顏面燃えるやうに赤くなり、口が利けなくなります、適當な手當を。（寺島、幸登）

あなた位の年頃になると其樣な事はよくあるものです、次第に精神修養が出來て來るに從つて癒りますが、常に血液の循環をよくするやうに心掛け、便通を整調なさい。

吃逆に苦しむ
——原因と治療法——

五十九歳の男子、壯健ですがしやつくりに苦しみ、一日の中出ては止み、出ては止みして困ります原因と治療法等お敎へ下さい。（吾孀、長岡）

吃逆は横隔膜の痙攣によつて起るもので、原因は胃、肋膜、腹膜、心包炎、大動脈瘤などの疾患によつて横隔膜神經を刺戟するとか、消化器、生殖器の刺戟によつて反射的に起り、腦、腦膜疾患ヒステリー其他の疾患及び精神感動により起ることもあります、治療法としては原症を治すことが第一ですが、輕い時は冷水を一息に飲むとか、始めに出るしやつくりを飲み込むとか、其他精神の轉換、例へば驚かせたり、間斷なく高聲を放つとか、聲帶を閉ぢていきむかして止まる事もありますが、頑固なのはローセンタール氏法といふて、頭を俯伏にし、胸廓の下部を七八分周圍から壓迫する方法もありますし、又芥子泥、感傳電氣の如き强い皮膚刺戟を横隔膜部に與ふる事によつて止まる事もあり、それでも尙止まらぬ場合は、種々の鎭靜、痲醉藥、鎭痙藥等の內服及び注射などを用ひます、又昔から「かりん」や柿のへたなどがよく効くといはれて居ります。

呂律が廻らず

二十一歳の男、呂律が廻らず、流暢な話も出來ず、社交上非常に困難を感じて居ます、如何したらよいでせう。（八王子、和田）

先づ內科醫の診察を受けて原因を知り、然る後もし必要あれば他科の診察をお受けなさい。

齒ぎしりに付

家內の者、就寢中齒を喰ひしめぎし〳〵かみしめます、如何したわけでせうか。（與野、きみ）

齒ぎしりも寢言と同樣、神經質の人に起り易く、殊に充分な熟睡に陷る事の出來ぬ時に、何かの刺戟があつて其爲三叉神經の支配する筋肉の痙攣を起し、あのやうな不快な音をたてるもので、精神過勞などが主なる原因の樣に思はれます、故に精神的安靜を保ち、安眠をとる樣にし、尙身體を丈夫にするやうに心掛ける事が大切です。

耳鼻・咽喉科

耳の下に腫物

十二歳の男の子、壯健ですが耳の下に小さいぐり〳〵が二三出來て居ります、毎朝卵を一個づゝ與へて居るのですがいかがでせう、食物はどんなものがよろしいでせうか。（朝鮮、愛讀女）

頸部淋巴腺の腫脹でせう、卵などは至極結構です、其他魚類も肉類も野菜も總ての種類に渉つて當人の好む新鮮なものを食べ過ぎさせぬ程度に與へ肝油ビタミンA、鐵劑など與へるもよい。

鼻出血に就て

——原因と其手當——

十七の男、丈夫に通學して居ますが、昨今毎朝洗面の際鼻血が出ます、どうしたのでせう、治療法を。（長野縣、大塚）

鼻出血の原因は種々ありますが鼻の疾患から起る事が最も多く、例へば鼻中隔彎曲症、萎縮性鼻炎、鼻腔内の腫脹、出血性鼻茸蓄膿症、黴毒、結核又は鼻腔内に損傷ある場合や例へば血友病の場合の如く出血性素質によつて起る事もあり、一般に氣候の變り目、殊に春先などは血管の擴張を來すために、心臟や腎臟の病氣のある人、血壓の高い人、動脈硬化病の人、逆上症の人、便秘症の人、痔疾のある人等は過激な勞働をした時など特發的に鼻出血を起すことがあります、あなたのはそれ等の何れによるか診察の上でなければはつきりしませんから、醫師の診察を受け、然る後原因に對して治療をお受けなさい、出血時には強く鼻をかむことや、むやみに紙や綿を鼻孔へ詰ることは、出血部を傷つけたりして却つて多く出血する恐れがありますからよくありません、平臥か靜座して、氷嚢で頭部及び鼻の上を冷やす位に留て置く方がよい、日頃の注意としては、便通を整調し、刺戟食物を避け、適當の運動をして血液の循環を好くするやうに心掛けなさい。

蓄膿症の原因

——症狀と療法に付——

蓄膿症の原因、症狀、療法等をお敎へ下さい。（寺島石井、鰯殼町花）

原因は上顎竇の急性の炎症から漸次慢性症に移行したもので、其竇の開口部が閉塞がつて、排膿が妨げられ、且竇の粘膜の病的變化の爲に、出て來た液を吸收する事が出來ない爲に起つて來るもので、排泄の障害は其開口部の先天性狹隘、粘膜の炎症、腫脹、眼殊にポリープ（息肉）などが出來るからであります、其他齒牙、齒槽の慢性の病氣、上顎の骨折、射創等の外傷、結核、梅毒、惡性腫瘍などから起る事があります、症狀は頭痛（主に前頭部）神經痛（主に顏や頭の）睡眠障害、氣鬱氣力減退、鼻詰り、臭氣ある鼻汁の排泄、食物の變味等を來す事が主な症狀ですが、又此患者は往々其鼻汁の嚥下などによつて慢性の消化器病を起すことがあります、鼻汁は綠色か黃色で臭氣があります、治療法は專門家の醫療を受けるに限られてるといつてもよい位で家庭的に行ふのは害があつて益はありません、先づ手術が一番でせうが電氣なども、有効の事があります。

蓄膿症と海水浴

四月頃蓄膿症を手術した者、海水浴等はよいでせうか、又鼻腔に海水の入つた時は直接害があるでせうか。（牛込、向井）

四月手術をしたのでは、多分全快して居る事と思ひますが、一應其手術を受けた醫師の診察を乞ひ、其上で浴されたらよいと思ひます、海水が入つたからとて健全な鼻腔なら直接害はありません

耳鼻の疾患とオートゲン

耳鼻の疾患殊に蓄膿症に内服藥の「オートゲン」がよいさうですが事實でせうか。（新潟、丸十）

オートゲンはその文献のいふ所によれば、耳鼻科疾患殊に蓄膿症、肥厚性鼻炎、中耳炎、淋巴腺腫、痔疾、瘰癧等が其適應症との事で、本劑の價値としては體内の新陳代謝を旺盛にし、耳鼻咽喉内に漸次波及し、潴膿自ら減退し少しの苦痛もなく手術を要せずして短期間に効果を收むるとありますが、まだ實驗した事はありませんから眞價はわかりません。

兩鼻口塞がる

——肥厚性鼻炎の者——

昨冬から鼻加答兒に犯され、兩鼻口塞がり、呼吸困難に陥り、專門醫の診察を受けた處、肥厚性鼻炎と鼻柱隔故手術を要すとの事、二月下旬柱骨を削り、肥厚性の方も切り十日程で快方に向ひ、晴々したのも束の間、昨今又々兩口が塞がり困つて居ます。（桐生一店員）

再び耳鼻科專門醫の手術を受け根治的治療を試みるが最もよいと思はれます、尙此病は腺病質や貧血の人は侵され易く、又直接の原因として氣温の急變、空氣の流通惡き室で坐業したり、煙草を亂喫したりする人は侵され易く、殊にあなたのやうに鼻中隔に異常のある場合には殊に注意を要します、故にそれ等の原因となるやうな事があれば、先づそれ等を除かねばなりません、手術的以外の局所治療法としては種々多樣で症狀により違ひますが鼻閉塞などには鹽酸コカイン一・〇、アドレナリン四・〇、淨水一六・〇の處方による藥を塗布する事もよく、或は生理的食水で鼻腔の灌洗法を行ふ事もありますし、其他吹撒法、腐蝕法を行ふ事もあります、又粘膜の增殖のある場合は電氣燒灼か手術的に治療せねばなりませんが、總て專門醫師と相談の上に處置なさるがよい。

肥厚性鼻炎

——その手術後——

卅歳の男子、十年前肥厚性鼻炎を手術しましたが、四五年後に又元の樣になり其儘にして置きました、昨秋醫師が鹽コカン水とドレナン水の混合したものをつけ、其後にプロタルゴール水をつけて半年も繼續すれば治るとの事ですが、中毒せぬものでせうか。（會津若松、山本）

素人が劇藥等を勝手に使用する事は危險です、連用すれば遂には塗布しなければ氣持が惡くなる樣になり、卽ち中毒を起します、更に進む時は益々有害に作用します、專門醫師の治療をお受けな

さい。

成績はよいが倦きつぽい兒童

八歳の男の子、學校で優等の成績ではありますが、すぐに倦きが來る樣で、十五分位たつとそろそろ熱も注意力もなくなり、欠伸ばかりします、それに讀方など字をよく見間違ひます、眼の故障か、扁桃腺の肥大か、鼻の故障か其他身體に故障があるのか一度しつかりした體格檢査をして見たいと思ひますが。（日暮里、源彌）

眼の障碍によつても、蓄膿症、肥厚性鼻炎などからも記憶力が惡くなつたり、倦きつぽくなつたりする事がありますし、又其子供の境遇、周圍の事情、或は個人性によつてさうなる事もあります原因を極めて然るべく指導なさるがよい、健康診斷は何處の醫者でもして呉れます。

舌の左端切れ

——水腫樣の物出來——

舌の左端が三分ばかり切れ、赤くただれたやうになり、數多の黄や白の粟粒大の水ぶくれのやうなものが出來ました、齒齦も赤く腫て楊子も使へませぬ、お湯で含嗽し沃度チンキを薄めてつけて居ますが効ません。（中野、たか子）

其樣な症狀は、水銀中毒とか、壞血症とか齒牙、齒齦の不潔、齒石の爲にも又種々なる刺戟によつて起る事も、或は胃腸障碍や附近の炎症から波及することも、原因不明である事もあります、診察の上でなければ原因が何であるかはつきりしませんが、口内を清潔にして、二%の鹽剝水、五百倍の過マンガン酸カリ水、二乃至三%位の過酸化水素水等で含嗽なさい。

舌の裏に腫物

舌の裏側に透明な腫物が出來、舌を動かすと痛みを感じますが、店員の身とて醫師に通へません、病名と治療法を。（日本橋、佐藤）

單純なる水疱でせう、あまり刺戟せぬやうにして、硼酸水の含嗽でもして御覽なさい、自然に治りませう。

唾液血の色に

昨秋頃から眠をさますと、唾液が血を水に溶かしたやうな色をして、中には血塊があります、營養狀態もよく、胃腸も丈夫で熱もありません、又、注意しなければ判らぬ程度ですが鹽氣を含める痰が少しつゝ出ます。（鎌倉、谷口）

別に心配する病氣ではないでせう、單に口腔内殊に齒齦から出血して唾液に混じて出るのではないかと思はれますが、尙體温其の他の症狀に注意し、一度醫師の診察を受けらるゝ方がよい。鹽氣の痰は氣にする事はありますまい。

口中の腫物

口中へ大豆位の白い腫物が時々出來て食事の時など物が觸れると非常に痛みます、原因と療法を。（宇都宮、佐藤）

胃腸障碍が原因して居るのではないかと思はれますから、食餌養生をし、便通の整調を計る心掛けで御覽なさい、局所は二%の硼酸水で度々含嗽なさるとよい。

口の端が白い

口の端が白くなつたので近所の醫師の塗付藥をつけても何の効もありません、如何したらよいでせう。（埼玉、野田）

一〇%の唇砂を少量の蜂蜜へよく混ぜ合はせてつけて御覽なさい、尙食物に注意し、あまり食べ過ぎぬやうになさい。

寒風が吹くと唇を痛めます

當地は氣候上、冬になり寒い風が吹き出すと、十人の内三人位は屹度唇を痛めます、其狀態は乾いて痛んで遂に龜裂を生ずるのです。（會津若松、上野）

室内をなるべく乾燥させぬやう蒸氣を立てるか、温湯で絞つた手拭を枕元へかけて置くかして蒲團をかぶらぬ樣にしてお寢みなさい、唇には蜂蜜に辰砂を少し混ぜた物を塗布するとよい。

咽喉の工合が惡い

六十歳の母、餘程前から咽喉がむせるやうな變な工合で、氣持が惡いといふて居ましたが、昨日は痰と一緒に血が混じつて出たとの事です、何處か惡いのでせうか、以前急性肋膜炎をした事があります。（福島縣、淳江）

其他に異狀はないやうですし、咽喉から出たものゝやうであり又お年からいふても心配ないと思ひますが、前の事もありますから、一應診察をお受けになつた方が安全でせう、咽喉の方は藥の塗布、含嗽等怠らず手當をなさい。

咽喉の右方が少し腫れて居る

二十二歳の女、咽喉部の右方が少々腫て居ますが、痛みはなく、診斷によればバセドー氏病との事此病の徵候、症狀、手當等をお教へ下さい。（千束町、美代）

此病は女子殊に十六歳位から三十歳位に發病する事が多い、甲狀腺の機能障碍に因るといはれて居ますが、遺傳的關係もあります、又精神感動身體の過勞、其他の疾患からも起る事もあり、ヒステリー、神經衰弱等の經過中に發病する事もあります、徵候としては、甲狀腺の腫脹、眼球の突出心悸亢進、指節の震顫、頭痛、眩暈、思考力減退、不眠症、發汗等で精神不安となり、怒り易くなつたり、營養障碍を起して來る事もあります。

咳嗽止まらず

四十五歳の男子、二月ばかり前から風をひき咳が出て困つて居ります、良いといふ藥は大抵服用して見たが少しも効なく、咳の度に食物を吐く事もあります、胃腸もいくらか痛めて居ります、適當な手當と藥を。（瀧野川、河南）

あまり人混みの中へ出たり、風の吹く日など外出は止めるやうにし、室内は湯氣を立てゝ空氣を濕潤させ、含嗽、吸入など怠らぬやうになさい、又咽喉が腫て居るやうな場合は、ルゴール氏液の塗布や温濕布などもよいでせう、内服藥は吐根浸（〇・六）一八〇・〇、杏仁水八・〇、ブロチン三・〇、單舍一五・〇、右二日量一日數回に用ひて御覽なさい。

呼吸の都度咽喉が鳴りて

昨年十月頃から、咽喉が呼吸する度にぜい〳〵鳴り、咳と痰が出ます、熱は少しもなく、食事は美味しく氣分もよく働いて居ます、どこが惡いのでせう、適當な藥があれば、お教へ下さい。(桐ケ谷、鈴木)

お手紙だけでは確な事はわかりませんが、兎に角呼吸器系に障碍のある事は明かですから、一度篤と診察を受けて、氣管支カタルがあるか、喘息があるのか、單に咽喉カタルであるかを確める必要があります、手當としては吸入含嗽濕布もよく、內服藥は左の如き處方によつては如何かと思ひます、ゼネガ根煎(一〇・〇)一八〇・〇、ブロチン三・〇、杏仁水八・〇、單舍一五・〇、右二日量一日數回に服用。

甲狀腺の腫脹手術をせずに

二十五歳の男、醫診の結果、甲狀腺腫脹との事、大きくなつたら藥よりも手術するがよいとの事ですが、手術でなく治すことは出來ぬでせうか、昨今は沃度加里を服用して居ます。(淺草、野口)

單に甲狀腺腫脹といつても、單純な良性甲狀腺腫脹であるのか、バセドー氏病によるものか其他の疾病によるものか診察の上でなければはつきりしませんが、此場合手術的に一部分切除する事の必要な事もありますし、又藥物療法として沃度劑の服用の有効な事もあります、又バセドー氏病でしたら、沃度やチレオイヂンなどは禁じ、アンチチレオイヂンかロダゲン等を用ひますが、兎に角今一度篤と診察をお受けなさい。

扁桃線肥大の手術可否に就て

十三歳の女の子、今度女學校へ入れる事になりましたが、學校で身體檢査の際、扁桃腺肥大と云はれました、醫者によつて切つた方がよいといひ、切らなくともよいといひますが、如何したらよいでせう、本人は別段氣分には差支へないのです。(横濱、きよ)

扁桃腺肥大の手術は、醫師により意見を異にします、前者は肥大せる扁桃腺の所有者は、寒冷の候には風邪にかゝつたり、扁桃腺炎を起したり、其他の疾病を引起し易いから切除する方がよいといふので、後者は扁桃腺は未知の種々の機能をするものであるから、障碍のない限りは手術の必要

はないといふ意見です、それ故症狀の如何により決定なさるゝ方がよいでせう。

扁桃腺手術に付

扁桃腺肥大の女兒、昨年十月扁桃腺炎に罹り、爾來毎月再發します、手術をすれば再發の憂ひなしとの事ですが、平常手術しても心配ないでせうか。（宇都宮、福田）

病氣の起つてゐない時にすれば尙更よろしいのですから、決して心配はありません。

瘰癧の原因と症狀手當に付

ゐゐれきの原因と症狀の手當をお敎へ下さい。（伊勢崎、村上）

ゐゐれきは頸部の淋巴腺の中に結核菌が入つて生ずるもので、鼻、咽喉、扁桃腺、齲齒等から侵入する事が多いが、其の他の部分からも、血行或は淋巴管を經て、續發性に發することもあり又體質の遺傳にもよります、其他不衞生の生活、例へば食物の不良、新鮮ならざる空氣、光線の不充分な居室、運動不足、感冒の引き易い體質、百日咳に侵されたりする時は、潛伏結核を殘すことがあります、症狀は一概にはいはれませんが、良性の場合には、一つか二つ多くて三つ位で、進行も緩漫か、時には停止して自然に治る事もありますが、惡性になると、少數から次第に增加して來るか一時に多くの淋巴腺が腫て所謂グリ〳〵を生じますし、癒合して大きな塊を作る事もあります、或は膿瘍を作りくづれて膿を漏出し、瘻孔を生じ却々治らない事もあります、疼痛は多くの場合無いものですが、時には痛む時もあります、全身症狀として熱はない場合が多いが、多くの淋巴腺が腫るとか、他部に結核のある場合にある事もあるし、其他の症狀を呈する事もありますが、此病の素因のある者は、食物の注意、新鮮な空氣中の起居、日光浴等で健康に心掛ける事は豫防する事で、既に罹病中の者は、やはり衞生食餌療法を主眼とし、對結核療法として肝油ヴィタミンA、鐵劑砒素劑等の强壯劑を用ひるか、エッキス光線、太陽燈照射、手術的療法を施さねばならぬ事もあり、又淋巴腺實質內に種々の藥液を注入するかして治療に盡さねばなりません。

喉頭結核の爲に惱む

喉頭結核の疼痛の爲めに、非常に惱まされて居ます、重曹の吸入をして居ますが、一向効がありません、他によい治療はないでせうか。（鎌倉、永沼）

咽喉結核がある以上、多くは肺の方も侵されて居るものですから、是に對する適當な攝生法を行ふべきです、即ち全身療法として、榮養分の豐富なビタミンに富む消化よい食物を攝り、刺戟性食物、飲酒、喫煙等は避け總て一般結核に對する處置を取らねばなりません、局所の治療は全身の狀態に應じて方針を定むべきもので藥品も種々ありますが、効果のあるものは殆ど無い樣ですが、クラウゼ氏の乳酸療法や疼痛殊に嚥下痛を緩解する爲、場合によつては一〇乃至二〇%のメントール阿列布油の注入、オルトホルム、アネステヂンの吹撒、五乃至二〇%のコカカイン液の點滴等を行ふ事もあります、或は局所注射、手術的治療を行ふ事もありますが、いづれも耳鼻咽喉科醫の指圖に從はねばなりません、嚥下困難を來した場合は流動性か半流動性の食物を攝らねばなりませぬ。

眼科

眼瞼に出來た米粒やうなもの

十九歳の男、三四日前から左眼の下瞼に、米粒の半分位の白いものが出來、痒さが激しいのです。何といふ病か、それから口の兩端が白く荒れたやうになつて見苦しいのです、胃の惡いためでせうか

(埼玉、吉田)

眼瞼麥粒腫、即ち「ものもらひ」だらうと思ひます、二%の硼酸水の温罨法か洗滌すればよい、化膿してゐるやうなら切開すれば早く治ります、再發を防ぐには二%の硼酸水の罨法か、次の軟膏を用ひてもよい、黄降汞〇・一、ワセリン一〇・〇、一方のは胃腸の障碍の爲が多いやうですから食物に注意して御覽なさい。

腫物の爲に眉毛が脱けた

眼のまはりにおできが出來、まつ毛の根元に侵入し、まつ毛が非常に脱けました、元通りになる方法は。（足利、櫻井）

多分眼瞼緣炎でせう、慢性の結膜炎殊にトラホームがある場合、又は涙嚢に疾患のある場合などにも其樣な事はありますが、其他局所の濕潤寒冷などの刺戟、或は一般に腺病質の人達にも見受ける事があります、治療法としては眼瞼緣を毎日二%の硼酸水で洗滌して御覽なさい、又一%の黄降汞膏の塗布などもよいと思ひますが、兎に角眼科醫の診察を受け原因を見出さねばなりません。

角膜實質炎

幼少より眼が惡く、醫師は角膜とかで年頃になれば治ると云ひましたが、十九歳の今日になつても治りません、十三歳の頃兩眼に薄くかゝつたものがありましたが、それが益々濃くなるばかりです、如何したらよろしいでせうか。（郡山市、智惠）

角膜實質炎のやうに思はれます此原因は黴毒にある事が多く、殊に先天黴毒に來ますから、もし血液檢査をして其疑ひがあつたら驅梅療法を行はねばなりません、局所的には眼に對して強き刺戟を避け、二百倍のアトロピンの點眼、二%の硼酸水の温罨法を行ふか、保護眼鏡、遮光帶を用ひるもよい、又疼痛でもある場合はヂオニン（一%）の點眼もよく、又炎症々狀が去る時は吸收を促す爲一—五%の食鹽水の結膜炎下注射をする事もあります、要するにあなたのも大抵は先天黴毒の爲めと思ひますから驅梅療法をすれば治ります。

濾胞性結膜炎

來年一月入營する者ですが濾胞性結膜炎で大分快方に向つたのですが、まだ夜になると眼が痛くなります、視力は右が亂視、左が近視です。（日本橋、中川）

濾胞性結膜炎といふ病氣はトラホームとよく似て居りますが、其性質は大いに異なつて居るもので、腺病質や、貧血性の者によく見受けられます、殊に學校や兵營などに流行性に起る事があります、治療法としては〇・三%の硫酸亞鉛水を毎日點眼したり、硼酸水の冷罨法を行つたりしますが、體質が虛弱でしたら鐵劑、肝油其他の營養物を攝り、眼鏡も正確に合せる事が必要です、併し總て

は專門醫の處置をお受けなさい。

近眼鏡が邪魔

目下十四度の近眼鏡を用ひて居るのですが、仕事の都合上邪魔になるので外して居たいのですが如何でせう。（澁谷、二階堂）

近視眼に對しての治療法としては、眼鏡を使用して視力を補ふ外、的確なる方法はまだありません、眼鏡の使用は度を進ませると考へる人もあるやうですがそれは誤りで、專門醫師により正確に檢定して貰つた眼鏡を用ひればそんな心配はありません、掛けたり外したりする事は慎まねばなりませぬ。

逆さまつ毛

さかさまつ毛で困難して居ります、如何したらよろしいものでせうか。（布佐町、岡田）

毛抜きで一本々々抜き取るか、或は內反症、亂生等病の高度の場合に眼科醫の手術を要します、

尙此病氣はよくトラホーム、眼瞼緣炎、慢性結膜炎等に原因する事がありますから一應眼科專門醫の診察をお受けなさい。

色盲と適齡者

本年適齡の者、色盲では不合格でせうか、現在其治療法はないのでせうか。（埼玉、エス生）

色盲は軍人、美術家、染工など色を見分ける必要のある職業につく事は不可能で、もし確に色盲の診斷がつくものであつたら、檢査に合格する事は不可能と思はれます、此病氣は先天性疾患で且遺傳性のあるもので、兄弟で色盲の人を見る事もあります、又血族結婚が原因であるといふ人もあります、治療法として根治的療法はありません。

淋菌が眼に入ると

淋菌が眼などへ入つたらつぶれるでせうか、何だか眼がかすむやうな氣がしますが。（名古屋、杉山）

危險です、入つたら早く處置しないと失明する事があります、若不安な樣でしたら速かに硼酸水

でゝも洗滌し、〇・一乃至〇・二%の硝酸銀の點眼をなさい。

眼がかすんだり足や唇痺れたり

三十歳の女、昨年十一月頃から急に眼がかすみ、傍の人がよくわからぬやうになつたので、眼科醫に診て貰つた處、眼は何ともないから、身體から來て居るとの事で、其儘にして居ると、一月頃から足がしびれ且だるく、口の廻りがぴり〳〵痺れて何の感じのない事もあります、蛔蟲だらうといふ人もあるので、セメンを服用しましたら一條下りました、寢る程でもありませんが、日々不快です、何病でせうか。（中延、はるみ）

足がだるかつたり、口の周圍が痺れたりする事から想像すれば、蛔蟲の外に脚氣でもあるのかも知れませんから、驅蟲劑服用と共に脚氣の方の治療もして御覽なさい。

齒科

齒莖に湯水が昨今一しほしむ

二三年前かち、齒莖に湯水のしみる事が、近頃は一層甚だしくなつて來ました、腎臟病や糖尿病に原因するとか聞きましたが本當でせうか。（千葉、湯淺）

多分齒齦炎でせう、糖尿や腎臟のみでなく、胃疾患、黴毒、口內炎、アルコール中毒などが原因する事もあり、其他食物のかすが齒頸部に溜つて醱酵を起し其刺戟によつても齒石の沈着、齲齒、義齒、金冠等の不適合な爲器械的刺戟によつても齒齦炎を起す事もあります、其故先づ因つて來る原因を調べそれに對する治療を行はねばなりませぬ。

齒槽膿漏の症狀と原因

齒槽膿漏の最初の症狀はどんな風のものでせうか、又原因等もお敎へ下さい。（吉祥寺、藤村）

初期の症狀としては齒齦が赤く腫れ、次第に齒がぐら〳〵する樣になり暗紅色を呈して來ます次いで齒齦が退縮し爲に齒齦部が出て、齒頸部や齒齦上を壓して見ると膿汁の分泌を來すやうになり經過は比較的緩慢に進むもので其故知らぬ內に排泄された膿を呑み込んで全身的の病氣を引起す事もあります、如何にして起るかといへば齒頸部、齒齦表面に齒石の沈着する事、不完全な金冠、義齒などの機械的刺戟、齒齦邊緣の炎症等に依るか又は糖尿病、腎臟病、消化不良、リウマチス其他黴毒結核などのある人は此病氣を起し易く、食物の關係からいへば肉食の人に多く、年齡でいへば壯年者に多いものです。

齒莖紫がゝり惡臭の膿が出る

時々口熱に冒された爲か、近頃前齒數本が動くやうになり齒莖は紫がゝつていやな臭ひの膿が出るやうになりました、其原因と手當を。（深川、小川）

口內炎のやうに思はれますが、何に原因して起つて來たものかよく診察を受けなければなりません、壞血症、糖尿病、腎臟炎などの時にも起りますし、齒牙齒齦の不潔、齒石、水銀の中毒などの時にも起る事があります、其他不衞生の生活狀態の場合にも體質不良の小兒などに起る事もあります、治療法としては根本の病氣を治すことに心掛け、鹽剝か硼酸、オキシフル等の含嗽をなさいうか。（神田、中川）

息の臭いのは

身體の工合は惡くないが、息が大變臭いのです、蓄膿症の氣味と胃が擴がつてゐる爲め、食物が不消化になつて停滯し、それ等の爲めではないかと思ひますが、息の臭くなるのはどのやうな場合でせうか。（神田、中川）

口臭は種々の疾病の場合にあるもので、例へば口內炎、胃腸カタル、肺壞疽、熱性傳染病などの場合で一々擧げ切れません、然しあなたの場合ば胃腸疾患や蓄膿症によるものと思はれます、醫師の治療を受け完全に治れば自然口臭もなくなる事と思はれます。

絕えず口熱

齒と齒の間に口熱（血液が寄つて來る）が起ります、その都度齒醫者へ行けばよいのですが、始終

起るのですから、家庭療法がありましたらお教へ願ひます、二十二歳の女です。（西巣鴨、靜子）

月經不順や、便秘などがあると、人によつてそのやうな事がありますが、あなたもさうした傾向があれば、其方の手當をして、其様な症狀の起つた時は、硼酸水かオキシフルの含嗽を度々して御覽なさい、尚一度齒科醫學校の治療部などで診てお貰ひなさい。

産婦人科

月經に就て

月經の量及び日數をお伺ひします、私は至つて壯健ですが、二十一二日目には必ずあるし、量を隨分多くて困る事があります、月二度ある事が度々です、何日位が普通でせう。（京橋、一女）

月經の持續日數は四乃至六日で血量は凡そ九〇乃至二〇〇瓦平均一〇〇瓦位ですが、正確に量る事は困難故明かではありません、周期は大多數に於いて四週間に一回です、然し人により多少の差異はあります、此一定の周期を以て反覆する月經を正調であるといひます、あなたの場合は月經過多症の様に思はれます。それは婦人科的疾患から來て居るものか、慢性貧血、萎黃病、出血素質、脂肪過多其他の疾患から來て居るものか一度診察を受ける必要があります。

月經になるとねあせをかく

本年四十五歳の有夫者です、一月初旬盜汗をかきましたが、お正月の事とて起臥食事が不規則の爲と思つて居ましたが、下腹部が重いやうで氣持が惡いと思ふと翌日月經を見ました、其後はあまり汗も出ず忘れて居ました處、又二月一日月經になり其前二日間は以前よりひどい盜汗を全身にかきました、何か身體に異狀でもあるのでせうか、ずつと前に醫師は神經の加減故氣を樂に持つやうにと斯樣な處方を下さいました、ブロームカリウム一・五、ブロームナトリウム一・五、纈草丁幾一・〇、苦味丁幾二・〇、單舍利別七・〇、水一〇〇・〇、右量一日三回、長らく服用した處いつとなしに汗も出ぬ樣になつたので中止しました、最早閉止期も近付いたので異狀があるのでせうか。（野方町、とく）

御想像通り丁度年齡から言つても閉經期ですから、月經異狀から來て居る樣に思はれます、卽ち閉經期には卵巢機能の障碍により種々の症狀例へば逆せたり、動悸したり、發汗したり、憂鬱になつたり、ヒステリーの如き症狀を呈したりするものですから別段心配はありますまいが、一度婦人科專門醫の診察をお受けなさい、服藥中の處方は鎭靜劑です。

右手しびれ

——五十一歳の母——

五十一歳の母、四年前の夏、急に右手がしびれ出し、殊に親指と人差指がひどいらしうございますそれも身體の調子で激しい時とさうでない時とあるのです、酒も煙草ものみませんが脂肪ぶとりの方です、如何なる療法をしたらよいでせう、醫者は何科でせうか。（日本橋、柳原）

婦人の閉經期卽ち四十七八歳頃には種々の症狀を訴へ、或は頭痛、或は腰痛、手足のしびれ感等に惱まされる事があります、又かなり肥滿して居らるゝやうですが、血壓などの關係はどんなでせうか、兎に角種々に身體の調子の狂ふ時期ですから、一度內科醫の診察を受ける事が必要です。

月經が不順

十九歳の女、兎角月經不順で冬になると宜く顏がほてつて氣分が惡いのです、適當な療法あれば。（桐生、光子）

婦人科醫の診察を受け、月經の整調をはかり、食餌にも注意し便秘を防ぎ、常に顏を摩擦して血

液の循環をよくするやうし、度々入浴し適當の運動を行ふやう心掛けて御覽なさい。

月經不順と自宅療法

十八歳になる娘、十五歳の八月から初潮を見ましたが、十六歳の五月頃から一年間ありませんので心配になり、内科一方の醫師に診察を乞ひますと、脚氣もあるとの事で、兩方の藥を内服した處、六月にはありました、處が又七月にないので今度は專門醫に診て貰ひましたら、子宮發育不全といはれ注射して貰ふと直ぐにありましたが、續けて治療するのは經濟が許しません、何か自宅療法はないでせうか。（藤岡町、津奈子）

其症狀から察して、子宮の發育異狀のやうに思はれます、診察の上でなければ確な事は云はれないが、もし小兒子宮などではないかと思はれる點もあります、それなら結婚後來潮し少量から漸次普通量となり、姙娠して正規分娩後に至り全く機能完全になる事があります、療法としては榮養の增進をはかり、骨盤内の血液の循環を旺盛ならしめ、適當の運動、榮養價のあるものを豐富に攝り、大根の干葉で腰湯などもよく、鐵劑及び卵巣製劑等の内服、局所療法としてはマッサージ、熱性膣洗滌、電療法、子宮内ブージーの挿入などはよいでせう、然し、許す限り專門醫の治療を受

る方が安内です。

月經と鼻血

十四年前、初經のある前に、非常な鼻血で困難した事がありますが、續いて月經があるやうになつてからはそんな事もなくなりましたが、今年五月からは毎月それでなやみ、電車の中でも鼻血がほたほた出るには困つてゐます、如何したのでせう。（磯子町、萬壽子）

女子の鼻出血は、所謂代償性月經といふて、一定時に子宮以外の臟器殊に鼻から出血する事はあります、甚だしき時は、其爲に本來の月經のない事もあります、あなたのも多分それでせうと思はれます、一應婦人科醫の診察をお受けなさい。

アンチピリンの連用により黑痣

月經痛の爲、アンチピリンを連用した爲、頸部及び上腿部、膝等に黑痣が生じたので驚いて服用を中止した處、頸部のは消失しましたが、他の部分は消えません、然るべき手當を。（下谷、飯守）

アンチビリンの代りに、フエナセチンかピラミドンなどを用ひたらよいでせう、尙カルチウム劑の內服や、クロールカルチウムの靜脈注射がきく事もあります、癌の處へはピチロール氏軟膏或はウイルソン氏軟膏の塗布太陽照射もよい。

子宮癌になる徵候か

四十三歲の女、十三歲から初潮を見ましたので、最早や更新期が近づいた事と思ひますが、昨秋あたりから兎角不規則となり、普通の月經の後四五日間は極少量の出血のある事もあり、又或時は一旦止まつて五、六日後に更に見ることなどありますので、子宮癌の徵候ではあるまいかと何となく氣遣はれます。（江古田、その）

月經の不規則と出血だけでは、子宮癌かどうかは診察して見なければわかりませんが、初期の徵候は殆ど何等の症狀をも現さず、漸次病勢進行に從つて出血、帶下、疼痛を來し、次いで全身症狀を呈して來ます、其中出血は多くは患者の訴ふる初めの徵候ですが、稀には病勢が可成り進むまで出血しない事もあります、次に帶下は初め水樣で量も多くなく、病勢進行につれて多量且膿樣を帶び血液さへも混ずるやうになります、疼痛は瘤腫の原發部から起つて來る事は少なく、多くは子宮

の周圍を侵すやうになつて來て初めて感ずる事が多く、病氣が進んで腫瘍が腐敗、分解でもして來れば、特別の惡臭を放つて來るものです、又骨盤臟器が侵されるやうになつて來れば、種々の臟器の症狀を呈して來ます、例へば膀胱では尿意頻數、排尿痛、尿瘻直腸では頑固な便秘を起して來たりして、甚しい時は直腸膣瘻を起して來る事などあります。

子宮癌の容態と快癒の方法

四十八歲の伯母、七月頃から子宮癌ではないかと心配して居ます。癌の初期はどの樣な容體でせうか、又癌八ケ月とか申して、八ケ月目位で死亡するとか、本當でせうか、手術せずに全快の道はありませんか。（日本橋、靜子）

必ずしも八ケ月で死亡するなどとは限つて居りません、伯母上のはどんな容體か分かりませんがもう症狀が現れて來るやうなのは、かなり進んで居るので最初は何等の苦痛も認めない事がありますそれ故醫師も患者も判斷に苦しむ事が往々あり、病氣が漸次進んで來れば出血、帶下、疼痛、次いで癌浸潤によつて起る骨盤諸臟器の諸症狀及び全身症狀で、其中の出血の狀態からいへば出血は不正で月經に關係してする事も又關係なく出血する事も、過激な勞働、便通等によりてもあ

ります、帶下は最初は水様で量は左程でないが病勢進行に連れて增加したり膿樣を帶たり、血液を混じたりします。追々病進んで腫瘍が腐敗分解するやうになると、其惡臭甚だしく一度病室に入るや既に臭氣を感ずるやうになり、もはや骨盤臓器が侵さるゝやうになれば、尿意頻數、放尿痛更に腎盂炎、腎臓炎を起して來る事もあり、其他食慾不振、惡心嘔吐、顏面蒼白、羸瘦等を來し、痛み方は多くは下腹部から下肢にまで及ぼし、苦痛は非常なものです、治療法は手術可能なら、子宮全刎出と同時に卵巣子宮に屬する淋巴腺は勿論骨盤結締組織も完全に除去する事が一番ですが、不可能者は止むを得ませんから、專門醫の適當な處置を受けるより外ありません。

子宮前屈と發育不全

子宮前屈發育不全ですが、昨年濱田病院では手術の必要もなく姙娠を認められたのですが、結婚五年になつてもまだ不姙です、月經はオヽホルミン服用の時のみ毎月あつてあとは三ヶ月に二回位しかありません、主人は健康體です、如何したら姙娠しませうか。（大森、みつ子）

御兩人のいづれに不姙の原因があるか否かは、診察の上でなければわかりませんが、お手紙の上から察すれば、あなたの生殖器發育不全が原因して居るのではないかと思はれる點があります、此

樣な場合近來卵巣製劑オヽホルミス或は大腦下垂體前葉ホルモンプベローゲンといふ藥も効あるやうですが、婦人科專門醫の處置をお受けなさい。

子宮後屈症を手術をせずに

醫師の診察の結果、子宮後屈症との事で手術を進められましたが受たくありません。手術でなく全治する手段あれば。（靜岡縣、心配女）

後屈に原因する症狀もなく合併症もない場合は、必ずしも手術を必要としません。後屈せる子宮を正規の位置に返す爲、ペッサリウムなどを用ひるだけでよい事もあります、然し醫師が手術的治療を必要と認めるならば手術を行はねばなりますまい。

時々めまひす

——子宮後屈の女——

子宮後屈との診斷を受け、服藥して居りますが、時々眩暈がして氣が遠くなる事があります、手術すれば全快するとの事ですが、手術によらず眩暈か治る方法はないでせうか。（蛇窪、川口）

子宮後屈であると、眩暈、腰痛、頭痛等種々の症狀が起り、不姙の原因ともなる事がありますから、出來得れば手術が比較的簡單に出來る病氣故、手術をなさる方がよいでせう。

胃下垂と婦人科的疾患

三十三歳の女、今年五月風をひいてから兎角神經が高ぶり、夜は安眠出來ず、消化不良を起したり腰も痛み、頸筋から腦まではつて來たり、肩から手先までしびれたりしますので、三四人の醫師にも診察を受けましたが、胃下垂症に婦人科の病氣もあるとの事、服藥も隨分しましたが未だに頸筋が張つて、後へ倒れさうになる事もあります。（宮城縣、ひさ子）

胃下垂症及び婦人科的疾患などから、神經衰弱を起したのではないかと思はれますから、先づそれらの原因を除くやうに攝生を守り、身體の强健に心掛けねばなりません、それには努めて戸外に出て日光に親しみ、適當の運動をして充分な睡眠をとるやうにして御覽なさい、食物は胃障碍もあるのですから、細心の注意をはらはねばなりません。

白帶下手當

——洗滌を續けても——

二十二歳の妻、數年前から白帶下が多く、婦人科醫の治療を受けたが、費用の點で二ヶ月程で止め自分で洗滌して居ますが一度でも洗滌を怠るとやはり少量でも下ります、此儘洗滌を續けて居ても、治る見込みはないでせうか。（下谷、岡田）

子宮内膜炎のやうに思はれます、經濟上の心配はありませうが、自宅療治は危險ですから專門醫の診察を受けて、原因を除くやうになさい、過激な事や、不攝生な行爲は病を進行させますから、成可く、安靜を保ち、榮養品で且淡泊な物を攝るやうになさい。

こしけに座藥

こしけに困つて居る者、座藥は使用しても危險ないでせうか、自覺症狀はこのほかにはありません。（平塚、とき）

結婚生活に入つてる婦人には、時々少量の白帶下のある事は、別段病的のものではないやうです

もし常に多量あるなら、婦人科的疾病があるのですから、醫療を受けなければなりません。座藥は一應診察を受けてからの事になさい。

脊の左部痛み

——月經前に白帶下——

一ケ月ばかり前から、脊の左の方が骨が押されるやうに、時としてはきりで揉まれるやうに痛みます、惡い病氣ではないでせうか、又月經前になるとこしけがあつて氣持惡いのです（栃木佐野、民子）

脊の痛むのは診察の上でなければわかりません、こしけは既婚婦で月經前に少しあるのは大して心配する事はありませぬ。

冷え性なる女

——その養生に就て——

二十四歳の獨身の女、大變冷え性で、冬になると腰が冷えて身體が寒く顏ほてり、白帶下下り、頭は重くなつて氣持惡いのです、夜寢ても足が冷えてたまりません、寒い時外出すると顏はさうけだつて蒼くなります、如何なる養生をしたらよいでせう。（淺草、清子）

其樣な症狀はよく婦人科的疾患から起つて來る事がありますから、婦人科醫の診察を受け、別に大した異狀もないやうでしたら少し戸外に出て、新鮮な空氣を呼吸し、日光に親しみ、適當の運動を行ひ、血液の循環をよくすると同時に、皮膚の抵抗力をつくるやうにすべきで、それには冷水摩擦（成るべく夏期より始む）硫黄浴などもよく、食物も榮養豐富なものを、偏食せず、適當に種々のものを攝り、胃腸を整へ便通の整調をなさい。

姙娠中と夫婦

姙娠して居るのです、昔の人は別火とか別居とか云ふ事をしたさうですが、今の人としてはどう考へてよいものでせうか。（京橋、藤代）

姙娠中に夫婦が同居して居ると生れた子供が健康でないと云ふ事が、野蠻の時代に體驗せられてその時代の誰かゝら別居の必要を唱へ初めたものと思はれます。併し別居して居る事が却て健康を害する事もありまして、同じ家に居ても別の火で食事をして別居して居ると同じ心掛けで居たのでせう。然し衞生の知識がすゝむにつれて現在の如き社會狀態になつたものと思ひます、で心得べき事は別火別居の心持で居ることです、若しお產が近くなりましてつゝしみませんと、出血したり

又黴菌が入つたりして產褥熱を起す恐れがあります、絕對的にこれはお愼みになることです、又器具を用ひたりする事もよくありません。

激しい惡阻

四回目の受胎ですが、惡阻がひどく賣藥やらおまじないなどして見ましたが、なか〳〵治りません良い方法を。（本田町、横塚）

惡阻は個人々々につて輕重があります、輕いものは生理的範圍とし、重症のは、病的と見なすべきです、あなたのは勿論醫師の處置を受けねばなりません。嘔吐劇しく、榮養障碍を起したら入院した方が安心です、兎に角注意としては心身の安靜を保ち、時としてはエモール、ユゴールの注射もよいが、子宮の位置異常が惡阻の誘因となる事もありますから、もしさうであつたらそれを整復し萬止むを得ない場合は人工流產を行つて母體を救はねばならぬこともあります、內服藥としては蓚酸セリウム、セルテル水などを用ひる事もありますが、左の處方によるもよい、半夏九・〇茯苓四・〇、蓋根二・〇、蒸溜水二〇〇・〇、右煎出し一日三回二日分服。

妊娠中の者腰の筋引つる

妊娠八ヶ月の初妊婦、立ち働きや坐つて仕事するには何等苦痛もありませんが、寢ると右の腰から膝までの筋が引きつゝて苦しいのです、自宅で手輕に樂にするには如何したらよいでせう。（京橋、日比谷生）

心配する事はありません、月の進むにつれ、牽引性の痛みを起すことはよくある事です、就眠前には座蒲團の樣な物を腰の下に數き、少し高くして寢て御覽なさい。

感冒治せず

——妊娠六月の女——

妊娠六ヶ月の者、一ヶ月位前から感冒に罹り、咳と痰が少し出るので、種々の賣藥を服用して居ますが、少しもよくなりません、氣分もよく、熱もないのです。（芝、歌子）

安靜にし、寒い外氣に觸れぬ樣、吸入濕布等をし、もし咽喉が腫てるやうでしたら、硼酸の含嗽をするか、ルゴール氏液の塗布でもして、次の如き處方により服藥して御覽なさい、吐根浸（〇・六）

一八〇・〇、ブロチン三・〇、杏仁水八・〇、單舍一〇・〇、右二日量一日數回服用

乳房硬くなる

——姙娠六ヶ月の女——

姙娠六ヶ月の者、四五日前から乳房硬くなり、薄い皮の様なものが破れ、乳孔より水が出ます、別に痛みはありません、姙娠に關係ない病氣でせうか、此儘にして置いて差支へありませんか。(激谷、よし子)

やはり姙娠に關係して居るのでせう、初姙の人には其様な事がある事があります、其儘放置しても差支へないが、硼酸溶液でも拭いて置くとよい。

姙娠中と旅行

姙娠六ヶ月目ですが、都合上郷里で産みたいと存じます、何ヶ月目位まで旅行は差支へないでせうか。(下谷、ふじ)

流産を起しやすい月は三ヶ月目位が最も多く、一ヶ月目よりは二ヶ月目の方が多い故二ヶ月位からは注意しなければなりません、五ヶ月六ヶ月となれば流産の恐れは比較的減じて來ますから運動も前よりも少し多くしてよいのです、旅行も汽車でも電車でも一日位の里程なら構ひません、然し惡通路を人力車や乘合馬車などで行く處はよくありません、九ヶ月目でも短距離なら差支へありません、たゞあまり體をゆすぶつつたり怒責ことはいけません、あまり月滿ちてからだと途中で異常があるといけませんから成可くなら今のうちに行かれる方がよい。

姙娠七ヶ月の女

——心臓少し惡い——

姙娠七ヶ月の初姙婦、健康診斷の結果心臓が少し惡いといはれました、自覺症狀としては時々動悸し、脈搏不正で九十前後時には胸部に痛みを覺えるやうな事があります、體格もよく姙娠前は健康でした、注意すべき事をお敎へ下さい。(濱松、清子)

一般に結核患者及び心臓の疾患などのある婦人は、程度によつては姙娠を避けるか、早期に中絶を行はねばならない場合があります、あなたの場合、診察の上でなければわかりませんが、最早や七ヶ月にもなつて居らるゝのですから撰生を重んじ、姙娠を經過し出來得れば醫師の手を以て分娩なさる方が安全と思ひます、但し普通の場合にも月が進むにつれて、横膈膜が下から押上られるの

で、呼吸困難、心臓の亢進を來し搏動數が增加して來る事はあります。

眼の下にしみ

四十二歳の女、四五年前左眼の下に、しみのやうな薄茶色の一錢銅貨位のもの出來、其儘にして置きますと、二十日頃になり又片方でも出來、非常に見苦しくなりました。（日本橋、今井）

肝斑卽ちしみの樣に思はれます、これは婦人に多く殊に姙娠に關係して生じ、分娩後褪色するも又一旦發生すると生涯取れない事もあります、其他慢性の子宮病に併發する事もあり、或は他の重症の內科病に併發する事もあります、治療法としては、原因と思はるゝ病氣があらば、それに對する治療を行ひ、輕い時はピチロール氏軟膏、ウィルソン氏軟膏とか過酸化水素水を塗布する事によつて除去する事もあり、又ヘブラ氏弱剝離膏かラッサール氏强剝離膏を用ひる事もあり、又何等方法を加へなくとも自然に消失することもあります。

胎兒の位置

姙娠七ヶ月まで正しい位置に居た子供が八ヶ月の初め頃に頭が上になりました、產婆が腹帶を上に締ろといひますが、其通りにして居て不安はないでせうか。（下谷、石山）

其樣な事はよくあります、其時は先づ胎兒の位置を正規に復して後腹帶をなすべきです、位置をなほさずに腹帶を上へしたとて何等意味がありません、專門醫か經驗ある產婆に賴んで早く位置を正しくしてお貰ひなさい。

產後の食べ物

——臥位等に就ても——

產後はどんな物を喰べたらよいでせう、ほうれん草、梅干、漬物類は惡いといふ人がありますが、如何でせう、又產後の臥位についても御敎へ願ひます、それから若腎臟病のあつた時等も。（勳坂、雅）

產後第一日及ひ二日は流動食、例へば重湯、葛湯、スープ、牛乳、肉汁、又は半流動性の食物、卽ち粥とか半熟の鷄卵等、第三四日からは漸次有形の食物にしてよく、殊に魚類の鯛、ひらめ、鰈等の刺身や煮魚、柔かい野菜類、玉子の料理等、少量から普通食に移る、第二週の初めには殆ど常食としてよく、但し便秘、下痢を起したり瓦斯の發生を促すやうなものや、アルコール類刺戟性の食物は控た方がよい、成るべく水分の多い滋養食を多量に取る事は、乳汁の分泌を助けてよいもの

で、例へばもち米の粥とか餅を桑かに煮たものとか鯉こくなどは然るべきものでせう、はうれん草は結構、梅干は酸が強いから惡いが少量は差支えなく、漬物類は味噌漬などは少量なら差支へないが、大體に於いて不消化物故控た方がよいでせう、臥位は初めの一日二日は、仰臥、第三日目から七夜位までは仰臥、横臥自由、七日以後は坐つてもよい位で、子宮の收縮もよく、下り物も少なくなれば、左右交互に横臥位を取れば、子宮後屈と床ずれとを豫防する事が出來ます、又腎臓の故障があるかどうかは尿の檢査をしてお貰ひなさい。

産後の血脚氣

産後の妻、血脚氣らしいのですが、其症狀療法を、又小供に此母乳を與へたらどんな害がありますか、尙此子が出べそですがどうしたら治りませう。（南小田原町、井坂）

姙娠中や産後は脚氣になり易い事ですが、無事に分娩を經過された事は幸ひです、症狀は種々ですが、先づ全身の倦怠、下肢の重感、歩行時の疲勞、腓腸部（ふくらはぎ）に緊張を覺え、握ると痛みあり、膝の關節ががくくしたり、口の周圍や手足が痺れたり、足に浮腫を呈したり、動悸を來したり、膝蓋腱反射（膝頭を叩いて見る事）は初め亢進し漸次消失します、其他消化障碍を起し食慾減退、時には嘔吐や便泌を來します、もし其乳を與へれば乳兒脚氣を來し、生命にも及ぼす樣な事さへあります、其場合乳兒は聲が嗄れ、不消化の綠便を排出し白い粒を認めることもあります、此病はよく腎臓や心臓と誤らるゝ事がありますから、愼重なる診察が必要です、治療法は食物の變換を計り野菜食を主とし、便通を整調し、濕地を避けて高燥な地に居住しビタミンB劑卽ちベリベロール、オリザニン、アンチベリベリン、コルンエキス等の内服及び注射をなさい、又出臍は脫脂綿を當て一錢銅貨（所るべく古い）を載せ、繃帶で輕くしばつて置くとよい。

初産後の脚氣

初産者で産後直く脚氣との診斷を受けましたが、如何なる手當をしたらよいでせう。（高田町しげ、雜司ヶ谷後藤）

姙娠中脚氣を起し、其儘お産をしたやうに思はれますが、乳兒脚氣を起さなかつたのは幸福でした、此際斷然授乳を中止し食物の變換をはかり、白米を食して居たら麥飯、玄米、半搗米、胚芽米等にかへ副食物は野菜を主とし、殊にキャベツとかトマトとかのビタミンを多く含むもの果物は蜜柑のやうなものを澤山お喰べなさい、藥劑はアンチベリベリン、オリザニン、ベリベロール等の内

服及び注射を醫師の指圖に從つてなさい、過激な勞働は控へ心身の安靜を保つべきです。

乳首に皺

五ヶ月前に出產したもの、赤ん坊の飲み方のはげしい爲か乳首に皺が出來て苦んで居ます、如何したものでせう。（千葉縣、惠美子）

少しの間授乳を禁じ亞鉛華オレーフ油な塗布して御覽なさい、それでも駄目なら外科醫に御相談なさい。

葡萄狀鬼胎

先頃五ヶ月で葡萄狀鬼胎なるものを出產しましたが、こんな事は其の時の身體の加減ですか如何でせう。（日本橋、君子）

其の原因はまだ明らかではありませんが、脈絡膜絨毛が囊腫狀に變化して大小無數の小囊となり其の中に透明の液を滿し、互に細い莖を以て連らなり、丁度葡萄房の樣に子宮腔內に充滿して來るので其の名があるのです、一度斯樣な事があつたからとて此後もさうとは限りません。

嘗て肋膜を患つた妊婦

私は目下妊娠三ヶ月の者ですが、昨年と一昨年の二夏輕い肋膜を患ひましたが、昨今では運動が過ぎると少し胸が痛い位で靜かにして居れば治ります、然し此樣な病氣をした者は、人工流產をせねばならぬ樣な時もあるさうですが、私は至つて胃腸健全で、夏でも食慾充分で發熱等もありません、目下惡阻もなくなり、食慾も出て來ましたが、牛乳を飲むと軟便となります、胎兒に惡くはないでせうか、榮養劑として肝油を服用して居ますが、やめた方がよいでせうか。（笄町、高橋）

人工流產の必要はない樣に思はれます、便通も軟便位で下痢しない程度なら、牛乳も止めるには及びません、肝油は兎角胃障碍を起しやすいものですが、目下胃腸も健全のやうですから連用差支へありません、此後も總てに注意し無事に出產さるゝことを希望します。

妊娠毎に苦む故

妻事姙娠毎に惡阻ひどく苦しみますから子供を産まぬやうにし健康に暮させたいと思ひます、レントゲンは有効でせうか。（群馬、山田）

レントゲン線で避姙する事も出來ますが、一二年位で、それより強く行ふ時は缺落症狀を起すことを覺悟せねばなりません、其他の方法としては矢張りコンドームとかペサリウム使用等の方が安全でせう。

缺落症狀とは

卵巣摘出後には缺落症狀を殘すと云はれましたが、其症狀とは如何なる事ですか。（麻布、花技）

卵巣摘出後の缺落症狀とは次の如きことです年頃になる前に去勢が行はれると男女共に性慾がなくなるものですが、大人になつてから行はれた時は必ずしもさうとは限りません、殊に去勢前に異性を知る場合には、性慾の缺損を來すことは稀です、但し勿論兩側の卵巣を摘出する時は閉經を來しますのみならず、顏面に髮毛を生じ、皮膚は粗糙となり、音聲が低調となり一般に男性の樣になります、又成年以後の去勢婦人に起る影響は、第一新陳代謝機能の障碍によつて脂肪の增加を來

し次に生殖器の萎縮、次に血管運動神經の障碍として一種の熱感、眩暈、心悸亢進、發汗、耳鳴、四肢の靈感其他精神的障碍を起し、精神憂鬱、記憶力の減退等を來します、是等が主な症狀で、尙其他種々の症狀を殘すことがあります。

流産後神經衰弱

三十六歲の女、昨年正月脚氣の爲、姙娠六ケ月で流産しました、それからは頭の中が變に氣持惡く耳鳴りはげしく、頭の中で鳴つてるやうに氣持が惡く、すぐ動悸したり、物事が氣になります、醫師は神經衰弱、心悸亢進と申されますが、何かよい藥はないでせうか。（川崎、喜子）

流産による精神的感動の爲の心身の疲勞尙去らず、輕い神經衰弱症狀を呈して居るのでせう、ブローム劑等の鎭靜劑をお用ひなさるとよい。

姙娠せぬか

——廓勤めした女——

廓つとめをしたことのある二十二歲の者結婚しても子供は絕對出來ぬでせうか、身體には別段惡い

處はありません。（山形縣、ふじ）

絶對的に姙娠せぬといふ理由はありませんが、あなたの婦人科的疾患は完全に治つて居るものか又御主人にも何等不姙の原因を認めぬならば姙娠可能と思はれます、一度お二人共診察をお受けになり、其結果原因があつたら治療をお受けなさい、長い間の務めの身には慢性の性病のある事と精蟲に對する抗體が出來て來るので、精蟲を死滅せしめて姙娠せぬといふ人もありますが、實際に於いて姙娠して居る人もあります。

小兒科

子供の感冒とその母親の便秘

滿一年七ヶ月の男の子、少し風を引くとすぐ咳が出て、胸のあたりに啖がからんで居るやうにぜいぜいし、治りが遲いのです、如何なる手當をしたらよいでせうが、又二十六歳の女通じ惡く、五六日もない事があります。（八王子、ふみ）

先づ室内の空氣を乾燥させぬやうに蒸氣を立て一プロセント位の重曹水の吸入と温濕布等をし、あまり熱が高いやうな時は、氷嚢で頭部を冷やし、尙風を引て居ると、どうしてもお腹の方も同時にこわすものですから、食物に注意し、内服藥は醫師の指圖に從つて用ひた方がよい、一方便秘は適當に野菜食を攝るやうにし、通じがあつてもなくても、一定の時間に便所に行く習慣をつけ、どうしても無い時は、重曹四・〇瓦キサトール〇・八右分六包毎食後三十分に服用して見てもし通じがつけば次第に分量を減ずるやうにして御覽なさい。

しやつくりがよく出る乳兒

九月末に生れた男兒、おむつを取換へたりして動かすと、しやつくりが出てなか〳〵止まらぬ事があります、一種の病氣でせうか、如何でせう。（馬道、星野）

乳兒のしやくりはよくあるもので別に病的ではありません、出た時はお乳か砂糖湯でものませれば大抵止まります。

痙攣の原因と其手當

四歳の男の子、毎月四五回づゝひきつけます、常は一見丈夫の樣ですが、感冒に罹つたり腸でも惡くした時に必ずひきつけます、其都度醫者に見せます。其原因がわかりません、此儘にして置いても差支へありませんか。（小石川、せき）

一見丈夫さうでも虛弱な體質であつて、痙攣性素質があるのでせう、其樣な子供は感冒に侵された時や、其他の疾病の時にひきつけを起すことはよくあります、故に日頃特に健康に注意して病氣にかけぬやう注意しなければなりませぬ、それには食物の注意が最も必要です、もしお腹をこわしたら、すぐ下劑卽ちヒマシ油（一〇グラム位を三時間の間を置き二回に服用）を與へ、腸洗滌をすることもよい、其後一日位は番茶、野菜のスープ位にして、次第に增加して行くやうにすればよい其他の場合は醫師に相談の上になさい、年齡の進むに從ひひきつけも次第に少なくなつて行きませう。

咳に惱む子

——治療と豫防法——

二年二ケ月の男の子、半月程前からひどい咳に惱まされ、醫者により氣管支喘息或ひは百日咳と診斷され、いづれを信用してよいか迷つて居ります、治療法及び豫防法を。（中野、岩田）

診察の上發作の狀態を見なければはつきりしませんが、年齡からいつても百日咳ではないかと思はれます、さうとすれば寒い時流行する恐ろしい小兒の傳染病故先づ經驗ある小兒科專門醫の治療を受け、空氣の流通よき、日光の射入充分な室を選び、消化よき食物を與へ、室を暖め、常に湯氣を立てゝ空氣の乾燥を防ぎ、其の他濕布、吸入等怠らず手當をなさらなければなりません、此病氣は兎角豫後は虛弱となり、所謂潛伏結核等を殘す事がありますから、注意せねばなりません、又豫防

法としては患者を隔離する事、咯痰の消毒は勿論、患兒の使用した物品を消毒し、一家内に患者あれば他の健康兒に豫防注射（ワクチン注射）なども必要です。

咳をする子供

——吸入藥の處方も——

十歳の男子、體も大きく丈夫です。二三年前から咳をよくするのです、氣管支カタルとか咽喉カタルとか診斷は區々で、毎夜吸入して居ます、どこの加減で咳かするのでせうか、吸入藥の處方も御教へ下さい。（小山、高村）

一體に胸腺淋巴性の體質のやうに思はれます、其爲感冒に犯され易いのでせう、出來るだけ空氣のよい處に起居させ、榮養品を多く攝らせ、時々二プロセントの硼酸水で含嗽をさせるやうになさい、吸入藥は重曹八・〇、食鹽四、〇、グリセリン一五、〇、水四〇〇、〇位のでよいでせう。

咳が激しい幼兒

三歳の男の子、咳がひどく出るので診察を受けますと寢冷えとの事です、咳止めの煎藥はないでせうか。（今戸、ろく）

咳止めの藥は吐根浸（〇・一）六〇・〇、ブロチン一・〇、ヂギタミン一・〇、單舍一〇・〇（二日量一日數回に服用）の處方で與へ、其他吸入を度々させるとよい、吸入藥は重曹八・〇、食鹽四・〇、グリセリン一〇・〇、淨水四〇〇・〇の割で作つたもの、又は胸部に溫濕布をなさい。

八歳の女兒

——ていねい栓塞——

八歳の女兒、過日學校で身體檢査の結果ていねい栓塞故、四月一日の入學式までに治癒させるやうにとの事でした、此病氣は如何したものでせう、尤も此兒は二歳の時兩方の中耳炎を患ひ專門醫の治療を受けた事があります。（牛込、其母）

ていねい栓塞とは、俗にいふ耳垢卽ち外聽道に分泌する粘い液體が固まつて閉塞を起したもので、ていねい腺の分泌が旺盛で、其排除が充分でない爲に、外聽道壁の剝離した表皮と混じて固まり、集積されて來るのです、それ故治療法は耳垢を掃除すればよいのですが、素人が耳搔などで勝手にやつて、種々の耳の病氣を引起すことがありますからよく注意し、醫師の處置を受ければ安全です、もし此樣な場合家庭で行ふのでしたら、最も簡單な方法としてはオレーフ油を注ぎ込み、一

兩日置いて軟かくなつた時、スポイトにぬるま湯を含ませたもので洗ひ出すか、或は脱脂綿を耳掻の先につけてオレーフ油を含ませて拭取るとよい。

疫痢の原因と其最初の症狀

六歳を頭に三人の母ですが、去る五月五歳の小供を疫痢でとられましたから、此後の注意として其原因及び最初の症狀等をお教へ下さい。（浅草、小林）

疫痢は大腸菌に似て居る一種の細菌によつて起る病氣であると見做され、二歳から六歳位の小兒に最も多く、食物の過失からが一番多い、例へば羊羹、不潔な駄菓子類、氷あづき、澤庵其他未熟、又は古い果物類及びさほど不消化物でなくとも喰べ過ぎによつて、喰べつけぬ物を喰べた時や、寢冷えした時など少し抵抗力の弱つてる時などに犯され易く、最初の症狀は今まで元氣に遊んで居たのに突然元氣なくだるさうな樣子となり、顏色蒼白を呈し高熱を出し、動悸烈しく、脈の數も多くなり、粘液の混じた下痢便を出し、血液や膿の混じて居る事もあります、腹部は綿のやうに柔かくなり、嘔吐、痙攣の伴なふ事や昏睡狀態に陷る事もあります。

男の子泣く度に

生後六ケ月の男の子、二ケ月位前から睾丸が泣く度にふくれ、さし入れますと元通りになりますが手術しなければ治らぬでせうか、他には異常なく元氣です。（世田ケ谷、戸村）

脱腸帶を用ひて押へて置き、三四になつても出るやうでしたら、手術により根本的に治療した方がよいでせう。

幼兒の便通と乳を多く出すには

生れて八十日になる男の子、便通が自然にありません、如何したら自然に毎日あるやうになりませうか、それから母乳が澤山出る樣にするにはどんな食物がよいでせう。（蒲田町、はる）

乳が不足なのではないでせうか、乳を澤山出すには、適當に働いて蛋白質やビタミンの豐富なものを適當に攝り、精神的苦痛のないやうに心掛け、かまはずどん〳〵吸はせれば漸次多く出て來ます。

幼兒の下り物

四歳の女子、二三日前からこしけ様の下り物がします、元氣は別に變りありません手當を。（濟町、小倉）

多分肛門からけう蟲でも出て膣の方へまはり膣炎でも起し、其様な症狀を呈するのではないかと思はれる、或は細菌によるものかも知れませんが、一應醫師の診察を受け、果してけう蟲であつたら、〇・五プロセント位のチモール液で洗滌して御覽なさい。

幼兒の湯癲癇

——原因と其處置を——

生後一年八ヶ月の男の子、湯癲癇で入浴毎に失神します、平常は至極元氣ですが、顏色、發育共に良好ではありません、其原因、適當な處置をお敎へ下さい、又此病は一生治らぬとかいひますが果してそうでせうか。（栃木、田村）

癲癇は遺傳性のものが多く、殊に親に淋毒のある場合とか、大酒家である爲に子供に起る事があります、又精神病の系統のある者にも起るなどいひますが、未だ確實な原因は認められて居ません治療法は衞生食餌に注意し、規則的な生活をさせ、精神的の安靜が必要です、食物はお兒さんですから、刺戟性、アルコール性の飲食物を與ふる心配はありますまいが、肉食を禁じ野菜食を主とし、便通を整調し入湯はなるべくひかへて、微溫湯で身體を洗滌する位に止めて置く方がよい、玩具なども危險なものを避け、發作の長い時は、胸を開き呼吸を自由にし、灌腸して醫師の處置を受くべきです。內服藥は普通ブローム劑が用ひられますが、近來ルミナールが多く用ひられて居ます、これは云ふ迄もなく醫師の指圖によらなくてはなりません、絕對に治らぬ事もありますまいが、先つ治り難い病氣で、眞症の癲癇は豫後不良です。

出生當時から頭が大きくて

三歳の男の子、出生當時から頭部少し大きく、昨今では六七歳位の大きさとなり、頭髮は生れた當時と少しも變りなく伸びません、頭部の水を毎週一回づゝ取らねば他に治療法はないとの事故、いづれ他日其治療を受けるつもりですが、今までは氣分や言語動作等に異常なく、發育も普通で、何等苦痛も訴へません、元氣故つい治療を延々にして居ますが、水を取去れば必ず治るでせうか、捨て置け

ば如何なる結果になるでせう。（京都、青木）

先天性腦水腫といふ病氣のやうに思はれます、治療を延び〳〵にすれば益々惡くなつて來ますから早くなさる方がよい、水を取り去るといふ事は、腰推穿刺で脊髓液を取る事で、一般に行はれて居る事ですが、取つたから必ず治るとも限りません、原因と思はるゝ病氣の治療をすべきです、原因は明かでないが、先天性黴毒、佝僂病などからともいひ、或は親の大酒、近親結婚の爲だとか種種の說があります、其他の治療としては、衞生滋養療法、利尿劑、下劑、或は沃度加里の內服、灰白軟膏の塗布又は絆創膏で頭部の壓迫法なども行はれます。

血友病に罹りて

當年三歲の幼女、血友病で少しの傷にも出血し、容易に止まりません、此の病氣は治るものでせうか。（人形町、白井）

大抵豫後は不良ですが、年齡の進むにつれ、危險率を減じ、二十歲を越え、高齡に至るに從つて出血の常習を減ずるやうになります、此病氣は多く遺傳關係から來ますから豫防法としては先づ婚姻關係に注意することで殊に女子は結婚を避けた方がよいのです、治療法としては外傷をせぬやうにし消化し易い榮養物を攝り、刺戟性の飮食物を避け、出血の程度によつては外科的治療を受けなければなりません、藥としてはゲラチン、カチユームなどの注射及び內服其他種々の止血藥を用ひます。

首の曲つた幼兒

昨年十二月生れの女兒、出產當時から首が右方へ少し曲つて居たので、小兒科醫は誕生日が過ぎたら手術するがよいといふし、整形科醫は左右の顎へ手をかけ引張るやうにしてやれば治ると事、常には眞直ぐにして居る時もありますが、曲げてる時が多いのです、然し曲る方をよく見ると、三本の筋が詰つて居ますが、果して整形科醫のいはるゝ通りにして手術せずに直りませうか、又近頃手走や顏に小さい水疱が出來、破れて蔓延し困つて居ります。（隅田、山崎）

按摩法或は牽引法などによつて自然に治るのでないかと思はれますが、尙今一度帝大の整形外科に行つてごらんなさい、一方のは飛火のやうなものではないかと思はれます、亞鉛華オレーフ油を塗布し、其上に亞鉛華澱粉を撒布して繃帶をし、他部にうつらぬやうにすれば自然に治ります。

奇聲を發する子

昨年八月生れの男の子、至つて勝氣ですが、時々キイ〳〵と奇聲を發します、物を要求する時や氣に入らぬ時などです。（芝、節子）

俗にいふ蟲が起つたのでせう、意地をやかせず、充分な睡眠を取らせ、のんびりと育てゝ御覽なさい。

幼兒の臍が出て

昨年十一月生れの男の子、二三回非常に泣いた爲か、臍が出たので綿を當て押へで見ましたが、少し位では又元のやうになつてしまひます。（牛込、清）

綿だけでなく、一錢銅貨の大きい方を脱脂綿の上へのせ、しばつて置いて御覽なさい。

幼兒の齒が不正に生えて

七歳の男の子、新しく出た齒が横に生えたり裏に生えたりしました、矯正は何歳位が適當でせうか（本郷、其母）

齒列の不正は何時起るかといへば乳齒の時代には大低揃つて居ますが、拔け變つて永久齒となる時の不注意から乳齒時代によく口腔を掃除しなかつたりすると、新しく出て來る齒が不並びであつたり亂杭齒であつたりします、又乳齒の根の吸收が遲れたり不充分であつたりすると齒列の不正を來すこともあります、此樣な事はよく其小兒の榮養狀態がよくないやうな時に見受けます、又遺傳的關係もありますから一概にはいへませんが、兎に角此儘放置して置く事は消化障碍を起し、從つて胃腸病などに罹り且醜形を殘すことは明かですから、三四年經つたら矯正術をお受けになる方がよいでせう。

幼兒の好嫌

四歳の男の子、朝晩の食事毎に生卵でなければ食べません、差支へないでせうか、野菜も魚肉も食べませぬ。（入谷、河邊）

發育盛りの年頃故、生の卵は結構ですが、同時に野菜果實類等も喰べるやうにした方がよく、但し莢豆類及び之に類する不消化の食物は避けた方がよいのです、あまり蛋白質を多く喰べさせると食慾不振、便秘、神經興奮症などを起すことがあります、此年頃には一定の食物をいやがつて喰べない事がありますから、其様な時は、一時これに代るやうな食物を與へ次第に其癖を治すやうに努めなければなりません、總て種々の食物を混交して與へる様に心掛けなさい。

幼兒に障らぬ榮養品

——三歳の子の食物——

一昨年九月生れの男の子、誕生當時はぶく〳〵肥つて居ましたが、近頃段々痩て來ました、昨今御飯を少しづゝ與へて居ますが、母乳を欲しがつて困ります、牛乳はいやがりますが、玉子なら喜びます他に障らない榮養に當んだ適當のものはないでせうか、ラクトーゲンなどは如何でせう（長岡市小林）

段々痩て來るのは、成長するに從つて子供自身の運動もついて來ますし、身長の方へも伸びて來る爲もありますから、心配する事はありますまいが、もう生後一年七ヶ月にもなるにしては少し食

事など遲れて居るやうに思はれます、然し急に食物を換る事は危險故、段々に母乳はもう止めて、牛乳は嫌がるなら無理に與へなへともよく、ラクトーゲンはもし好んで飲めば、御飯の間に與へて差支へありません、副食物には半熟の卵黄、輕い鳥肉、白身の魚の刺身又は煮付、ほうれん草、馬鈴薯、人參、大根等の軟かく調理したものから、漸次諸種の食品に及ぼすやうにして御覽なさい。

外科

痔瘻の原因とその治療法

痔瘻となる原因及び治療法を、又カルシウム鑛泉の温浴は如何でせう、よいとせば一日何回でせうか。（龜澤町、山田）

痔瘻は大部分結核性ですが、稀に黴毒性或は其他の原因による事もあります、專門醫の治療を受け同時に他の部分の結核に對する治療をも行はねばなりません、カルシウム鑛泉もよいでせうが、痔瘻に對しての効果は期待する程ではありません、回數は一日一回位が適當でせう。

扁平足に就て

私の足には土踏まずが無いのです、何とかならぬでせうか、兵隊に出られぬとかいひますが、本當

ですか。（横濱、正吉）

扁平足は職業的に來るものが多く、即ち理髮職、鍛冶職、石工等は其主なもので、足の過重の負擔によつて起るのです、年齡は十七八歳の頃が多く、生れつきの事もあります、右の如き職業から來たものは其職業を變へる事は一番よい治療法ですが、不可能な事ですから足の筋肉を强くする爲にマッサージをするとか、靴の內底（土踏まずの處）に支柱して內側を高くするか、或は痲痺せるものは腱移植術を行ふ事もあります、兵役に關しては兵種によつて採用しないかも知れません。

ガニマタは治る

三歳の子供ガニマタですが、手當次第で必ず治るでせうか、尙整形外科のある餘り費用のかゝらぬ所をお敎へ下さい。（吉祥寺、堀田）

手當次第で治る方が多い、大學病院の整形外科の施療へでも行らしたらよいでせう。

痔出血手術後

——體に斷えず故障——

四十八歳の女、四年前に痔出血で手術してからは、心悸亢進症を起したり、眩暈したり、胃が惡くなつたりして、二三の醫者の診察も受けましたが、血の加減だの胃腸が下つてるだの、胃腸を丈夫にすればよいなどいはれてさつぱりわかりません、夫は昨年肋膜で二男は四年程前に腸結核で死去したので、それやこれや思ふともしや腸結核ではないかと心配して居ます、便は常に軟かく、便通每に氣分が惡くなりますが食事は美味しく咳も熱もありません、どうしたのでせう。（南佐久間町、心配の女）

診察の上でなければ確な事はわかりませんが、腸結核ではありますまい、もし腸結核なら、多くの場合頑固な下痢を續け、其便の中には粘液膿を混じ、時には血液を混ずることもありますし、其他全身の他の部分に結核性の病變即ち痛み、日晡熱、寢汗、衰弱等を伴ふものです、あなたのは胃腸障碍のある事は確な樣に思はれますから、然るべき醫師の處置をお受けなさい。

くるぶし腫る

くるぶしの周圍が腫て痛むので診察を受けた處、甲狀線が腫て居るが、注射を三回すれば治るとの事で二回までしたけれども、効果なく昨今は二の腕から指先やで腫上り、非常に痛くて眠る事も出來ぬ位です。（小石川、林）

くるぶしの腫たのと甲狀線の腫脹とは別問題のやうに思はれますが、診察の上でなければ確な事はわかりません、前膊の腫たのは注射の爲の樣ですから、其中に治ると思ひますが、心配でしたなら外科醫の診察をお受なさい。

皮膚科

そばかす治療

そばかすの爲に困つて居ます、手當を。（淺草、牧野）

そばかすは小兒や思春期に生じ遺傳の關係があるやうで、なか〳〵全治し難いものです、治療法は一つ〳〵腐蝕するか、剝離膏を用ひて表皮細胞と共に色素を除くのです。腐蝕藥としては結晶石炭酸、稀薄な鹽酸、苛性加里等を用ひますが、多くの斑點に同時に用ひる事は出來ません。又一〇%苛性加里液に米を數時間浸し、透明となつた時に摺つて糊とし、塗布後洗滌を繰返して行くか、剝離膏としてはヘブラ氏夏日斑軟膏即ち白降汞、次硝酸蒼鉛を各五・〇グリセリン軟膏二〇・〇を毎日一回塗擦するか（數日で皮膚潮紅し落屑すれば一旦中止す）二%の過酸化水素で一日二回三十分宛罨法するもよい。

にきびの治療

にきひが多くて困つて居ます、如何したらよいでせう。（木更津鈴木、愛宕下小野澤、埼玉新井）

にきびは多くは年頃の人に出來るので、よく性慾を抑制す爲からだなどいひますが、何等理由のない事で、皮脂の分泌多量の爲、毛嚢開口部に皮脂が停滞し、閉塞を來すもので脂肪の多い人に出來ますが營養障碍のある人にも出來ます、故に脂顔の人は日頃から硼砂を少量入れた微溫湯で洗顔すれば、多少脂肪の分泌を防ぐ事が出來ます、治療法としては小さいものは爪で押出すもよいが、細菌の入る危險がありますから、にきび壓出器を用ひるとか、押出した後をよく洗滌し、加里石鹸精を塗布すればよい、少ない時にはビック氏軟膏を用ひて吸出すか、又就寢前に洗顔し、クンメルフエルト氏液を塗布するもよい、一般に諸種の硫黄酸が有効で常に便通の整調は大切な事です。

にきびの藥

十九歳の男子、にきびが甚たしいので困つて居ます、良き内服藥があつたらお教へ下さい、（牛込、北田其他）

にきびの内服藥として特に推奨すべきものはありません、もし胃腸惡く、便秘症の様でしたら常にそれを製調するやうになさい、一體に脂肪の多い人に出來る事もあるが、又反對に榮養不良の人にも出來る事があります、然し今少し年齢が進めば漸次治ります、局所療法としては、クンメルフエルト氏液を塗布し、大きいものにはビック氏硬膏もよい、毎朝の洗顔には硼酸を入れた溫湯を用ふれば、幾分豫防になります。

にきびの手當

十九歳の男子、にきびの大きいのか出來、手當の結果治りましたが唇の傍らに迄少し出來又口内には白いものが出來ました藥をお教へ下さい。（池ノ端鈴木、石岡渡邊）

にきびはあなた位の年頃の人に多く出來る事がありますが、又虚弱の人や胃腸障碍等の人に出來る事もあります、兎も角胃腸障碍があるならそれに對する治療をし便通を整調し、局所療法としてはクンメルフエルト氏液を塗布し、大きい物にはビック氏硬膏をつけるもよく、日頃洗顔をするに硼酸を入れて溫湯ですれば幾分豫防になります、口内は二%の硼酸水で含嗽なさい、内服藥は診

察の上お貰ひなさい。

にきびの痕を

にきびの痕が殘り、見苦しくて困つて居ます、何とか自宅で簡單に治す方法があつたらお教へ下さい。（本郷、宮本）

過酸化水素クリームなどを擦り込んで御覽なさい。

凍傷の豫防法

十八歳の女、毎年手に凍傷が出來ます、今から何とか豫防法はないものでせうか（前橋光子、其他）

凍傷は一般に虛弱な人、即ち貧血性、腺病質性、循環器系障碍のある人等には出來易いものですから、それ等體質の人は日頃から强壯劑、例へば肝油、ヴィタミンA、砒素劑、鐵劑等を用ひ健康な體格の持主となるやらに努力しなければなりません、又現在の狀態により、夏頃から冷水摩擦を始めるのも、マッサージ及び電氣療法等を行ふもよい其他手足を濡らした時は、其儘乾かさぬ

やうによく乾いたタオルで拭去り、常に窮屈でない暖かい足袋や手袋其他のものを用ひ、朝夕手足を溫湯に卅分位浸して後よく拭去る事、尙出來るだけ毎日入浴し浴後ベルツ氏液を擦り込む事等まめに手當が肝腎です。

疥癬が傳染す

二十三歳の奉公中の者ですが疥癬を友達から傳染され、一時は非常に難儀しましたが、藥湯へ入つたり、硫黃を塗布したりしたので年一年と出方が少なくなり、此頃は大分樂になりましたが時々出て來ます、適當な塗布藥を御敎へ下さい。（本郷、狩田）

程度によつて治療法も違ひますが、土肥氏の爹兒膏は何れの症にもよいやうです、用ひ方は充分に擦り込み、其上へ亞鉛華澱粉を撒布し、繃帶し、毎日一回塗りかへ入浴の際軟膏を洗ひ落し再び塗布するやうにして御覽なさい、尙ウイルキンソン氏軟膏も重症の場合には用ひる事がありますが皮膚を刺戟しますから注意して用ひなければなりません、尙肌着類は出來るだけ淸潔にし、治療前に用ひたシャツや布團などは蒸氣消毒か乾燥消毒をして後に用ゐるやうになさい。

しらくもの手當

五歳の男兒、昨年四月から頭部に白癬出來、醫師、藥局等の藥を塗布しても容易に治りません、治療方法を。（駿州大宮町、栗田）

種々の藥を用ひて効がないやうでしたらレントゲン線療法によらるゝがよいと思ひます、又土肥氏の爹兒膏を頭部に擦り込み擦り換の度に患部を酒精、依的兒加里石鹼精等で洗拭し、それを繰返して御覽なさい、一般に皮膚病は同じ病氣であつても程度によつて使用する藥が異なるものですから、專門醫の處置の下に行はないと効がありません。

なまずの治療

「なまず」で困難して居ります、治療法を。（戸越松澤、那須郡、高木）

「なまず」は身體には別に關係なくたゞ美貌を損ずるばかりですが、なか〳〵治りにくい皮膚病です、塗布藥は種々用ひますがあまり効はありません、人工太陽燈照射其他各種菫外線の照射及びレントゲン線療法も行はれますが、患部の小さな場合は比較的有効です、一應血液檢査を受け其結果黴毒の反應があつたら、驅梅療法を行ひ、塗布藥は醫師と相談の上になる方がよい。

疣の治療に付

疣が出來、スピール膏を貼りましたがさつぱり効はありません、紫外光線で治りませうか。（離司ケ谷千代、一橋竹内其他）

疣の治療には、內服藥として昔から薏苡仁の煎劑がよく用ひられて居ますが、砒素劑の內服も効があるやうです、多發した場合には、レントゲン療法或は電氣分解法が最もよい、但し場所によつて不可能のこともあります。又乳酸二・〇サルチール酸、三・〇コロヂウム、五〇・〇の處方藥を塗布するも其の他種々の腐蝕藥を用ひる事もあります、いづれにせよ一應皮膚科專門醫の處置を受けた方がよい、紫外線療法も惡くはありません。

あぶら顏の手當

脂顔で困ります、何かよい藥をお教へ下さい。（品川、隆山）

溫湯で度々洗顔し、石鹼でよく脂を洗ひ落すのですが、其湯の中へ硼酸を少し溶かせば尙よい夜は必ず就寢前に洗顔し、其あとへクンメルフエルト氏液を塗布してもよい、食物は刺戟性のものや脂肪を多く含んだものは控へ、便通の整調をはかる事が大切です。

鮫肌のやうな體

三歳の女の子、全身鮫肌のやうになり、時に手足を非常に痒がります。（横濱、矢野）

毎日バスペップか何かの硫黄泉浴をさせて御覽なさい、又手足の痒がる處へは、ピチロールウイルソン軟膏をすり込んでおあげなさい。

體にぽつ〳〵

十五歳の娘、二、三年前から身體にぽつ〳〵が出來、今では全體に出來きめは惡く鮫肌のやうになつて居ます、適當な藥と手當を。（下谷、尾崎）

年頃の少女によく見受くる皮膚疾患で、年齢の進むにつれて消失するものです、常に洗滌には加里石鹼を用ひ、塗布劑としては一―二%位のサルチール酸軟膏、硫黄軟膏等を用ひて御覽なさい、尙レントゲン線放射や人工太陽燈照射も有効です、兎に角一度皮膚科醫の診察をお受けなさい。

粟粒狀の吹出

數ヶ月前から、肩胛部に粟粒狀の吹出物生じ、其部分のみ暗紫色を呈し、かゆみを覺え、賣藥の塗布などして居ましたが、なか〳〵治らぬので困つて居ます。（秩父、小松）

普通の濕疹か、或は發汗の爲に生じた粟粒疹ではないかと思はれます、刺戟性藥品の塗布などより、寧ろ亞鉛華澱粉などの撒布か亞鉛華軟膏の塗布などの方がよいでせう。

皸裂性濕疹

二十歳の女、昨年八月から指先の皮が厚くなつて荒れ始め、今では掌まで擴がりました、皸裂性太陽燈照射などは有効の事があります。

濕疹との事で、皮膚科專門醫の治療を受けて居りますが、少しも治りません、なほり切らぬものでせうか。（横濱、八重子）

それは卽ちあかぎれの事です、治らぬ事はありません、それを誘發するやうな病氣例へば腺病質貧血消化器病其他の病氣を有するものは先づ其方の治療を行ひ、外部からの刺戟殊に搔きむしつたり、寒冷の空氣に逢つたり、烈風等に曝すこと等を禁じ、硫黃泉や鑛泉などの温浴硼酸軟膏アカギレ膏の塗布ベルツ水のすり込み太陽燈の照射其他食餌療法として刺戟性食物及び鹽物等を禁じ、脂肪の豐富なものを胃腸を害さぬ程度に食し便通を整調することなどに心掛けたらよいでせう。

蕁麻疹の原因

——症狀と療法とを——

蕁麻疹の症狀、發疹原因及び療法をお敎へ下さい。（横濱、古屋）

皮膚の血管運動神經性の障碍であつて、生れる時から其素因のあることもあるし、又稀には遺傳するもあり、又蚊、虱、蚤等に螫れたり、或種の植物の接觸により、藥物等の化學的刺戟等によつても起りますし、其他食物によつて消化器の障碍例へば乾物、鹽鮭、鰕、筍、菌類などの食用、婦人科的疾患神經衰弱、ヒステリー等の神經症、及び種々の內部の病氣ある場合に起る事があります、症狀は皮膚に痒味を感じ、これを搔けば其部分に充血浮腫を來し、浮腫は稍硬く、皮膚面よりも僅に隆起し、境界が明かで、色は紅い場合も白い場合もあり、紅暈を帶び搔けば生じ忽ちにして全身に擴がる事があります、形は圓形、楕圓形、融合する事等各種の形狀を呈し、多數一時に出來ることもあるが多くは一時的に消えます、又漿液の滲出が多ければ大小の水疱を形成する事があります、治療法としては先づ其原因を除去する事ですが塗布藥としては二乃至五パーセントの亞鉛華軟膏、一パーセントのメントール酒精、百倍のチモール酒精等其他人工太陽燈の照射、カルチユーム或は生理的食鹽水の靜脈注射（〇、九位の）等、食餌療法としては、アルコール類、刺戟性の食物等を避ける方がよい。

海水浴の際に全身に吹出物が

去る八月中、某遊園地で海水浴をした處、歸宅後全身に蟲にさゝれた樣な赤い吹き出がして、未だに治りません。（落合、照子）

やはり蕁麻疹のやうに思はれます、一體蕁麻疹といふものは、皮膚の血管運動神經の障碍であなたの場合は、海水中の微生物の刺戟や、海水の化學的刺戟などが誘因となつて起つたのか或は其日

喰べた飲食物の關係から誘發されたのか一様にはいへません、又體質的素因をも考へねばなりませぬ、兎に角原因を確めて治療すると同時にカルチウム注射かブロームとカルチウムの混劑卽ちブロカノン、ユクロミンなどの注射、或は生理的食鹽水などは有効です、又場合によつては、太陽燈照射、硫黄浴などの効ある事もあります、搔痒に對しては一%のメントール酒精、百倍位のチモール酒精などを塗布する事もあるが醫師と相談の上行はねばなりません。

痒い處を搔く

爪の痕がみゝずの如く腫れ、時間がたつと治ります、どうしたことでせうか。（隅田、ふく）

體質から來るもので、人工蕁麻疹といふものでせう、成べく搔かぬやうになさい。

脊と胸や顏に吹出ものして

二十五歳の女、十九歳位の時から冬になると、脊と胸にぶつ〳〵が出來、夏になると治ります、又顏に脂肪多く、白粉がはけ易く醜いのですが、何か方法あれば、其他絕えず顏に吹出し、つぶすと膿

が出てあばたのやうにいつまでも取れません、前の脊と胸のは梅毒性のやうな事を聞きましたから、血液檢査を受けた處、何もないとの事です。（四谷、きく子）

血液檢査の結果、陰性であつたら、其發疹は黴毒性でない事はわかつたのですから、さして心配する事はないと思ひます、多分、皮脂の分秘多量によつて生ずる、單純性痤瘡といふものでせう、それが顏面に於いては面皰となつて現れるのです、消化不良や子宮疾患が原因となる事もあります一般療法としては刺戟性のものや、脂肪に富んだものは避け、便通を整調する事が必要です、下劑の必要あれば緩下劑、殊に硫黄劑がよい、內服藥としては、亞細亞丸、砒鐵丸等又溫泉療法などもよいでせう、又面皰の局所療法としては顏面洗滌に加里石鹼を用ひ、外用藥としては、硫黄、昇汞レゾルチン、チオノール等を種々の處方によつて用ひるもよい。其他太陽燈も、ホルモンの注射の効ある事もあります、然し年齡が進むにつれて自然に治つて來るものです、注意としては硫黄の塗布を行ふ時は鉛分を含んだ白粉は禁じなければなりませんし、昇汞を用ひる時は硫黄を用ひてはなりません、白粉のはけやすいのは度々加里石鹼で脂肪を洗ひ落して胡瓜水の如きものをつけて化粧なさい。

皮脂漏の原因と治療法

皮脂漏の原因及び治療法を御教へ下さい。（横須賀、井口）

皮脂漏とは、皮脂腺の分秘過多から起つて來る病氣で頭部、顏面、頸部、陰部、などに多く起るものです、皮脂が多く出て油を塗布したやうになることも、患部の皮膚に分秘物が沈着して、脂肪に富んだ痂皮を作り黃色を呈する事もあります、卽ち頭部に於いては頭髮は光澤を失ひ、屢々脫落を來します、これは初生兒によく見る處で、次いで濕疹を起して非常に痒くなり、甚だしい時は膿疱を作つたりする事があります、年齡からいふと、年頃の人に多いやうです、治療法は出來る場所によつて多少異なりますが、頭髮部に於いては沈着した結痂を取除く爲オレーフ油を用ひたり結痂の少ないものにはワセリン、ラノリン、豚脂に硼酸を混ぜたものや、硫黃等を用ひます、又時々加里石鹼精で洗滌し、レゾルチン軟膏、サルチール酸硫黃軟膏等の塗布もよい、其他太陽燈の照射もよい場合があります。

皮脂漏に惱む

粃糠性の皮脂漏に惱んで居る者ですが、如何なる手當をしたらよいでせう。（麻布、貞子）

何處の皮脂漏であるか、もし頭部にかさぶたとなつてへばりついて居るのでしたら、オレーフ油をつけて除る事も出來るし、時々頭部を加里石鹼精で洗滌し沈降硫黃一、硼酸一・〇、豚脂三〇・〇位の軟膏にして塗布してもよい、又人工太陽燈照射なども効があります。

腋臭の治療法

二十二歲の女、此夏から汗になると腋の下に惡臭を感じます、もし腋臭になるのでしたら今の內に治してしまひたいと存じます、手當を。（栃木、ぎん子）

一體人間には男女を問はず特有の體臭のあるものですが、腋臭は腋窩の皮膚から發散する惡臭で多くの場合多汗症を伴ひます其惡臭は主として汗腺の分秘物から出るものゝやうです、或說には多量の發汗の分解により惡臭を放散するものであるとも又汗の中に多量の脂肪酸やアンモニア化合物

を排出される爲であるといふ說もあります、治療法は手術が最もよく、X光線、太陽燈照射なども有効です、其他塗布藥も數限りなくありますが、いづれも大同小異で手術や光線療法に比して効が少いやうです。

食事中に汗が

私は以前より食事をする毎に汗が人一倍出て、昨今は尙更ひどいのです、どうしたのでせう、療法を。（淺草、鳥居）

多汗症だと考へられますが、食事をして汗の出るのは、或程度まで生理的範圍に入れられます、精神感動、例へば驚いたり、恥しがつたりして冷汗をかき、野球の試合を見物して手に汗を握るが如きは、矢張り生理的範圍です、又食物の種類によつても汗をかく人があります、是等は健康者にも見受ける事です、あなたのも心配する必要はありますまい。

老母の象皮病

七十八歳の老母、數年前から左腕全體に水腫あり、診斷の結果象皮病とて此病氣は老年に來るもので全治の見込ないとの事ですが如何でせう。（小石川、石川）

お手紙だけでは果して、象皮病であるかどうかわかりませんがもし其醫師の診斷があやまつて居なければ、外科的手術によるが最もよい方法です、又淋巴腺の流動を促す爲に、局部を高位におくとか、又彈力帶を卷くとか、マッサージを施すこともあります。

度々の丹毒に惱やまさるゝ女

四十七歳の女、三十歳頃顏面丹毒に罹り、約三ケ月程で全快、其後四十四歳、四十六歳に一ケ月ばかりづゝ罹り、又此一月に腕に出來次いで六月二十五日から心臟部に發しました、昨今月一回又は二回づゝカルチウム注射をし、發病中は丹毒ワクチンを注射をして居ます、當人は外出を嫌ひ、たまに遠方へゆき、歸宅すると兎角發病します。（立石、奥田）

そんなに度々侵されるのでは、日頃から餘程注意しなければなりません、此病氣は子供にも大人にもありますが惡液質性體質の人には殊に多いのです、僅な創、例へば蟲にさゝれたり、打撲、かすり疵、火傷等によつて皮膚に疵が出來た時に、消毒不完全の爲恐ろしい丹毒菌（主に連鎖狀球菌）

が侵入して發病する故、假令極僅な創でも消毒を嚴重にしなければなりません、既に手當されて居る月二回のクロールカルチウム、感作自家ワクチンの注射は結構です、局所には一〇—三〇%のイヒチョールグリセリン三%の亞鉛華オレーフ油などを塗布し、濕布、繃帶するか、太陽燈の照射を行ふ事もあります、其他心臓に注意し、發熱の續く時ば强心劑を用ひ、總て治療は根治するまで續けなければなりません。

いんきんの手當

二十二歳の者いんきんにて困難して居ます、よい方法を。（下谷、中村）

入浴に際し、石鹸等でむやみに洗つたり、爪で掻いたりせぬやう、常に褌、ズロースの類を度々洗濯して清潔にし、二—三%位のサルチール酸酒精を塗布するとか、就眠時には土肥氏のタール膏かウイルソン氏軟膏かザロビン軟膏五%を塗布し就寢中、痒さのあまり、知らず知らず手など觸れぬやう處置して休むやうにしなければなりません、又太陽燈照射もよいが一度血液檢査をお受けなさい。

たむしの適藥を

毎夏たむしで困らされます適當な藥を。（淺草、秀次郎）

一口にたむしと申しても非常に種類の多いもので一樣にはいはれません、一般には土肥氏の參兒膏がよいやうです、其他レントゲン線の有効の事もあり、硫黄泉の効ある事もあります。

みづむしに惱む

足の底や指が水蟲で惱んで居ました處、急に指が赤肌になり痛み、專門醫の治療を受けて居ますが少しも治りません、良い治療法及び藥をお敎へ下さい。（小石川、小平）

太陽燈照射がよいでせう、藥はピチロール軟膏、土肥氏のタール膏、キューリンなどはよいでせう。

鼠咬症に就て

四十二歳の男、昨年九月右足のかゝとを鼠に咬まれ、十月初旬鼠蹊腺腫脹に續いて惡感を催し、四十度以上の發熱でしたので、直に診察を受けた處、原因不明の淋巴腺炎との事で種々手當しても快方に向ひませんでした處、多分鼠咬症であらうといふ人があり、其方の治療をしましたが、其後又腋窩腫脹を來したりして心配です、如何したらよいでせう。（南品川、とみ）

正に鼠咬症のやうに思はれます、此病氣は鼠、猫、鼬などに咬まれて後起り、腫脹及び發疹を伴ふ再歸性熱性の傳染病です、潜伏期は二週間位で咬傷は一度は治癒しても再び過敏となり、付近の淋巴腺の腫脹、疼痛を起し惡感發熱を來し、三四日は其狀態續き再び下降し、又二三日は無熱となり、尙發熱を繰返します、其他發疹、筋痛、局所の浮腫を生ずる事も種々の合併症を起すこともあります、治療法は咬まれて直ぐ燒灼するか、腐蝕するのがよいが、あなたのは相當期日も經つて居ますから、やはり、サルバルサンの靜脈注射を續行なさる事がよいと思ひます。

脂足に惱やむ

職業上白足袋をはく者、脂足で困ります、家で種々やつて見ましたがだめです。（濱町、困る者）

太陽燈の照射及びレントゲン線は有効です、家庭療法としては度々入浴し、サルチール酸ナトリウム五・〇、滑石九五・〇或は硼酸かタンノホルム等を撒布する事も有効です、脂足を先づ硼酸の温湯でゝも洗ひ、然る後撒布してすり込むやうにし、足袋でも履いて居ればよいでせう、又中等度のには五％のクローム酸液を塗布してもよいのです、重症の場合は一〇％位のフホルマリンアルコールの塗布もよい。

幼兒の眉に白銅大の赤痣

生後十日程の男の子、生れたてから、左の眉の上部に五錢白銅大の赤痣がありますが、姙娠中に夫の不品行云々から出來るなど聞きますが事實でせうか、今のうちに取去る方法をお教へ下さい。（中延村上）

俗間では種々の事を言ひますが、まだ赤痣の原因は明かでなく、先天性の皮膚病で皮膚の細い血管が擴張して出來たものです、治療法はなかなか困難ですから皮膚科專門醫の診察を受け眞の赤痣であるか或は普通の色素異常による痣であるかを確め、且全身に何か原因と認めらるゝ病氣があるかないかを知り治療を受けねばなりません、殊に生れて間もない事故、其時期等も專門醫に御相談なさる方がよい。

年中指先荒る

一年中、指先が荒れてあかぎれのやうになり、痛くて困つて居ます、平生如何なる手當をしたらよいでせうか。（馬喰町、峰子）

長らくの荒性で惱んで居りますどんな藥がよいでせう。（龜戸、康之）

常に手をよく摩擦する習慣をつけ、水仕事をした後は必ず乾いた手拭でよく拭ひ、決して濕つた手をすぐ火にあぶつたり、風に當たりせぬやうにしなければなりません、そして水仕事の後や就寢前には必ずベルツ水を塗布し、裂目にはビック氏硬膏アカギレ膏等を挿入し食物にも注意を要します、卽ち滋養豐富なビタミンに富んだものを多く攝り、其他日光浴、適當の運動等によつて身體の

強壯に心掛けなさい。

若白髮の手當

若白髮で心配して居るのですが、自宅療法を。（福島、松本）

若白髮に限らず、白髮は如何にして出來るかは明かな原因はまだわかりません、遺傳的關係もある事は明かですが、其他內分秘に或は神經系に關係あるといふ說もあります、從つて治療法にもまだたしかなものはありません、局所療法として光線療法を行ひ、同時に臟器療法を行ふ事もありますが、確實なものはありませぬ。

頭髮が脫ける

頭髮が脫けて困ります、手當と藥等を。（足利小林、橫濱松本）

たゞ脫毛とだけではわかりません、禿頭症であるか、皮脂線の分秘異常によつて毛髮の榮養障碍を起してのことか、早老性及び老年性のものであるか、衰弱を起す熱性傳染病によつての脫毛か、

梅毒の爲か何れか其の原因によつて多少る相異はありますが、局所療法として頭部を常に加里石鹸で洗ひ、種々の刺戟性塗布料を用ひて御覽なさい、例へばリチネ油一五・〇ナフトール一・〇サルチール酸一・五酒精八五・〇グリモリン一・〇の塗布料か或は單に一%の昇汞アルコールの塗布もよい、其他酒精性塗布料をお用ひなさい、もし其れ等の塗布によつて皮膚炎を起したら亞鉛華軟膏の塗布により治し再び治療をお始めなさい、尙太陽燈照射もよい。

脫毛藥は皮膚に

硫化バリウムと酸化亞鉛とを混合した液は脫毛によいとか、其液は皮膚についても差支へないでせうか。（福島妙子、愛知染子）

多毛症の治療として脫毛藥の塗布は一時的のもので皮膚を刺戟して荒します、根治的にはレントゲン線が有効ですが、廣き範圍な爲、危險が伴ひます、面倒でも電氣分解法が最もよい樣です。

折毛や拔毛多し

――又ふけも多い――

二十歲の男子、頭髮赤く折れ、毛や拔け毛が多く、またフケもあります何をつけたらよろしいでせうか。（日本橋、波澤其他）

加里石鹸で度々洗ひ、オレーフ油を頭の地にすり込み、尙フケトリ香水をもつけて、フケを溜ないやうになさい、かくすれば拔け毛も少くなるでせう、尙便秘などあるやうなら便通を整調し、頭部の充血を去るやうに心掛なさい。

頭部や眉毛にふけが多くて

十七歲の男、頭部や眉毛にふけが多く、又毎朝洗顏の度に眉毛が二三本から五六本脫落します、如何したら治りませうか、或本に癩病の初期症狀だと書いてあるので心配でなりません。（新發田、松下）

癩病の心配はないと思ひます、フケは常に加里石鹸でよく洗ひ、椿油の中へサルチル酸（一―二%）を溶解して地肌へ擦り込むか、左の處方による藥を塗布するもよい、グリセリン五・〇、ヒマシ油二〇・〇、ナフトール五・〇、レゾルチン六・〇、抱水クロラール二・〇、バイオレット五・〇、メントール二・〇、酒精一五〇・〇、其他便通を整調し、頭部の充血を去る事も必要です。

爪が段々脱落

一昨年秋頃から兩手の爪が黑くなり、其上縮んで段々脱落します、何病でせう。（品川、丸山）

爪牀炎といふ病氣のやうに思はれます、原因は梅毒性の事もあり、或は他の細菌による事もあります、皮膚科專門醫の診察をお受けなさい。

指の爪と共に皮が延びるので

六十四歳で體の壯健な老母、手の指の爪と共に內側の皮が延びるので、取る時に困ります、如何したのでせう。（淺草、うめ）

診察の上でなければ確な事は申されませんが、或は爪牀肥厚症ではないかと思はれます、もしさうとせば、屢々慢性濕疹、尋常性鱗屑疹等に併發したり、又は特發爪病として來ることもあります頑固で容易に治らぬものですが、何回も電氣燒灼を行ふ事がよいやうです、勿論原病があつたら、其治療をしなければなりません。

妙布のあとがかぶれて痒ゆい

妙布のあとがかぶれて痒く、それが益々擴がり少からず困難して居ます。（牛込、菱川）

刺戟を避ける爲、亞鉛華オレーフ油を塗布し、其上から亞鉛華澱粉等を撒布し、繃帶の出來る處ならして置くとよい、兎に角爪で搔かぬやうにする事が大切です、尙痒感激しければ、ユクロミン、ブロカノン等の靜脈注射をお受けなさい。

蟲にさされ易い

蚤や蚊に螫されやすく、さゝれると非常に腫上ります、豫防法を又如何なる體質でせうか。（愛宕町横田）

皮膚の過激性によります、螫されぬやう注意する事が必要ですが、又螫されても成るべく我慢して搔ぬやう、螫された時直ぐアンモニア水か、メンソレータムとか、オゾなどを擦り込んで置くとよい。

剃刀で引掛た處

剃刀で二三度引掛た處から疣になり、スピル膏を貼りました、貼つてる時はよいが膏藥を取ると又元通りになります。（小田原、百藏）

外見上差支へないなら、其儘放置して置く方がよいが、もしあまり見苦るしいやうなら、剝離膏でとるか、外科的手術によらるゝがよい、

指先にさゝくれ

指先さゝくれが出來非常に痛むのです、如何に處置したらよいでせう。（下谷、大久保）

出た處を摘んで、硼酸軟膏でも塗つて繃帶して置いたらよからうと思ひます。

顏に小さい孔が

顏へあばたのやうに小さい孔があいてるのですが、どうしたらわからなくなりませう、それに荒れ性なのですが、何かよい藥はないでせうか。（南千住、エス生）

ペルツ氏液を塗布するか、コールドクリームを擦り込んだらよいと思ひます。

寒風に當ると鼻が赤くなる

運動したり、外出したりすると鼻に熱を起し、寒い時には眞赤になります、何の病氣でせうか。（下谷、中根）

別に病氣といふわけではありません、寒い風に當つて外を歩いた時などにはさうなる事があります、恰度凍傷の時のやうに寒さの爲血管が痲痺して血液が少くなり、反對に毛細管が擴張して鼻が赤くなるのです、此狀態が長く續くと皮膚が紫色になつたりします、やはり血液の關係です、此樣な時には鼻を摩擦したり、クリームなどを塗布する事は豫防になりますが、日常に皮膚の抵抗力をつくる事が必要です、然し赤鼻にも鼻カタル、飲酒、婦人病などが原因して居る事もあります。

性病

淋病と梅毒の區別と症狀とを

淋病と梅毒との區別、症狀を判然と知る法をお教へ下さい。（千束町、康夫）

淋疾は尿の檢査により、梅毒は血液の檢査により有無を知る事が出來ます、初期感染時の兩者の相違は、何れも不潔の交はり後に發するもので、淋疾の場合は感染後二乃至四日を經て、放尿の際疼痒、灼熱の感、病痛等を覺え、尿道口から粘液様のものが出て、次いで膿汁などが出て來る事があり、其膿を顯微鏡で見れば、淋菌を認める事が出來ます、梅毒の方は、感染後二週乃至五週間の潛伏期を經て局所に小なる潰瘍か傷が出來、次第に其部分が硬くなり、其後四週乃至六週間を經て全身症狀を起します、又感染後二三日を過ぎてから、病毒が侵入した局所に、紅色の周暈のある小さい水疱又は膿疱を生じて、次いで圓い潰瘍となり觸れると軟かいものを生じる事があります、これ卽ち軟性下疳といつて、これは軟性下疳の細菌によつて起るもので、眞の梅毒ではありません、

然し兩者混合感染する事はあります、以上初期に於ける淋毒及び梅毒の症狀です。

淋糸と淋菌は違ふのでせうか

淋糸と淋菌とは違ひますか、二ケ月前に淋病にかゝり、昨今殆ど治癒し、朝一寸淋糸が出るだけです、此儘治療せずともよいでせうか。（淺川、栗原）

淋糸と淋菌とは違ひます、前者は淋病患者の尿中に出て來る絲の樣な粘り氣のある浮游物であつて、淋菌とは同病を起すべき病原菌のことであります、まだ淋絲が出る樣では病は根治して居るものとは思はれませんから續いて治療なさらねばなりません。

淋毒や梅毒は容易に傳染するか

花柳病患者と同居して居る者ですが、其人の湯呑等で湯を飲むと胃や腸に淋菌が潜伏するものでせうか、又蚤や蚊からも菌は移植しませうか。（下谷永井、埼玉田島）

そんなに容易に傳染するものではありません、淋菌は溫度に對して抵抗力が弱いのですから、湯

呑などから感染する事はありません、殆どすべては不潔なる交はりによつて感染します、黴毒の場合もさう容易に感染するものではありません、御安心なさい。

慢性淋病療法

慢性淋病に就て療法をお敎へください。（伊豆網代町、平井）

此病はなか〳〵治り難いもので、根氣よく專門醫の治療を受けなければ根治する事は出來ません姑息療法は却て爲になりません、日頃の養生法としては過激な運動を禁じ、安靜を保ち刺戟性食物アルコール性飲料を避け、便通の整調を計り、尿路消毒利尿の目的で左の處方により服藥して御覽なさい、うわうるし葉煎（一五・〇）一八〇・〇、ウロトロピン三・〇、單舍一五・〇、右二日量毎食後三十分服用、其他洗滌及びワクチン注射外種々尿路消毒藥の注射も有効な事がありますが、いづれも專門醫の處置を受けられた方が安全です。

睪丸炎の手當

一月ばかり前から睾丸炎に罹り、ひどい痛みは去つたが、さはると何となく痛むやうな氣がします手當を。（伊豆綱代、平正）

淋毒性のものゝやうに思はれます、身體の安靜を保ち、刺戟性食物や、酒などは禁じ、便通を整調し、局所には炎症がひどければブロー氏液の冷罨法、氷嚢等しますが、現在の程度では其必要はないやうに思はれます、其他ワクチン、クロールカルチウム液、ブロカノン等の注射も疼痛、腫脹を減ずるに効があります、場合によつてはトリバフラビンの靜脈注射を行ふもよい。

睾丸炎に惱む者

二十五歳の男、睾丸炎で醫師の手當を受け、九日間も冷やしましたが、まだ副睾丸の部分を強く押すと痛みを感じます、醫師は最早冷やすに及ばぬといふのです、大抵一週間も冷やせば病菌は死ぬさうですが本當でせうか、藥と手當をお敎へ下さい。（綱代町、平井）

まだ病原菌が死滅したとは思はれません、今少し安靜を保ち、食餌に注意し、刺戟性食物、肉類アルコール類を避け、野菜食を主とし便通の整調を計り、局所にはブロー氏液、氷嚢等を用ひて冷罨法を行ひ、疼痛甚だしい場合や神經症狀などがあつたら鎭靜劑を用ふるもよく、其他の症狀については主治醫の處置を受け、ワクチン、ブロカノンなどの注射もよい、場合によつてはトリバフラビンの注射を行ふこともあります。

尿意頻繁と共に排尿時に疼痛

肛門から前方へかける腺が痛み、頻繁に尿意を催し、其直後は殊更痛み甚だしく、血液さへ交へたのでワクチン注射を受け、五回で治りました、處が又昨今再發し、排尿後は呼吸も止まるかと思ふほどの痛みと共に、少量の血液や、豆腐樣のものや、血塊樣の物が下り、歩行も困難となりました、目下失業し、治療代の負擔に堪へないのですが家庭療法あればお敎へを。（桐生、伊澤）

淋毒性の攝護腺炎のやうに思はれます、卽ち尿道の後部が淋疾に冒されて續發します、治療法は現在の狀態では自宅療法は不可能です、絕對安靜にし無刺戟の食物を攝り、便通の整調を計り、當分の中泌尿科醫の處置を受けらるゝ方がよい、ワクチンの注射もよいでせう。

排尿後に血が

二十六歳の女、一子ありますが數日前より排尿後微量ながら出血を認めます、家庭療法としては如何なる處置をなすべきでせうか。（小石川、千世子）

膀胱カタルの樣に思はれます、姑息な事をせずに少しも早く醫師の治療をお受けなさい。

膀胱カタル

長い間膀胱カタルで苦しんで居ます、硝酸銀の注入やらボール水の洗滌やらしますが、尿中はフケ樣のものが浮いて居ます、まだ全快したのではないでせうか、食事は普通でよいでせうか。（深谷、新島）

多分慢性に陷つて居るのでせう、尙引續き醫療をお受けなさい、養生法としては先づ原因に對して治療をし安靜にして、食物は無刺戟性のものを選び（殊に牛乳などはよい）アルコール類を禁じ便通を整調し、カルテール挿入に際しては消毒を嚴にし、醫師の處置に從つて服藥なさるがよいが左の處方によつてもよい、ウワウルシ葉煎（一五・〇）一八〇・〇、ウロトロピン三・〇、單舍一五・〇、右二日量每食後三十分服用、尙トリバフラビンの靜脈注射や洗滌の必要な事もあります。

淋疾から精系炎

三年前から尿道淋にかゝり、注射や洗滌等醫療を續けて居ましたが、一進一退で根治せず、去る六月勞働が少しく過ぎた爲か精系炎となり、痛み甚だしく温めましたので痛みは鎭まりましたが、その後未だにはかゞしく治りません、治療法を。（羽後、池田）

精系炎には鼠蹊部にイヒチヨールを塗布するとか、ブロー液の罨法（普通冷罨法）等を行ひますが、原病卽ち淋疾に對する一般處置はやはり症狀により續けて行はねばなりません、兎に角安靜を保ち、出來得るなら安臥し、酒、煙草其他の刺戟性食物を避け、便通を整調する等肝腎な事です。

淋毒性關節炎

二十六歳の女、三年前淋毒性の關節炎に罹り、右膝關節が硬直して曲りません、適當な治療法があらばお知らせを。（水戸市、水野谷）

目下慢性狀態にあつて硬直を起して居るのですから、按摩、電氣療法、熱氣法等と共に受働的の

運動を施す事もよいと思ひますが、急性症狀を再發しない樣に注意しなければなりません、同時に淋疾の治療、淋菌ワクチン注射等も行ふべきです、初めから硬直を起し易いものですから、固定の際に適當な位置をとる事が必要です。

旱漏の原因と治療法

半年まへ淋毒性精系炎を患つた者、昨今旱漏になりました。（酒田佐藤、小田原、松崎）

發情せずして、便通の際の努責又は排尿の際に精液の漏れる病で、原因は自瀆、房事過度、後部尿道の淋疾、攝護腺炎、神經衰弱、器質的疾患によつて起る事があります、先づ原因を治療し、淋疾を驅逐し、同時に攝生を守り、酒、煙草等を禁じ、刺戟性食品を避け、淡白な滋養食を攝り、一般强壯に心掛ける事が必要です、治療法としては、ブローム劑の內服、プロカノンの注射、電氣療法等が行はれます、其他攝護腺のマッサージもよい、永く放置して治らぬ時はヒポコンデリー性となつて精力が減退しますから、續けて治療をお受けなさい、兎に角原病の治療が一番必要です。

淋疾の者の結婚

二十四歲の男、三年前淋病から左の睾丸炎を併發し、醫療の結果、一ケ月餘で全治しました、今回結婚するに付、念の爲確めて置きたい事は此一週間ばかり毎日家で尿の檢査をして居ますが、日に六七回の小水の都度、最初の少量、茶匙一杯位の分量の時に、五分位の長さの淋絲が一つか二つか混じて居ます、其後の尿中には何もありません、此淋絲があるだけでは單純性の尿道炎か、淋毒性のものであるか判明し難いさうですが、現在の狀態で結婚しても妻に感染するやうな事はないでせうか。

（北千住、山崎）

慢性淋疾の診斷はなかなか困難なもので、殊に淋疾後の單純性尿道炎との區別は、尿の檢査を度度行つて、其分泌物や膿や淋絲を檢査して見なければ何ともいはれません、兎に角結婚問題に對してはよく考へてからの方がよいと思ひます、引續き攝生を守り、醫療を受け、早く治すやうになさい、よく治り切らぬ中の結婚によつて、妻に感染し、急性炎症を起し、再びそれを自分が引受け、所謂重複感染を來す例も澤山ありますから、細心の注意を要します。

瘰癧か梅毒か

頸部耳下に大きな腫物が出來、それが近頃吹切れて、中から大豆位のかたまりが幾つか取れましたが、梅毒性のものでせうか、瘰癧でせうか、（下谷、千川）

身體の他の部分に結核性の變化を認め、血液檢査の結果陽性なら多分結核性のものでせう、もしさうとしたら一般結核に對する手當と同樣、榮養食餌、新鮮なる空氣、日光の充分な供給、皮膚の擇生等に注意すべきです、局所療法よりも、以上の衞生食餌療法を主眼とし、身體の鍛錬が必要です、內服藥としては滋養强壯劑として肝油及び其製劑、貧血症の者には鐵劑、砒素劑、又はビタミンA其他諸種の肺療劑の併用等もよく、程度によつては夏期海岸及び林間學校生活をさせる事は結構です、局所へはX光線、人線太陽燈照射がよいが、一應外科醫の診察を受ける必要があります。

梅毒初期手當

——幼兒に傳染の際——

梅毒の初期はサルバルサンの注射は何本位すれば全快しませうか、又其注射をしても治らぬ場合がありますか、幼兒に傳染せぬやうにするにはどういふ注意が必要でせう、もし傳染したとしたらやはり血液檢査をして注射しなくてはなりませんか。（四谷、伊坂）

何本位で治るかは、血液反應の如何（强弱）によつても異なるし、其原因によつても違ひますから、一概にはいへません、勿論注射しても治らぬ場合もあります、例へば腦黴毒、脊髓癆など起して居る時などはなか〳〵治らぬのです、然しやはり注射したがよいことは明かで、幼兒への傳染の注意としては、接觸せぬ樣にする事が最も必要です、もし傳染の疑ひがあつたら血液檢査をしてもし陽性でしたら、年齡に應じて注射を受ければよい。

腦黴毒症か或は脊髓癆か

五十二歲の男子、二十年前梅毒感染完全なる治療出來ず、其後十年前偏頭痛あり、幾分手足しびれ多少失語、記憶力減退等で十年間は全快とまでは行かずも、大した變化はありませんでした、處が一ケ月ばかり前、突然兩手兩足に鈍痛と炎痛を來し、多少の腰痛み及び神經衰弱の症狀もあります、血採は陽性でしたが、腦梅毒でせうか、或は脊髓癆でせうか、右二病の醫學的症狀、豫後等を伺ひます

（古河、上野）

お手紙では腦黴毒の症狀の樣に思はれます、腦黴毒の方は大體お手紙の樣なものですから省きますが、脊髓癆の場合の主なる症狀は、神經痛樣の痛みがあり、腱反射は消失し、視力障碍、胃發症或は膀胱直腸等の障碍を來し、歩行の變化を來し、遂には歩行困難に陷つたりして、豫後は不良です、治療法はどちらも驅黴療法を講ずるは勿論ですが、近來腦黴毒にはマラリヤ療法が賞用されて居ます。

梅毒性のしつ

梅毒性のしつが毎年春になると再發し、睾丸、指の股、腹部等に發疹し、非常に痒いのです。(谷中長島)

局所はなるべく刺戟せぬやう、亞鉛華澱粉を撒布し、瘙痒はげしければピチロール、ウイルソン氏軟膏及びウイル、キンソン軟膏の塗布、太陽燈照射もよい、又クロールカルチウム、プロカノン等の注射も有効です、又硫黄泉浴もよい。

黴毒にマラリヤ

黴毒にマラリヤ療法がよいといふ事ですがそれは何處の病院でしてくれませうか。(八王子、井上)

黴毒の中でも、殊に腦黴毒にはマラリヤ療法がよいやうです、何れの腦病院でも、其他の大病院でもしてくれます。

黴毒古くなると

古い黴毒になると、毒が消滅してもワッセルマン氏反應だけが殘る事があるとは事實ですか、如何でせう。(仙臺、義枝)

そんな事はありません、ワッセルマン氏反應が陽性ならばまだ黴毒は消滅して居ないものと見ねばなりません。

股のつけ根に小さい腫物

十八歳の處女、半年ばかり前に右の股の付根に小指の先位の硬いものが出來、強く押せば痛い程度でしたから放つて置いた處、一月ばかりで腫は引き、米粒程のグリ〳〵になつて居ました、夫が昨今又腫れて、二三日前に破れて血が出たので、押したら白い米粒位のものが二つ出て、其處が少し痛みます、横根とかいふ物でせうか、私はそんな病氣になる覺えは少しもありませんし、身體も何處も何ともありません。(四谷、心配女)

鼠蹊部の慢性淋巴腺炎の樣に思はれます、主に黴毒に原因する事か多く、時に結核性の事もあります、念の爲血液の檢査を受けてごらんなさい。

音聲が立たぬ

二十五歳の男、二年前から聲が思ふやうにたゝず、咽喉の左が腫、痛み、食事も思ふやうに出來ません。(澁谷、鈴義生)

聲の嗄れるのは喉頭加答兒、ポリープ、肥厚、黴毒、軟骨膜炎聲帶痲痺等の種々の病氣により起るものですから、專門醫の診察を受け、其原因をしらべ、治療を受けねばなりません、咽喉の左部が腫るのでは、或はそれが原因で聲嗄れが起るのかも知れませんが、二年も前からでは、そうとばかりは思はれません、兎に角診察の上でなければはつきりしません。

不具の子供の出來る原因

不具の子供の出來るのは何が原因か、血液檢査をして梅毒の有無を確むればわかりませんか、梅毒には電氣治療で全快するとあるが事實でせうか、一番何が効くでせう。(馬道、渡會)

不具と申しても一樣にはいへませんが、大體梅毒、兩親の疾患、血族結婚等で原因不明もあります、血液檢査によつて梅毒の有無を知り、もしあつたら六〇六號の注射をお受なさい、なかつたら其不具は梅毒から來てゐるのではないのですから、再びよく診察をうけ、適當な處置をおとりなさい、電氣療法も惡くはありませんが、黴毒による場合は六〇六號の注射が最も有効です。

遺傳黴毒で年中弱い女兒

七歳の女兒、年中弱いので心配の餘り、血液檢査を受けた處、强陽性との事、目下サルバルサンの注射をして居ますが、尙水銀の注射をも願ひましたが、子供故强過ぎ、腕に水銀膏を塗り込んで居ます、此樣な事で全快するでせうか、完全に快くなる方法を。（新錢座、前田）

遺傳黴毒を早く氣付かれ、驅黴療法を始められたのは結構です、今の中にサルバルサン注射、灰白軟膏の塗擦等行はれたら、多分早く血液反應も陰性となることゝ思はれます、目下行はれて居る療法が最もよい方法です、但し灰白軟膏塗擦期間はオキシフルの含嗽をさせ、口內炎を豫防させねばなりませぬ。

手術をせずによこねを取り度し

五六年前よこねに罹り、毒下しなどで治療した爲か、未だに硬く玉になつて居ります、手術しないで取る方法はないでせうか、市衞生試驗所で採血の結果梅毒は無いとの證明でした。（小石川、山田）

血液檢査の結果梅毒はないとの事ですから、多分單純の軟性下疳であつたのだらうと思ひます。

尿の溷濁

本年一月感冒が因で氣管支加答兒及び肺門を惡くし、六月レントゲン診斷の結果、左肺門右肺尖に暗影があるとの事です、現在は一日の最高熱三十六度七八分で、恢復期にある者ですが、二ケ月ばかり前から一週に一日か二日尿が乳色に濁りを生じ、甚だしい時は白色の沈澱物のある事さへあります糖尿か腎臟尿でせうか、又安靜を缺き無理をした爲か、或は次硝酸蒼鉛服用の爲でせうか。（濱松、住田）

尿が溷濁するからとて、必ずしも病的のものとは限りません、服藥の種類によつても鹽類の析出によつても溷濁する事があります、先づ御自分の尿を試驗管に取つて熱して御覽なさい、もしきれいになれば尿酸鹽類です、又醋酸を入れてきれいになれば、燐酸土類か或は炭酸鹽類です、それでも尙溷濁があるやうでしたら、醫師に依賴して尿の檢査をお受けなさい。

生殖器發育不良

二十歳の男、生殖器發育不良で苦しんで居ります。（佐野、一青年）

生殖器發育不全は、先天的の場合と後天的の場合とあります、即ち先天的とは生れつき生殖器畸形とか、包皮、はん痕、腫瘍等があつて、其爲發育障碍を起すこと、後天的とは其亂用、惡い習慣其他諸種の疾病の經過中に睾丸の疾病を起すとか、又睾丸を打つたとかいふ場合に起ります、治療法は困難で、もし包皮はん痕等があれば手術によるか擴大法を施せば治る事もありますが、睾丸の方の發育不充分なるものは、急に治らぬやうです、殊に年齢の進んだ者程困難です。

惡　癖

惡癖の結果、生殖器衰弱に陷つたのですが、食物療法及び藥物療法を。（伊豆、山崎）

確に惡癖が原因と思はるゝなら、速かにそれを慎しみ、精神的安靜を保ち、疾病に對する恐怖心を去り、適度の運動を行ひ、精神の轉換をはかり、充分なる睡眠を取るやうになさい、食物は消化よき滋養食とし、成るべく混食がよい、藥劑は病狀により、ブローム劑等の鎭靜劑を用ひますが、スペルミン、スペルマチンなどのホルモン製劑或はヨヒンビンなどを用ひる事もあります、其他電氣療法、マッサージ等もきく場合もあります。

輸精管結紮手術をしたいのですが

二十二歳の男子、十八歳の頃から自瀆の爲と初期肺尖との爲、夢精の數益々甚だしく、心身疲勞し體重も減じました、就いては輸精管結紮手術をしたいのですが、如何でせうか。（駒込、山本）

輸精管結紮手術などの無謀の擧に出る必要は更にありませんが、健康體でも慾の亂費は衞生上よくない事は明かでせう、況んやあなたのやうな體質の場合、其衝動にまかせて放置する事は最も慎まねばならぬ事です、如何に理想的の治療を施したとて一方に缺くるところがあつては病は快方に向ひ難いものです、即ち自身强い意志の力で惡癖を矯正するやうに努力することが大切です、それには先づ生活の改善を計り、性的亢奮を來す事情を避け、精神的、肉體的の安靜を保ち、刺戟性食物、アルコール性飲料を避け、就眠前の飲食を避け、讀書も種類の選擇が必要ですし、殊に夜間は禁じた方がよい、內服藥は鎭靜劑がよく、ブロカノン、ユクロミン等の靜脈注射もよいでせう。

夢精の內服藥と肺結核の參考書

私は夢精で困つて居ります、最近益々其回數多く、二三日連續する事もあり、ブロカノン、コクロミンの注射がよいさうですが、醫師にも通へませんし、適當な內服藥の處方を。又肺結核のよい參考書をも。（宇都宮、鈴木）

強健な男子で極度に性慾を抑制した場合、時に夢精を來すことのあるのは生理的です、然し結核患者が數回に渡つて夢精を來すことは、治療上障碍となる事が多い故、注意しなければなりません先づ生活法を改善し、性慾の亢進を來すやうな事情を避け、精神的、肉體的の安靜を保ち、刺戟性食物、アルコール性飲料を避け、就眠前の飲食を愼み、讀み物の選擇も必要です、殊に夜間の讀書はよくありません、內服藥は目下服藥中のものゝ中へ適當に鎭靜劑を投與してもらつたらよからうと思はれます、書物は小酒井氏の「闘病術」永井氏の「結核患者養生法」などがよいでせう。

包莖手術

包莖の手術に要する日數と、放置せば如何なる障碍がありませうか。（碑文谷、榮三郎）

包莖の手術は、局所痲醉の下に簡單に行はれます、約十日間位で恢復出來ませう、これを放置して置くと、種々の障碍を來し、第一に花柳病に感染しやすく、惡習慣に陷り易く、早期射精及び遺精の原因ともなり、其他神經衰弱を來したりする事がありますから眞の包莖ならば、早く手術を受けなければなりません。

藥品の製法と用途

ベルツ水

ベルツ水の製法をお敎へ下さい。（淺草、小林）

苛性加里一・〇、グリセリン四〇・〇、酒精三〇・〇、蒸溜水一二・〇〇、右混和、もし着色したければフエノールフタシンを入れゝばよい。

雪脂とり香水

ふけ取香水の處方をお敎へ下さい。（四谷、中野其他）

ふけ取香水にも種々あつて、どれがよいとも惡いともきまりませんが、私（井上）の處では次の如き處方に由て作つて居ります、グリセリン五・〇、ヒマシ油二〇・〇、ナフトル五・〇、レゾルチン

六・〇、抱水クロラール二・〇、バイオレソト五・〇、メントール二・〇、酒精一五〇・〇

含嗽藥

普通の含嗽藥はどうして造つたらよいでせうか、醫者で貰ふのはあまり臭ひが多いので、含嗽するに不快を感じますから。（本芝、良子）

含嗽劑にも種々あつて、場合により夫々異なりますが、單純な咽喉カタル等に用ひるのであつたら、二%位の硼酸水を微温として用ひればよいと思ひます。

催眠劑

効目のある睡眠劑は何でせう、此藥は服み過ぎると生命に關係しませうか。（横濱、やる）

催眠劑や鎭靜劑の服用は最後の手段で、勝手に用ひる事はよくありません、飲み過ぎた場合勿論生命の危險のあることもありますから、あなたの不眠症は何であるか其原因を調べ、もし神經衰弱などの爲安眠出來ぬやうでしたら、先づ心身の安靜を計り、殊に夜間などは精神を興奮させる樣な

讀書や仕事を避け、晝は適當の運動をして、食物は刺戟性のものや不消化物を避くべきです、一體不眠症に對する恐迫觀念の爲に睡眠をとる事にのみ緊張して、却て眠れぬ事がありますから、あまりそれを苦にならぬ方がよい。

肺痨劑

肺痨劑として炭酸グアヤコールを求めましたが、日本藥局方二十五グラムといふのをくれました、一體どの位の分量で服用したらよいでせうか、又食後でせうか、食前でせうか。（三ノ輪、山田）

炭酸グアヤコール一回量は〇・二乃至〇・五、一日量は〇・五乃至二・〇位で、毎食後に服用なさればよいのですが、左の如き處方によるとよいと思ひます、炭酸グアヤコール一・〇、柏木ヂアスターゼ一・〇、乳糖一・〇、右分六包二日量毎食後直に服用。

マルツ汁

赤ん坊の便秘を治すにはマルツ汁をとゝきましたが、それは如何なるものでせうか、又ネーブルか

リンゴ汁では如何でせう。（名古屋、内田）

マルッ汁越幾斯は左の如き物から出來て居ります、麥芽糖七六・七二、糊精一・七六、蛋白質一・〇三、脂肪〇・〇五、灰分一・九五、水分一・八四九で、主として人工榮養を行ふ場合に牛乳に加へて其成分を補ひ榮養分を完全にします、ネーブル、リンゴなどの汁を與へる事も惡くはありません。

ヘブラ氏弱剝離膏

——其使用法と脂顔洗方——

ヘブラ氏弱剝離膏の使用法を又おできのあとなどに用ひてもよいでせうか。（草加、久子）

ヘブラ氏弱剝離膏は雀卵斑、肝斑等に用ひおできの痕などにも用ひる事はありますが、素人が勝手に扱ふ事はよくありません、使用法は毎日一回塗擦し、數日にして皮膚紅潮し、落屑したら一旦中止するか亞鉛華軟膏でも塗布したらよい、脂顔の洗顔は常に温湯を用ひ、良質の石鹼でよく脂肪を落すか、或は硼酸を溶かした温湯で洗ふかして、就眠前にクンメルフエルト氏液の塗布もよい。

硼酸軟膏

ボールワセリンといふ藥の効用をお敎へ下さい、硼酸軟膏は如何なる所へ用ひる藥でせうか。（新發田、松下）

ボールワゼリンとは硼酸軟膏の事です、輕症なる皮膚病例へば糜爛、龜裂、濕疹、膿疱、火傷、凍傷に用ひられます。

臭剝の服用法

臭剝といふ藥は其儘で服用してもよいでせうか。（本郷、野崎）

其儘摺りつぶして服用してもよいが、左の如き處方によつてもよい、ブロームカリウム六・〇、重質煆製マグネシア二・〇、右六包二日量毎食後三十分服用、又はブロームカリウム六・〇、苦味丁幾三・〇、淨水二〇〇・〇右二日量一日三回毎食後三十分服用、注意ブロームカリ服用に際しては食鹽を控る樣にするとよくきゝます。

臭素加里服用法

臭剝(頭の藥)の服用法をお教へ下さい。(本郷、野崎)

一回量は一・〇—二・〇、一日量三・〇—一五・〇で左の如き處方として用ひたらよいでせう。散藥ならブローム加里六・〇、重質煆性マグネシア三・〇、右分六包二日量毎食後三十分服用、水藥ならブローム加里六・〇、苦味丁幾三・〇、水二〇〇・〇右二日量一日三回毎食後三十分服用、注意ブローム劑服用に際しては鹽氣物の攝取を成るべく控へるやうになさい、散藥は先づ臭剝をよく摺つぶし然る後煆製マグネシアを加へ混ぜ合はせねばなりません、下痢性の人は重質マグネシアの量を減ずる事

亞砒酸の用途

亞砒酸の用途について御伺ひ致します。(蕨町、沖野)

亞砒酸は諸種の貧血、惡性淋巴腺腫、神經症、慢性皮膚疾患等に用ひる事がありますが、毒藥ですから醫師の指圖により用ひなければなりません。

クレオソート劑

毎食後クレオソート丸を三四個づゝ服用して居ますが、腸チフス其他の惡疫の豫防になりませうか又連續服用しても差支へありませんか。(淺草、小野)

クレオソート劑は肺結核、肋膜腺病質及び消化器內管の異常醱酵制止また腸防腐の目的に用ひられます、連續服用されても差支へありません。

規那丁幾の量と服み方

日本藥局方規那丁幾は、一日幾瓦を何回に、又食後何時間に服用すべものでせうか、有害な副作用がありますか、又クレオソート丸は害はありませんか幾粒位がよいのでせう。(勝浦、竹江)

規那丁幾は一日六・〇グラム前後を、一日三回食後三十分に服用すればよい、別段副作用はありません、クレオソート丸は一丸中〇・〇五のクレオソートを含有して居ます、一回一、二丸として毎食後直に服用すればよい。

薄毛の塗布料

頭髪が非常に薄くなり脱け毛が多くなりました、次の處方は適當でせうか、レゾルチン五・〇、石炭酸二・〇、カンタリスト丁幾一〇・〇、グリンリン一〇・〇、蒸溜水三〇・〇、酒精五〇・〇。（芝、尾久津）

其處方は結構ですが、脱毛を起すべき何かの原因があつたら、其治療をしなければなりません。即ち衰弱性の疾患、梅毒、體質異常などの爲起る事がありますが、大抵遺傳性の事が多いやうです、塗布藥も氣永に續けて用いなければ効はありません、寧ろ太陽燈照射などの方がよい。

サルチール酸の用途

サルチール酸が澤山ありますが何の藥になりますか。（横濱、山田）

內服藥としては鎭痛下熱に用ひる事もありますが、種々の副作用がありますから、內服にはあまり用ひません、防腐的洗滌藥としては口腔、膀胱、胃等に對して三百倍位にした液を用ひます、寄生性皮膚疾患には十倍乃至五十倍の軟膏としたり、酒精溶液としたり、泥膏として用ひたりします又多汗症などに撒布料（例へばサルチール酸滑石散）として用ひる事も、角質溶解藥として疣や表皮肥厚等に軟膏として用ひられる事もあります、其他飲食物貯藏藥として少量のサルチール酸は比較的無害です。

精製硫黄は害か

精製硫黄は內用すると身體の害になりませうか。（江戸川、信子）

精製硫黄は鹽類下劑として用ひられます、これは主に胃や小腸では變化しないで、大腸に來て溶解し、硫化アルカリとなり又硫化水素として大腸を刺戟して、緩下劑としての作用を現しますから長く用ゐると腸の刺戟症狀を起します。

鐵劑と强壯劑

鐵劑は何が一番効がありませうか、又滋養强壯劑をもお教へ下さい。（千束町、城西）

何が一番よいと指定する事は出來ませんが、ブルトーゼかフェラトーゼの類が服用簡單でよいと思ひます、强壯劑は肝油、ビタミンA、砒素劑などがよいでせう、アルゼンブルトーゼなどいふものもあります。

ヴヰタミンの効用と其含有物

ヴヰタミンにはABCDEと五種あるさうですが、夫々どんな病に効あり、又主にどんな物に含まれて居るのでせうか。（神田、鈴木）

ヴィタミンAは成長促進性の要素で、もしこれが缺乏すると成長が阻止され、體重の減少を來たすとか、結膜乾燥症や夜盲症を起すとか、其他皮膚の疾患を起し、諸種の病氣に對する抵抗力が減少して來ます、含有物は肝油又は其製劑、バタ、卵黄、サラド、キャベツ、菠薐草や肉類殊に肝臓腎臓等の中に多いゆゑ、是等を食せば補へるわけです、Bが缺乏すると脚氣を起すといふ事は一般に信ぜられてる事です、これは主に米の胚芽、麥、大豆、小豆、菠薐草、馬鈴薯、トマト、蜜柑、レモン、栗などに含まれて居ります、Cは缺乏すると壞血病を起す事があり、オレンヂ、蜜柑、林檎、菠薐草、キャベツ、玉葱、などに含まれて居るが、高熱を加へたりすると、破壞し易いのです

DはAと共に肝油、魚脂、卵黄、青野菜等にもありますが、きのこ類殊に椎茸の中には純粹の形で含まれて居るといはれて居ます、缺乏すると骨軟化症、佝僂病等を起します、Eは缺乏すると不姙症を起すといひます、含まれてるものは小麥の胚芽、からす麥、卵黄等に比較的多いさうです、要

するに今までヴィタミンDEはAと一つに考へられて居ましたが、近來の研究は區別して居る樣です、但し特別に食物の選擇をせずとも、是等の副養素は自然に種々の食品中に含まれて居るもの故諸種に渡つて食すればよいわけです。

ビタミンBを含む食物と藥を

脚氣で惱んで居る者ですが、ビタミンBの多量に含まれて居る食物と有効な脚氣藥とをお敎へ下さい。（西巢鴨、水谷）

ビタミンB含有食物中の主なものは、穀類では胚芽米、玄米、大麥、小麥、燕麥、玉蜀黍、黍、豆類では大豆、小豆、隱元豆等右の製品では麵麭、豆腐、豆乳、湯葉等、野菜類では菠薐草、キャベツ、玉葱、馬鈴薯、トマト、オランダ三葉等、果實では蜜柑、レモン、ザボン、葡萄、栗等、肉類では臓器（肝臓、膵臓、腦髓）には多量に含むが筋肉には少ない、魚類では生魚、鯡などには少量含まれて居る、其他牛乳、酵母、鷄卵等にも同樣です、脚氣藥はアンチベリベリン、ベリベロール、バラヌトリン、スベルゾン、コルジエキス、其他糠エキス、酵母製劑等種々あります内服、注射兩方をなさるがよい。

カルチウム

カルチウムの用法注意等についてお教へ下さい。（中延、吉澤）

天然に遊離のはなく、又カルチウム其儘を用ひる事は出來ません、カルチウム鹽としては種々あります、内服として乳酸カルチウムなどは出血性素因、皮膚疾患、喘息、結核、肋膜炎、骨軟化症等に用ひます、又クロールカルチウムとしては、注射藥に用ひられます、然し健康體なら特別に服用せずとも種々食物中にはカルチウム鹽が呑まれて居ますから、心配せずともよい。

沃度カリウム丸

沃度カリウム丸の服用法を教へて下さい、年は十八歳です。（浦和、鈴木）

其中に含まるゝ沃度加里の量によつて違ひます、一回量〇・二乃至〇、四位で一丸中に含まる量は其藥の注意書に記載してある筈です、時間は毎食後になさればよい。

「せんな」の服用

「せんな」といふ藥草を五匁位煎じて毎日服用し、至極具合はよいのですが、これは劇藥故毎日服用する時は、副作用を起して健康上よくないとのことですが、事實でせうか。（澁谷、堀内）

「せんな」は植物性峻下劑で、場合によりて用ひる事がありますが便通の整調に藥品を常用するのはよくありません、成るべく食物の關係で通じをつけるやう卽ち肉食に偏せず、適當の野菜や果物を攝るやうにし早朝コップに一杯の冷水を飲むのもよいし、規則的に毎朝便通に行く習慣をつける事も必要です、尙體操法により腹部の運動を充分したり、按摩法電氣療法も有効のことがあります

白檀油

五月頃から慢性淋病で專門醫の診察を受けたくも經濟が許しませんので、賣藥を用ひて居ました處大分快方に向ひ、六月頃からは白檀油を怠れば痛みや膿で惱まされる有樣、他に安價でよい方法あればお教へ下さい、又白檀油を引續き用ひれば自然に全快しませうか。（淺草吉村、戸塚木村）

白檀油は腎臓炎を起す危險がありますから、引續き用ひるのは考へものです、左の處方により服藥して御覽なさい、うわうるし葉煎(一五、〇)一八〇、〇、ウロトロピン三、〇、單舍一五、〇右二日量毎食後三十分服用、又程度により洗滌しなければならぬのであります、其他コノワクチン、トリバフラビンなどの注射がきゝます。

リゾールの匂

傳染病消毒の爲、夜具、布團、蚊帳等を素人考へでリゾール液の五十倍位のものでびしよ〳〵にしました處、其後何回日光に當ても匂ひが拔けず實に困りました、如何したらよいでせう。(埼玉、田山)

夜具、布團、蚊帳などの消毒は蒸氣消毒か、ホルマリン消毒の方がよい、臭氣もぢきに取れますリゾールはなか〳〵取れぬもので、時日の經つのを待つより外ありません、然し何か強い香料で打消すやうにしたなら、消すことが出來るかも知れません。

白毛染

和製の某白毛染を二回使ひましたが、二度とも非常に大病になり、爪は手足共生え變り、發熱はするし、頭部には濕疹、顏面も腫脹し惱まされましたが、何か無害のはないでせうか。(高圓寺、唐木)

何といふ白毛染を用ひられたか知れませんが、他の人には何等差支へなく、あなたの特異質によるものかも知れません、藥は大同小異ですが、一般に多く使はれて居る物ならよいでせう、使用する時は頭部は勿論、顏面、頸等に少しでも傷のある時や身體に少しでも故障のある時は止めた方がよい。

衛生相談(終)

昭和六年六月十五日印刷
昭和六年六月二十日發行

「衞生相談」奥付
定價壹圓五十錢

編者　都新聞・峰島尙志
發行者　東京市京橋區南傳馬町三ノ五　千倉豐
印刷者　東京市神田區今川小路一ノ一　山縣精一

發行所　東京・京橋　第一相互館　千倉書房
電話京橋(56)三三一一
振替東京九五一一七五八八一六七八

山縣製本印刷株式會社印刷

法律相談

【最新刊】

都新聞・峰島尙志編

◇定價一圓五十錢　送料十錢

私達が知つてゐても知つてゐなくとも、私達の日常の生活といふものは、多少に拘らず、法律の支配を受けてゐるものであります。從つて何か事が起つて、それを合理的に後に紛擾の殘らぬやうに、解決しようと思へば、必ず法律の問題に觸れてくるものです。單に一般社會の問題だけではなく、一家庭内の出來事でも、法律的に解決しなければ、おさまらぬことが往々あります。否、私達の日常生活で最も關係の深いのはこの點でありませう。現に編者の關係してゐる都新聞『法律相談』を見ましても痛切にこのことが感ぜられるであります。

從來の法律書の多くは徒らに條文の解釋に拘泥し、このやうな日常生活の諸問題を一々具體的にどう解決されるものであるか、なかなか素人には合點のいかぬ點が多いやうに考へられます。これは決して結構な話ではありませぬ。

編者は都新聞紙上の『法律相談』が一々實際の問題として如何に法律が適用され、又どう解決されるかを具體的に說いたものとして、最も便利なものかと考へます。のみならず、『法律相談』創設以來、相談に應じたもの全部を通じて、あらゆる場合の網羅と代表的なるものの嚴選とに努め、讀者の問題の相談に應じうるやう編纂致しました。

東京第一・相互館　千倉書房　振替東京九七八

經濟相談

【十版】

報知新聞經濟部編

◇定價一圓五十錢　送料十錢

小資本で一家の生計を立てるには如何なる道を選ぶべきか？

◇素人に小資本で開業出來る商賣にはどんなのがあるか？

◇どうしたら僅々百圓か二百圓の小資本で、立派に利殖の途を講ずることが出來るか？

◇どんな商賣なら副業として簡單に營むことが出來るか？

◇現に思はしくない商賣もどうすれば好轉させる事が出來るか？

本書は商賣の大切なコツを說くと同時に、商賣をする上に是非知つて置かなければならぬ經濟知識の百般に亘つて誰にでも解るやうに平易に說明した收益術の百科全書である。

投資相談

【十五版】

時事新報・景氣研究所長　勝田貞次著

◇定價一圓五十錢　送料十錢

資本の大小でない　投資知識の優劣だ　新式投資の研究書！

新時代の新投資法を學べ。然らずんば時代に乘り遲れるだらう。不景氣時代にはそれに順じた經營法があり投資法があるのだ。茲に新時代の新投資法出現して百發百中最も收益のチヤンス多き不況時代を利用し投資すべき對象を選擇し、最も確實なるこの投資法に依つて投資すべきである。既に投資して不安を感じつゝある人は、固より自分一個の意見に自信の持ち得ない人は本書に相談して、新時代の新投資法を學べ。

東京第一・相互館　千倉書房　振替東京九七八

著者	書名	定價及送料
高田保馬著	價格と獨占	價二・三〇 送料・一二
勝正憲著	稅の話（十三版）	價一・五〇 送料・八
那須皓著	日本農業論（再版）	價二・五〇 送料・一五
高橋龜吉著	資本主義頽廢の諸相	價二・二〇 送料・一二
美濃部達吉著	行政裁判法	價二・八〇 送料・一八
小泉信三著	マルクシズムとボルシエヰズム（再版）	價二・三〇 送料・一二
小島精一著	日本金融資本論（再版）	價二・五〇 送料・一二
報知新聞調査部編	談話室（四版）	價一・五〇 送料・一八
高橋龜吉著	實用經濟學（五版）	價一・八〇 送料・一〇
平林初之輔著	文學理論の諸問題	價一・八〇 送料・一二
井上準之助著	國民經濟の立直と金解禁（二百版）	價・三〇 送料・〇四
河合榮治郎著	英國勞働黨のイデオロギー	價・五〇 送料・〇四
清澤洌著	轉換期の日本（五版）	價一・八〇 送料・一二

著者	書名	定價及送料
東京日日學藝課編	常識百話（五版）	價一・五〇 送料・〇八
白柳秀湖著	日本經濟革命史（五版）	價一・八〇 送料・一〇
小島昌太郎著	海運經濟要論	價二・五〇 送料・一二
水上鐵治郎著	英國の勞働組合	價一・五〇 送料・〇四
小島精一著	產業合理化（再版）	價一・五〇 送料・一八
向井鹿松著	經營經濟學總論	價一・五〇 送料・一八
上野陽一著	產業能率論	價一・五〇 送料・一八
松安左衛門 永著	產業改造への途（五十版）	價・八〇 送料・〇六
白柳秀湖著	親分子分（英雄編〈十版）	價一・五〇 送料・一〇
高橋龜吉著	『經濟國難來』（五版）	價一・五〇 送料・一〇
報知新聞調査部編	談話室漫談篇（五版）	價一・五〇 送料・〇八
平林初之輔著	近世社會思想講話	價一・八〇 送料・一〇
永井亨著	社會の話（五版）	價一・五〇 送料・一〇

著者	書名	定價及送料
中川靜著	廣告論	價一・五〇 送料・一八
山川均著	社會主義の話（六版）	價一・五〇 送料・一〇
白柳秀湖著	親分子分（俠客編（七版）	價一・五〇 送料・一〇
大崎厚夫著	世界を動かす十二傑（五版）	價一・五〇 送料・一〇
勝正憲著	所得稅の話（七版）	價一・六〇 送料・一〇
報知新聞經濟部編	能率增進時代（五版）	價一・五〇 送料・一〇
藤山雷太著	鮮支遊記	非賣品
福田敬太郎著	市場論（再版）	價一・五〇 送料・一八
政經研究會編	各政黨の主張（三十版）	價・三〇 送料・〇四
土田杏村著	文明は何處へ行く（五版）	價一・五〇 送料・一〇
增地庸治郎著	企業形態論	價一・五〇 送料・一八
小島精一著	世界合理化と經濟運動（五版）	價一・五〇 送料・一〇
白柳秀湖著	親分子分（浪人編〈七版）	價一・五〇 送料・一二

著者	書名	定價及送料
小林行昌著	賣買論	價一・五〇 送料・一八
石濱知行著	アメリカ資本主義發達史（四版）	價一・七〇 送料・一〇
小林行昌著	關稅と物價	價二・五〇 送料・一八
末弘嚴太郎共野間海造編	農林法規集	價五・〇〇 送料・二四
小島精一著	企業統制論	價一・五〇 送料・一〇
神長倉眞民著	財界巡禮記（五版）	價一・五〇 送料・一〇
報知新聞調査部編	ナンセンス・ジャパン（五版）	價一・五〇 送料・一〇
長野朗著	支那の眞相（五版）	價一・五〇 送料・一〇
武野藤介著	文士の側面裏面（五版）	價一・五〇 送料・一〇
上野陽一著	能率祕話（十二版）	價一・五〇 送料・一〇
中外商業經濟部編	經濟國難打開の途（五版）	價一・五〇 送料・一〇
細田民樹著	黑の死刑女囚（五版）	價一・五〇 送料・〇四
藤井悌著	英國勞働黨の組織・沿革・政策	價・五〇 送料・〇四

著者	書名	定價及送料
藤本幸太郎著	海上保險論	價一・五〇 送料一・八
上野陽一著	家庭經濟の秘訣（十版）	價・九〇 送料・〇八
勝正憲著	企業と租稅	價一・五〇 送料一・八
報知新聞經濟部編	經濟相談（十版）	價一・五〇 送料・一〇
堀眞琴著	國家論	價二・三〇 送料一・四
堀光龜著	海運（再版）	價一・五〇 送料一・八
增井幸雄著	陸運	價一・五〇 送料一・八
山川均著	勞働組合の話（四版）	價一・五〇 送料・一〇
世界經濟研究所	世界經濟（總説）（七版）	價一・五〇 送料一・四
前田美稻著	豫算の知識（三版）	價一・五〇 送料・一〇
佐藤弘著	世界經濟地理	價一・五〇 送料一・八
米野豐實著	サウエート經濟の實體	價一・五〇 送料・一〇
中村第三著	販賣革命（六版）	價一・二〇 送料・一〇
高木友三郎著	日本經濟の實體（四版）	價一・〇〇 送料・一〇
勝田貞次著	投資相談（十五版）	價一・五〇 送料・一〇
勝田貞次著	獨逸財界の機構（三版）	價一・八〇 送料・一〇
小池四郎著	社會主義か資本主義か	價一・二〇 送料・一〇
大辻司郎著	漫談集	價一・〇〇 送料・〇八
白柳秀湖著	社會展開の動力（三版）	價一・六〇 送料・一〇
上田貞次郎著	商工經營（再版）	價一・五〇 送料・一八
山田忍三著	百貨店經營と小賣業	價一・五〇 送料・一〇
後藤朝太郎著	哲人支那	價一・五〇 送料・一〇
報知新聞調査部編	ユーモア百話（六版）	價一・五〇 送料・一〇
小島精一著	アメリカ恐慌の見透し	價一・〇〇 送料・一〇
林恒彥著	生活指導	價一・五〇 送料・一〇
帝國大學新聞編輯部編	大學の運命と使命	價一・五〇 送料・一〇

著者	書名	定價及送料
清澤洌著	アメリカを裸體にす（十三版）	價一・五〇 送料・一〇
三邊金藏著	會計監査	價一・五〇 送料一・八
北林惣吉著	淺野總一郎傳（十版）	價一・五〇 送料・一〇
報知新聞經濟部編	中小產業の活路	價一・八〇 送料・一二
勝田貞次著	不景氣時代の投資法（十版）	價一・五〇 送料・一〇
白柳秀湖著	食慾と愛慾（六版）	價一・六〇 送料・一〇
勝正憲著	營業收益稅の話（九版）	價一・五〇 送料・一〇
國松豐著	工場經營論	價一・五〇 送料一・八
青野季吉著	實踐的文學論	價一・六〇 送料・一〇
北野大吉著	婦人運動の開祖 メリー・ウオルストンクラフト	價一・五〇 送料・一〇
小汀利得著	街頭經濟學（十九版）	價一・五〇 送料・一〇
近松秋江著	文壇三十年	價一・八〇 送料・一〇
北林惣吉著	淺野翁夫人正傳 女の一心	價一・二〇 送料・一〇
野守廣著	信託經營論	價一・五〇 送料一・八
內藤章著		
木村毅著	巴里情痴傳（五版）	價一・五〇 送料・一〇
宮川貞一郎譯	金本位制度の理論と實際	價一・二〇 送料・一〇
佐々弘雄著	政治の貧困	價一・五〇 送料・一〇
北林惣吉著	淺野翁物語 成功祕談	價一・五〇 送料・一〇
井關孝雄著	金融の常識（七版）	價一・五〇 送料・一〇
白柳秀湖著	住友物語（十二版）	價一・五〇 送料・一〇
小林新著	經營統計	價一・五〇 送料一・八
山崎靖純著	何が財界を動かすか（九版）	價一・五〇 送料・一〇
北林惣吉著	投資基礎學	價一・五〇 送料・一〇
內池廉吉著	倉庫論	價一・五〇 送料・一〇
清澤洌著	不安世界の大通り（九版）	價一・五〇 送料・一〇
勝田貞次著	投資の仕方（四版）	價一・五〇 送料・一〇

コ-3115

著者	書名	定價及送料
木村毅著	ラグーザお玉（五版）	價一・八〇 送料・一〇
報知新聞經濟部編	財界を牛耳る人々（九版）	價一・五〇 送料・一〇
高橋亀吉著	景氣はドウなる（九版）	價一・五〇 送料・一〇
勝田貞次著	景氣の見方（三版）	價一・五〇 送料・一〇
福田敬太郎著	商業概論	價一・五〇 送料・一八
太田哲三著	銀行簿記の常識	價一・〇〇 送料・一〇
上野陽一著	販賣心理	價一・五〇 送料・一八
都新聞編	法律相談	價一・五〇 送料・一〇
都新聞編	衞生相談	價一・五〇 送料・一〇
山本米治譯	國際金融爭覇戰	價一・〇〇 送料・一〇
山川均著	無產政黨の話（三版）	近刊
報知新聞經濟部編	小資本開業案內	近刊
小林行昌著	商業算術の常識	近刊

著者	書名	定價及送料